教8-18末吉小放課後児童クラブ施設改築本体工事

図面番号	図面名	A1縮尺	A3縮尺	備考
S-000	図面リスト			
S-001	構造関係特記仕様書-1			
S-002	構造関係特記仕様書-2			
S-003	構造関係特記仕様書-3			
S-004	構造関係特記仕様書-4			
S-005	砕石パイル工法標準図			
S-006	鉄筋コンクリート構造標準図-1			
S-007	鉄筋コンクリート構造標準図-2			
S-008	鉄筋コンクリート構造標準図-3			
S-009	木造軸組接合部標準図-1			
S-010	木造軸組接合部標準図-2			
S-011	木造軸組接合部標準図-3			
S-012	木造軸組接合部標準図-4			
S-013	木造軸組接合部標準図-5			
S-014	ボーリング柱状図			
S-021	地盤改良体伏図、基礎伏図	1/100	1/200	
S-022	1階床伏図、屋根伏図、垂木伏図	1/100	1/200	
S-023	柱頭・柱脚金物取付図	1/50	1/100	
S-031	軸組図-1	1/50	1/100	
S-032	軸組図-2	1/50	1/100	
S-033	軸組図-3	1/50	1/100	
S-034	軸組図-4	1/50	1/100	
S-041	RC部材リスト	1/40	1/80	
S-051	木架構詳細図	1/20	1/40	

MARU。architecture
有限会社マル・アーキテクチャ 一級建築士事務所 東京都知事登録第59575号
高野 洋平 一級建築士国土交通大臣登録第329238号
株式会社Dai建築DESIGN 一級建築士事務所 鹿児島県知事登録第1-6-1号
松葉瀬忠夫 一級建築士国土交通大臣登録第141001号
ARUP
オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 一級建築士事務所 東京都知事登録第35571号
富岡 良太 一級建築士登録第355621号 構造設計一級建築士登録第10495号
菅 健太郎 一級建築士登録第318575号 設備設計一級建築士登録第4096号
向井 一将 一級建築士登録第328591号 設備設計一級建築士登録第4451号

Project Title: 教8-18末吉小放課後児童クラブ施設改築本体工事
Client: 曽於市
Name of Drawing: 図面リスト
Scale:
Architect:
Drawn by:
Checked by:
Date: 2026.10.09
S-000

構造関係特記仕様書

建築概要

① 建物概要

工事名称	末吉小学校放課後児童クラブ施設
建設地	鹿児島県曽於市末吉町上町7丁目1番1号
建物用途	児童クラブ
建物規模	地下 ―階、地上 1 階、棟屋 一階

建築面積	意匠図による	延べ面積	意匠図による
軒　高	意匠図による	建物高さ	意匠図による
最高高さ	意匠図による	基礎底深さ	意匠図による

工事種別　⊙新　築　・増　築　・別棟増築　・改築
増築予定　・有　⊙無　（　・積増　・上増　）
計画供用期間　⊙短期　・標準期　・長期　・超長期

② 構造種別・仕様

部　位	構造種別・仕様	部　位	構造種別・仕様
基　礎	⊙直接基礎 （・独立 ・連続 ⊙ベタ ・＿＿＿） ・杭 ・ラップルコンクリート ⊙地盤改良	大　梁	・RC ・SRC ・S ⊙W ・＿＿
		小　梁	・RC ・SRC ・S ⊙W ・＿＿
		スラブ	・RC ・PC ・ALC ・デッキプレート ・合成スラブ ⊙W
柱	・RC ・SRC ・S ⊙W ・＿＿	壁（ブレース・筋交い）	・RC ・S ⊙W ・＿＿

③ 主体構造形式

梁間（X 方向）	・純ラーメン構造　・耐力壁付ラーメン構造 ・ブレース付ラーメン構造　・ブレース構造　⊙在来軸組工法
桁行（Y 方向）	・純ラーメン構造　・耐力壁付ラーメン構造 ・ブレース付ラーメン構造　・ブレース構造　⊙在来軸組工法

④ 計算ルート

	ルート				判定用種別				
梁間（X 方向）	⊙1–	・2–	・3	・＿＿	・RC	・SRC	・S	⊙W	
桁行（Y 方向）	⊙1–	・2–	・3	・＿＿	・RC	・SRC	・S	⊙W	
重要度係数	✱1.0	⊙1.25	・1.5						

⑤ 積載荷重

用　途	床・小梁	大梁・柱	地　震	備　考
教　室	2,300	2,100	1,100	

共通事項

① 標準仕様書／項目・特記事項の適用

1) 本書は本工事の特記仕様書であり、本工事に適用する特記事項は下記による。
特記事項の適用は、項目の番号に○印の付いたものとする。
○印の付かない場合は、＊印の付いたものを適用する。
○印と⊙印の付いた場合は、共に適用する。
2) 本書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成31(2019)年版（以下「標準仕様書」と略称）による。
3) 項目欄の（ ）の数字は「標準仕様書」の該当項目番号を示す。

② 設計図書の優先順位

設計図書に相違がある場合の優先順位は次による。
1) 質問回答書 （2～5 に対するもの）
2) 現場説明書
3) 特記仕様書
4) 図面
5) 標準仕様書

③ 提出書類等

1) 監督員の検査を受ける必要がある場合、現場内検査は検査予定日の一週間前までに、現場外検査は検査予定日の二週間前までに、連絡すること。
2) 本工事の施工に先立ち、各工事別に施工計画書および施工図を作成し、監督員の承諾を受ける。計画書は三週間前までに、報告書は施工後、速やかに提出すること。

施工計画書・報告書

⊙工程表	⊙コンクリート調合計画書
⊙仮設計画書	・鉄骨工事施工計画書・報告書
⊙土工事施工計画書	・鉄骨工事工場製作要領書
・山留計画書	・鉄骨工事現場施工計画書・報告書
・山留計測計画書・報告書	・鉄骨製品検査報告書
⊙杭工事施工計画書・報告書	・鉄骨建入れ検査報告書
⊙鉄筋工事施工計画書	・緊張工事施工計画書
⊙型枠工事施工計画書	⊙木工事加工・製作要領書（区分：構造材）
⊙コンクリート工事施工計画書	⊙木工事現場建方・施工計画書（区分：構造材）
⊙コンクリート打設計画書	・プレストレストコンクリート工事施工計画書

施工図

⊙躯体図	・鋳物製作図
・鉄筋加工図	・PC鋼材配線図
・鉄骨工作図	・デッキ割付図
⊙型枠割付図	⊙木プレカット図

3) 工事が完了したときは、下記のものを作成し監督員及び設計者へ提出する。
⊙各階伏図　⊙各断面リスト
⊙軸組図　⊙各詳細図

③ 土 工 事

特記なき限り日本建築学会 JASS3 -2009による。

① 根切り（3.2.1）山留め（3.3）

根切りにより工事現場内外に有害な影響を与えないよう、かつ土砂が崩壊しないよう関係法令等に従い、下記の工法を参考にし、請負者の責任において適切な法、または山留めを設けて根切りを行うこと。また必要に応じて計測を行い、災害の防止に努めること。
山留め壁
⊙法付けオープンカット工法
・親杭横矢板工法
・鋼矢板工法
・ソイルセメント柱列山留め壁工法
・場所打ち鉄筋コンクリート地中壁工法
支保工
・水平切張り工法　・逆打ち工法
・アイランド工法　・地盤アンカー工法
根切り底の検査
✱要　⊙不要

② 排水（3.2.2）

排水により工事現場内外、根切り底、法面などに有害な影響を与えないように、下記の工法を参考にし、請負者の責任において工事を行うこと。
排水工法
⊙釜場工法　・ウェルポイント工法
・ディープウェル工法　・バキュームディープウェル工法
・明渠・暗渠工法　・リチャージ工法

③ 埋戻し及び盛土（3.2.3）

埋戻し及び盛土の種別
・A種 山砂の類　：水締め、機器による締固め
⊙B種 根切り土の中の良質土　：機器による締固め
・C種 他現場の建設発生土の中の良質土　：機器による締固め
・D種 再生コンクリート砂　：水締め、機器による締固め

項　目	特　記　事　項
④ 建設発生土（3.2.5）	処理方法 ⊙構外搬出適切処理　・現場説明書による ・構内指定場所に堆積　・構内指定場所に敷き均し
⑤ 障害物（3.2.1）	⊙工事に支障があるものは完全撤去
⑥ 道路補修	⊙工事により破損した構内外の道路は完全補修
7. 土質調査	調査項目 ✱ボーリング　＿＿m　＿＿本 ✱標準貫入試験（ ✱ 1.0m毎 ・　）

④ 地 業 工 事

1. 既製コンクリート杭地業（4.3）	特記なき限り日本建築学会 JASS4 -2009による。 材料 （4.3.3） 種類の記号 ／ 種類 ・PHC杭 ／ 遠心力高強度プレストレストコンクリート杭 ・SC杭 ／ 外殻鋼管付コンクリート杭 ・PRC杭 ／ プレストレス鉄筋コンクリート杭 性能及び曲げ強度等による区分等は、図示による。 継手の工法（4.3.6） ・アーク溶接 ✱無溶接継手 ：（工法名：＿＿＿＿＿＿） 建築基準法に基づく指定機関において、性能を評価された工法 杭先端部の形状 ・閉そく形（ ・平たん形 ・凹形 ） ・半開放形 ・開放形 杭頭の処理（4.3.8） 所定の高さより低い場合及び杭頭を切断する場合は、設計担当者と協議すること。 NF対策 ✱なし ・あり ✱SLコンパウンド塗布（位置は図示） 防食対策 ✱なし ・あり ＿＿＿＿ 杭施工法 ・セメントミルク工法（4.3.4） アースオーガーの支持地盤への掘削深さ ✱1.5m ・＿＿m 支持地盤への根入れ深さ ✱1.0m ・＿＿m ・特定埋込杭工法（4.3.5）（建築基準法に基づく埋込み杭工法） ・認定工法 ： ＿＿ 杭材料 ： ＿＿ 認定条件等 ： ＿＿ 水平方向の位置ずれの精度 ✱100 mm ・＿＿
2. 鋼杭地業（4.4）	材料 （4.4.3） 規格番号 ／ 規格名称 ／ 種類の記号 ・JIS A 5525 ／ 鋼管杭 ／ SKK400 , SKK490 ・JIS A 5526 ／ H形鋼杭 ／ SHK400 , SHK490M 鋼杭の施工法 （4.4.4） ・プレボーリング根固工法 ・特定埋込杭工法（4.3.5） ・中堀り （工法名：＿＿＿＿） ・地盤改良 （工法名：＿＿＿＿） ・回転圧入 （工法名：＿＿＿＿） ・掘削併用回転圧入 （工法名：＿＿＿＿） 継手 （4.4.5） ・JIS A 5525（鋼管ぐい）による。 ・高力ボルト継手（H形鋼杭） ・無溶接継手 ：（工法名：＿＿＿＿） 建築基準法に基づく指定機関において、性能を評価された工法 溶接部の確認（4.4.5） ✱「標準仕様書」4.3.6(4) に準ずる。 ・ 杭頭の処理（4.4.6） 所定の高さより低い場合及び杭頭を切断する場合は、設計担当者と協議すること。 杭頭を切断する場合 ・ガス切断 防食方法 ・腐食代を見込む方法 ・塗装による方法 ・コンクリートを巻き立てる方法 ・電気防食による方法 ・なし NF対策 ✱なし ・あり ✱SLコンパウンド塗布（位置は図示） 水平方向の位置ずれの精度 ✱100 mm ・＿＿
3. 場所打コンクリート杭地業（4.5）	掘削工法 ・アースドリル工法 ・リバースサーキュレーションドリル工法 ・オールケーシング工法（ ・ ベノト工法 ・ CD工法 ） ・深礎工法 ・BH工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 孔壁安定液 ・無水掘削 ✱安定液使用 ＿＿＿＿ ケーシング使用 ✱施工に必要な長さとする。 設計GL－＿＿mまで 排水方法 ✱構外搬出適切処理 ・＿＿ 掘削土の処理方法 ✱構外搬出適切処理 ・＿＿ コンクリートの種別 打設方法 ／ 水セメント比 ／ 粗骨材 ／ 単位セメント量 ／ 備考 ／ Fc ／ スランプ ・空中打設 ／ 60%以下 ／ 25mm ／ 270kg/㎥以上 ／ ＿＿ ／ 24,27,30 ／ 21cm ✱水中打設 ／ 55%以下 ／ (20) ／ 330kg/㎥以上 ／ ＿＿ ／ 33,36 ／ 23cm ・構造体強度補正値(S) ✱3 N/mm2 ・0 N/mm2 ・セメント ✱高炉セメントB種 ・普通ポルトランドセメント ・混和剤 ✱AE減水剤 ・高性能AE減水剤 ・空気量 ✱4.5% ・単位水量 ✱200kg/㎥以下 ・鉄筋の最小かぶり厚さ ✱100mm ：但し手掘り深礎の場合は事前に監督員の確認を得ること 試験及び検査 試験練り ✱要 ・不要 試験練りの監督員の立会い ✱立会う ・立会わない コンクリート圧縮強度試験 1日1回以上かつ150㎥ごとをする。 （供試体は適当な間隔をおいたコンクリート運搬車3台より採取し、養生は標準水中養生とする。） スランプ試験 杭1本ごとに最初の運搬車について行い、全運搬車のコンクリートについて目視検査を行う。

項　目	特　記　事　項
	フープ ✱図示 ・＿＿ 支持地盤への根入れ深さ ✱1.0m ・＿＿ 水平方向の位置ずれの精度 ✱100 mm ・＿＿ 鉄筋及び鋼管の種別 種　別 ／ 材　質 ／ 呼び径 ／ 適用箇所 ✱異形鉄筋 ／ JIS G 3112 ／ ✱SD295 ／ ・SD345 ／ ・SD390 ・異形PC鋼棒 ／ JIS G 3109 SBPD1275/1420に準拠 ／ U13 ,U16 ／ 認定品 ・鋼管 ／ JIS A 5525 ／ ・SKK400 ／ ・SKK490
④ 基礎の設計支持力	・杭の許容支持力 杭径(mm) ／ 許容支持力(kN/本) ／ 支持層 ／ 備　考 ⊙直接基礎の許容支持力度 基礎形式 ／ 基礎深さ(m) ／ 支持層 ／ 長期許容支持力度(kN/㎡) ベタ基礎 ／ 0.3 ／ 砂質土 ／ 57
⑤ 試験杭及び支持力の確認（4.2.2）	試験杭の施工、報告書は「標準仕様書」4.2.5 による。 試験杭の仕様 ・打撃工法の支持力算定式 ✱支持力算定式方法は設計者に確認すること。 ・特定埋込杭工法 ✱「標準仕様書」4.3.5 による。 ・セメントミルク工法 ✱「標準仕様書」4.3.4 による。 ・場所打ちコンクリート杭 ✱「標準仕様書」4.5.5, 4.5.6 による。 ・杭の孔壁測定 ＿＿ヶ所 試験杭の位置 ✱図示 ・最初の1本目
⑥ 載荷試験（4.2）	・杭の載荷試験（4.2.3） 試験位置 ／ 杭径（mm） ／ 試験種別 ／ 最大荷重（kN） ／ 備　考 図示 ／ *** ／ ✱鉛直 ・水平 ／ *** ／ 試験の方法は「敷地調査共通仕様書　令和元年版」による。 ・平板載荷試験（4.2.4） 試験位置 ／ 試験深さ(m) ／ 箇所数 ／ 確認する長期支持力(kN/m2) 図示 ／ 設計GL－ ／ *** ／ *** 設計GL－ ／ ／ 設計GL－ ／ ／ 荷重制御 ✱段階式載荷 ・段階式繰返し載荷 試験の方法は「敷地調査共通仕様書　平成11年版」による。
⑦ 砂利及び砂地業（4.6.2）（4.6.3）	材料 ⊙再生クラッシャラン、切込砂利又は切込砕石とし、粒度は、JIS A 5001（道路用砕石）による C-40程度のものとする。 厚さ ⊙60 mm ・図示
⑧ 捨コンクリート地業（4.6.2）（4.6.4）	材料 ⊙「無筋コンクリート」(6.14)による。 厚さ ⊙50 mm ・図示
⑨ 地盤改良（4.7）（4.8）	工法 ・深層混合処理工法 ・浅層混合処理工法 ⊙アクパド工法 改良体基準強度 ✱＿＿kN/㎡（支持層：＿＿層） 施工箇所 ⊙図示 厚み ⊙支持層まで ・＿＿m 施工前試験 ✱改良対象となる地盤の試料土にて室内配合試験を行う 施工後試験 ✱改良土よりサンプルを採取し行う
⑩ 床下防湿層（4.6.2）（4.6.5）	材料 ⊙ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上、重ね合せ及び基礎梁際ののみ込みは250mm程度とする。 適用箇所 ⊙建物内の土に接する土間スラブ（土間コンクリートを含む）の直下。 但し、捨コンクリートがある場合、捨コンクリートの直下とする。 なお、断熱材がある場合は、断熱材の直下とする。 砂利地業の上に直接床下防湿層を施工する場合は、防湿層の下に目つぶし砂を敷き均す。

⑤ 鉄 筋 工 事

鉄筋工事は特記なき限り下記による。
日本建築学会 JASS5 -2022

① 異形鉄筋（5.2.1）

種　別	材　質		呼び径	備　考
⊙鉄筋コンクリート用棒鋼	JIS G 3112	⊙SD295	D10–D16	
		⊙SD345	D19–D25	
		・SD390	D29–D35	
		・SD490		
・異形PC鋼棒	JIS G 3109 SBPD1275/1420に準拠		U10.7/U12.6	認定品
・				

材料はJIS規格品とする。

② 溶接金網 及び鉄筋格子（5.2.2）

線径（mm）	網目（mm）	適　用　箇　所
⊙φ6	100×100	防水押えコンクリート補強筋 外壁開口ひび割れ防止筋（雑壁のみ）

溶接金網はJIS G 3551の規格品とする。
鉄筋金網は材質JIS G 3112 又はG 3117 SD295Aの規格品とする。

③ 鉄筋の継手（5.3.4）（5.4）（5.5）（5.6）

接合方法	適　用　箇　所
⊙ガス圧接継手	D19以上の柱・梁の主筋
⊙重ね継手	ガス圧接以外の継手（D19以上の壁・耐圧版の鉄筋）
・重ねアーク溶接	SRC造仕口部の帯筋
・機械式継手	
・溶接継手	

上記仕様と異なる継手を使用する場合は、監督員に確認すること。

・機械式継手 及び 溶接継手の性能
・SA級　✱A級　・B級

④ 鉄筋のかぶり厚さ（5.3.5）

⊙鉄筋の設計かぶり厚さは、鉄筋コンクリート構造標準図による。
・耐久性上不利な箇所などの鉄筋のかぶり厚さは下表による。

かぶり厚さ	適　用　箇　所
配筋基準図＋10mm	

⊙最小かぶり厚さは目地底から算定すること。また、コンクリート増打ち部分はかぶり厚さに算入しないこと。

項　目	特　記　事　項
5. 帯筋（別図2.2）	✱H形　・W－Ⅰ形(溶接閉鎖型) ・SP形(スパイラル筋)　・丸形
⑥ ガス圧接（5.4）	ガス圧接技量資格者 ⊙手動圧接 （社）日本圧接協会がJIS Z 3881の試験に基づき認めた技量資格種別2種以上（呼び径D32以下）の者とする。 ・自動圧接 （社）日本圧接協会に認定された者とする。 試験及び検査 検査項目 ／ 試験方法 ／ 時期・回数 ／ 備　考 ⊙外観検査 ／ 目視 ／ 圧接作業完了時に全数 ／ ⊙抜取り検査 ／ ・引張 ／ 1検査ロットに ・2本 ・5本 ／ JIS Z 3120 ／ ⊙超音波探傷 ／ 1検査ロットに JIS Z 3062 ／ 30箇所以上 1検査ロットは1組の作業班が1日に行った圧接箇所の数量及び200箇所以内とする。 コンクリート打設前に必ず監督員に検査結果を報告すること。 鉄筋の種類が異なる場合、形状が著しく異なる場合、及び径の差が7mmを超える場合は圧接をしない事。ただし、鉄筋の種類が異なる場合においてはSD390とSD345の圧接を行うことができる。 試験片を採取した部分の修正 ✱同種の鉄筋を両端圧接する。 ・同種の鉄筋（D32以下）を両端重ね継手とする。 不良圧接の補正 ⊙「標準仕様書」5.4.11 不合格圧接部の修正による。
⑦ 梁貫通孔補強（別図7.1）	補強方法 ⊙図示による。現場にて変更が生じた場合は、監督員の指示に従う。 補強箇所 ⊙該当設備図及び電気図による。 ・梁貫通位置図による。 現場にて位置・寸法の変更が生じた場合は、監督員の指示に従う。
8. 防錆鉄筋	防錆鉄筋 使用箇所： 性能：＿＿ヶ月程度

⑥ コンクリート工事

コンクリート工事は特記なき限り 日本建築学会 JASS5-2022による。

① 環境性能

資源循環等級	⊙等級0	・等級1	・等級2	・等級3
低炭素等級	⊙等級0	・等級1	・等級2	・等級3

② レディーミクストコンクリート（6.2.1）

レディーミクストコンクリートの類別
⊙1類（JIS Q 1001 及び JIS Q 1011 に基づき、JIS A 5308によるJIS表示許可工場で製造されたコンクリート）
・2類（1類以外の工場で製造され JIS A 5308 に適合したコンクリート）

レディーミクストコンクリートの選定
⊙同一打込み工区に2つ以上の工場のコンクリートの打込みは認めない。
⊙コンクリート主任技師以上の技術者が常駐する工場とする。

③ コンクリートの適用箇所（6.2.1）

コンクリートの種類	設計基準強度: Fc (N/mm²)	スランプ (cm)	適用箇所
⊙普通コンクリート–1	21	18	躯体全般
・普通コンクリート–2			
⊙気乾単位容積質量	⊙2.3 t/m3	・＿＿	

⊙構造体強度補正値（S） θ：コンクリート打込みから材齢28日までの予想平均気温

結合材の種類	コンクリートの予想平均気温 θ の範囲(℃)	構造体強度補正値 Fc≦36	構造体強度補正値 36＜Fc≦48
早強ポルトランドセメント	0 ≦ θ ＜ 5	6	
	5 ≦ θ	3	
普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 ※1	0 ≦ θ ＜ 8	6	9
	8 ≦ θ	3	
中庸熱ポルトランドセメント	0 ≦ θ ＜ 11	6	3
	11 ≦ θ	3	
低熱ポルトランドセメント	0 ≦ θ ＜ 14	6	3
	14 ≦ θ	3	
高炉セメントB種・C種 ※1	0 ≦ θ ＜ 13	6	
	13 ≦ θ	3	
フライアッシュセメントA種・B種 ※1	0 ≦ θ ＜ 9	6	
	9 ≦ θ	3	
普通エコセメント	0 ≦ θ ＜ 6	6	
	6 ≦ θ	3	

※1 A種、B種、C種についてはA種相当、B種相当、C種相当も含む。

⊙調合管理強度（6.3.2）
✱Ⅰ類コンクリートの場合には、設計基準強度（Fc）+強度補正値（S）以上の強度値の呼び強度を調合管理強度とする。

⊙暑中におけるコンクリートの取扱い（6.12）
適用期間 ⊙日平均気温の平年値が25℃を超える期間
荷卸し時のコンクリートの温度
⊙35℃ 以下　・＿＿ ℃以下
混和剤 ⊙AE減水剤遅延形
流動化コンクリートの場合は、ベースコンクリートにAE減水剤遅延形を用い、流動化剤は標準形とする。
構造体強度補正値
⊙6 N/mm2以上、かつ上記の構造体強度補正値以上　・＿＿

⊙寒中コンクリート（6.11）
適用期間と調合強度の決め方
⊙打込み日を含む旬の日平均気温が4.0℃以下の期間
（調合管理強度および調合強度による方法(6.3.2)）
⊙材令91日までの積算温度M91が840° D・D未満の期間
（積算温度により定める方法）
水セメント比
⊙60%以下　・＿＿ %以下
初期養生期間
⊙圧縮強度が 5N/mm2 に達するまで
・打設の日から　日間

④ 塩化物量 及びアルカリ総量（6.5.4）

アルカリ骨材反応抑制対策
⊙アルカリ骨材反応に関して無害と判定された骨材を使用する。
・低アルカリ形のポルトランドセメントを使用する。
・コンクリート中の総アルカリ量を酸化ナトリウム換算で 3.0kg/m3 以下とする。
（「標準仕様書」6.5.4(2)により判定）
・高炉セメント(B,C種)、フライアッシュセメント(B,C種)を使用する。

コンクリートに含まれる塩化物量
⊙コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量として 0.30kg/m3 以下とする。

MARU。architecture
有限会社マル・アーキテクチャ 一級建築士事務所 東京都知事登録第59575号
髙野 洋平 一級建築士国土交通大臣登録第329238号
株式会社Da建築DESIGN 一級建築士事務所 鹿児島県知事登録第1–6–1号
松葉瀬忠夫 一級建築士国土交通大臣登録第141001号
ARUP
オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 一級建築士事務所 東京都知事登録第35571号
富岡 良太 一級建築士登録第355621号 構造設計一級建築士登録第10495号
菅 健太郎 一級建築士登録第318575号 設備設計一級建築士登録第4096号
向井 一将 一級建築士登録第328591号 設備設計一級建築士登録第4451号

Project Title	Client	Name of Drawing	Scale	Architect	Date
教8-18末吉小放課後児童クラブ施設改築本体工事	曽於市	構造関係特記仕様書–1		Drawn by	2026.10.09
				Checked by	S–001

項 目	特 記 事 項
⑤ 普通コンクリート-1 (6.3)	セメント　✱普通ポルトランドセメント　⊙高炉セメントB種 水セメント比　㊙65%以下　・___ %以下 単位水量　⊙175kg/m3 以下　✱185 kg/m3 以下 単位セメント量　㊙270kg/m3 以上　・___ kg/m3 以上 混和材料　✱AE減水剤　⊙高性能AE減水剤 水　㊙回収水は使用しない　・上澄み水　・スラッジ水 骨　材　⊙粗骨材最大寸法は、砂利25mm とする。砕石、高炉スラグ粗骨材、電気炉酸化スラブ粗骨材及び再生粗骨材は20mm とする。 ・再生骨材H　細骨材___ %以上　粗骨材___ %以上 ・_____　細骨材___ %以上　粗骨材___ %以上 乾燥収縮　・乾燥収縮ひずみ低減のための材料 ・石灰石骨材　・膨張材　・収縮低減材 ⊙低収縮等級（収縮率上限値 ×10^{-6}） ⊙一般（800）　・等級1（650）　・等級2（500）　・等級3（400）
普通コンクリート-2 (6.3)	セメント　✱普通ポルトランドセメント　・___ 水セメント比　✱65%以下　・___ %以下 単位水量　✱175kg/m3 以下　✱185 kg/m3 以下 単位セメント量　✱270kg/m3 以上　・___ kg/m3 以上 混和材料　✱AE減水剤　・高性能AE減水剤 水　✱回収水は使用しない　・上澄み水　・スラッジ水 骨　材　・粗骨材最大寸法は、砂利25mm とする。砕石、高炉スラグ粗骨材、電気炉酸化スラブ粗骨材及び再生粗骨材は20mm とする。 ・再生骨材H　細骨材___ %以上　粗骨材___ %以上 ・_____　細骨材___ %以上　粗骨材___ %以上 乾燥収縮　・乾燥収縮ひずみ低減のための材料 ・石灰石骨材　・膨張材　・収縮低減材 ・低収縮等級（収縮率上限値 ×10^{-6}） ・一般（800）　・等級1（650）　・等級2（500）　・等級3（400）
6. 軽量コンクリート (6.10)	種別　・1種（気乾比重：1.8 ） ・2種（気乾比重：___） セメント　✱普通ポルトランドセメント　・ 水セメント比　✱55%以下　・50%以下 単位水量　・175kg/m3 以下　✱185 kg/m3 以下 単位セメント量　✱320kg/m3 以上　・340 kg/m3 以上 混和材料　✱AE減水剤　・高性能AE減水剤 人工軽量骨材　✱最大寸法 15 mm
7. マスコンクリート (6.13)	セメント　✱高炉セメントB種　・中庸熱ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント　・フライアッシュセメントB種 ・シリカセメント 水セメント比　✱65%以下　・___ %以下 スランプ　✱15 cm以下 単位水量　・175kg/m3 以下　✱185kg/m3 以下 単位セメント量　・290kg/m3 混和材料　✱AE減水剤遅延形　・高性能AE減水剤遅延形 ✱コンクリート用高炉スラグ微粉末4000 調合強度を決める材令 ✱28日　・___ 構造体強度補正値（S）は本特記仕様書6.3による。 荷卸し時のコンクリートの温度 ✱35℃以下　・___ ℃以下 コンクリートの温度測定 ・測定箇所:_____ ・測定点　:___ 点 ・測定期間:___ 日
8. 高強度コンクリート	適用強度　設計基準強度Fcが48N/mm2を超え80N/mm2以下の普通コンクリート セメント　✱普通ポルトランドセメント 水セメント比　✱50%以下 単位水量　・175kg/m3 以下　✱185 kg/m3 以下 単位セメント量　✱320kg/m3 以上 混和材料　✱高性能AE減水剤標準形　・高性能AE減水剤遅延形 水　✱回収水は使用しない　・上澄み水 スランプ　・48 ＜ Fc ≦ 60　スランプフロー60cm以下 ・60 ＜ Fc ≦ 80　スランプフロー60～65cm 構造体強度補正値（S） セメントの種類 / 構造体強度補正値 48＜Fc≦60 / 60＜Fc≦80 普通ポルトランドセメント　12 / 15 中庸熱ポルトランドセメント　$_{28}S_{91}$　5 / 6 $_{56}S_{91}$　10 / 14 低熱ポルトランドセメント　$_{28}S_{91}$　3 / 3 $_{56}S_{91}$　10 / 14 コンクリート中の塩化物量 ・塩化イオンとして 0.3 kg/㎥ 以下
⑨ 無筋コンクリート (6.14)	種類 / 設計基準強度（換算強度:Fc）（N/mm²） / 気乾比重 / スランプ / 適用箇所 ⊙普通 / ㊙18 / 2.3 / 15 / ⊙均しコンクリート ⊙防水保護コンクリート ⊙かさ上げコンクリート ・軽量 / / / /
	強度補正　㊙不要　・要
⑩ 試験 (6.9)	調合計画書 ㊙コンクリートの調合計画書を提出し、監督員の承諾を受ける。 ㊙調合計画において、各指定事項を満足できない場合は協議する。 試験練り　✱要　⊙不要 監督員の立会い　✱立ち会う　⊙立ち会わない 使用材料の試験 使用材料は下記の材料の試験結果を提出し、監督員の承諾を受ける。 ㊙セメント　㊙骨材　㊙水　㊙混和材料 ㊙アルカリシリカ反応性試験結果 フレッシュコンクリートの試験 試験項目 / 備考 / 試験回数 ㊙スランプ / / ㊙強度試験用供試体採取時 ㊙空気量 / / ・単位容積質量 / 軽量コンクリート / ㊙温度 / / ㊙打込み当初及び強度試験用供試体採取時 ㊙塩化物量 / /
	塩化物量測定器は、「フレッシュコンクリートの塩化物量測定器の技術評価方法」（R7年8月国土技術政策総合研究所、建築研究所、土木研究所）に基づき技術評価を受けたものとする。

項 目	特 記 事 項
	コンクリートの強度試験（表6.9.2） 試験項目 / 試験の目的 / 養生方法 / 材齢 調合管理強度の管理試験 / 調合管理強度の管理 / JIS A 1132による標準養生 / 28日 構造体のコンクリート強度の推定試験 / 構造体コンクリートの28日圧縮強度の推定 / 現場封かん養生 又はコア供試験体 / 28～91日 型枠取外し時期の決定 / 現場水中養生/現場封かん養生 / 必要に応じて 寒中コンクリートの強度試験（表6.11.1） 試験項目 / 試験の目的 / 養生方法 / 材齢 調合管理強度の管理試験 / 調合管理強度の管理 / JIS A 1132に準ずる養生 / 28日 構造体のコンクリート強度の推定試験 / 構造体コンクリートの強度が設計基準強度を満足することの推定 / 工事現場における封かん養生 又はコア供試験体 / 28日を超え91日以内 試験回数 ㊙コンクリートの種類が異なるごとに1日1回以上かつ打込み工区ごと、打込み日ごと、150㎥を超える場合は、150㎥以下にほぼ均等に分割した単位ごと
⑪ 型枠 (6.8)	㊙型枠の仕様は意匠図による。 ・コンクリート打放し部:_____
⑫ 型枠の存置期間及び取外し (6.8.5)	㊙せき板の最小存置期間は下記による。 施工箇所 / 基礎、梁側、柱、壁 セメントの種類 / 早強ポルトランドセメント / 普通ポルトランドセメント 混合セメントA種 / 混合セメントB種 / 中庸熱及び低熱ポルトランドセメント 存置期間中の平均気温 コンクリートの材齢による場合（日）※1　15℃以上 / 2 / 3 / 5 / 6 5℃以上 / 3 / 5 / 7 / 8 0℃以上 / 5 / 8 / 10 / 12 コンクリートの圧縮強度による場合　計画供用期間の級が短期および標準の場合はコンクリートの圧縮強度が5N/mm²以上、長期および超長期の場合は10N/mm²に達するまで 推定方法 / 圧縮強度試験による ※1 計画供用期間の級が短期及び標準の場合かつせき板存知期間中の平均気温が10℃以上の場合に限る。 ✱支柱の最小存置期間は下記による。 ✱スラブ下及び梁下の支保工の存置期間 設計基準強度以上が得られるまでとする。 上記より早く取り外す場合は、安全に支持できる強度を構造計算により求め、その圧縮強度を実際のコンクリートの圧縮強度が上回ることを確認する。ただし、最低12N/mm²としなければならない。 ㊙片持ち梁および片持ちスラブの支保工存置期間 設計基準強度以上が得られるまでとする。
⑬ 養生 (6.7)	湿潤養生の期間 計画供用期間の級 / 短期および標準 / 長期および超長期 結合材の種類 早強ポルトランドセメント / ㊙3<◇>日以上 ※2 / ✱5日以上 普通ポルトランドセメント 混合セメントA種、A種相当 エコセメント ※1 / ㊙5日以上 / ✱7日以上 中庸熱ポルトランドセメント 低熱ポルトランドセメント 混合セメントB種、B種相当 / ㊙7日以上 / ✱10日以上 混合セメントC種、C種相当 / ㊙9日以上 / ✱14日以上 高強度コンクリート　普通ポルトランドセメント 中庸熱ポルトランドセメント 低熱ポルトランドセメント / ㊙3日以上 / ㊙4日以上 ※1 エコセメントの計画供用期間の級は、短期および標準のみとする。 ※2 ◇は、膨張剤を使用するコンクリートの養生期間を示す。
⑭ 目地	仕様 / 適用箇所 打継水平目地 / ⊙図示 / ・図示　⊙意匠図による 化粧目地 / ⊙図示 / ・図示　⊙意匠図による 誘発目地 / ⊙図示 / ・図示　⊙意匠図による 構造スリット / ・図示 / ・図示
⑮ 止水板	仕様 / 使用箇所 ・塩化ビニール製 JIS K 6773 / / ・鉄板入りアスファルト系止水板外貼型 / 中厚 200×6 / ・水膨張性ゴム　シール / 20×10 / ⊙可塑性ベントナイト系止水材 / ── / 地下打継ぎ部（壁内及び屋外面共）

7. 鉄 骨 工 事

	鉄骨工事は特記なき限り下記による。 日本建築学会　JASS6-2007, 鉄骨精度測定指針、鉄骨工事技術指針
1. 一般鋼材 (7.2.1)	使用材の規格・種類は下記により、適用箇所は図示による。 板厚が40mmを超える部位については、TMCP鋼（認定品）を用いる。 鋼材の規格・種別 種 別 / 規 格 / 種類の記号 ・圧延鋼材 / JIS G 3101 / ・SS400　・SS490 JIS G 3106 / ・SM400A　・SM400B　・SM490A　・SM490B JIS G 3136 / ・SN400A　・SN400B　・SN400C　・SN490B　・SN490C 認定品 / ・SA440B　・SA440C ・耐候性鋼材 / JIS G 3114 / ・SMA400AW　・SMA400AP　・SMA490AW　・SMA490AP ・圧延棒鋼 / JIS G 3138 / ・SNR400A　・SNR400B　・SNR490B ・軽量形鋼 / JIS G 3350 / ・SSC400 ・炭素鋼管 / JIS G 3444 / ・STK400　・STK490 JIS G 3475 / ・STKN400B　・STKN490B ・角形鋼管 / JIS G 3466 / ・STKR400　・STKR490 認定品 / ・BCR295 ・BCP235　・BCP325 ・ / ・ 鋼材の規格 ✱鋼材は規格品とし、規格証明書を監督員に提出し承諾を受けること。 但し、下記の鋼材はJIS規格（JIS G 3101 SS400）相当品とすることができる。 等辺山形鋼　不等辺山形鋼　溝形鋼　I形鋼 ・「標準仕様書」7.2.10の試験を行う。

項 目	特 記 事 項
	鋼材の材料 ✱高炉材使用個所　・柱　・大梁　・___ ・電炉材使用個所　・小梁　・___
2. 高力ボルト (7.2.2) (7.4)	ボルトの種類 ・JIS型高力ボルト　JIS B 1186 の規格品 （セットの種類　✱2種（F10T）　・___） ✱トルシア型高力ボルト（認定品） （セットの種類　✱JISの2種（S10T）　・___） ・トルシア型超高力ボルト（認定品） （セットの種類　✱SHTB　・___） ・耐候性高力ボルト （セットの種類　✱JISの2種と同等品　・___） 摩擦面の処理 ✱「標準仕様書」7.4.2による。尚、ミルスケールはディスクグラインダー掛け等により原則として添え板全面の範囲について除去したのち、一様に錆を発生させる。 試験及び検査 ✱規格証明書又は、製造管理方法及び品質管理試験結果による確認「標準仕様書」7.2.10 ✱摩擦接合面の確認「標準仕様書」7.4.2 ✱締付け検査「標準仕様書」7.4.8 ・すべり係数試験 ・JIS B 1186 に準じた試験
3. 普通ボルト (7.2.3)(7.5)	✱「標準仕様書」7.2.3, 7.5による. 強度区分 ✱4.6　・4.8
4. ターンバックル (7.2.6)	ターンバックル（JIS A 5540）のターンバックル胴（JIS A 5541） ✱割枠式　・パイプ式 ターンバックルボルト（JIS A 5542） ✱羽子板ボルト　・両ネジボルト　・アイボルト
5. 溶接接合 (7.6)	溶接施工管理技術者（7.6.2） ✱溶接施工管理技術者は、「標準仕様書」7.6.2による。 技能資格者（7.6.3） ✱AW検定合格者を従事させる。　・技量付加試験を実施する。 ・標準仕様書による エンドタブ（7.6.7） ✱鋼製エンドタブを使用する場合は、「標準仕様書」7.6.7による。 ✱鋼製エンドタブ以外のエンドタブを使用する場合は監督員の承諾を得ること。 ✱仕口部はノンスカラップ工法とする。 溶接部の検査及び試験（7.6.10）, (7.6.12) 検査項目 / 工事監理者による立会い検査 / 第三者検査機関による検査 ・現寸検査 / ✱行う　・行わない / ・組立検査 / ✱行う　・行わない / ✱行う　・行わない ・溶接後検査 / ✱行う　・行わない / ✱行う　・行わない 第三者検査機関の組立検査は各節1回とする。 溶接部の試験（7.6.12） 検査箇所 / 検査方法 / 検査率 施工者による社内検査 / 検査率 第3者試験機関による検査 工場突合せ溶接部 / 超音波探傷検査 / 100% / 30% 外観（目視）検査 / 100% / 100% 隅肉溶接 / 外観（目視）試験 / 100% / 100% 現場突合せ溶接部 / 超音波探傷検査 / 100% / 100% 抜き取り方法は柱1節ごとどと、検査ロットは溶接部位ごとに構成し、1検査ロットの溶接箇所数300個程度とする。抜き取りはランダムサンプリング方法を原則とする。 第三者検査機関は、監督員の承認するCIW認定の会社とし、超音波探傷検査第3種技術者が行い、監督員の承諾を得る。 検査規準 ・外観・精度検査規準 ✱JASS 6「鉄骨精度検査規準」による。 ・超音波探傷検査による溶接部の合否判定規準 ✱日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」の疲労を考慮しない溶接部 （1）溶接部に引張応力が作用する場合による。 ・放射線試験の規準 ✱JIS Z 3104 の3級以上を合格とする。 ・内質検査（検査位置については監督員の承諾を得る） ✱建築工事施工計画等の報告と建築材料試験の実務手引による。
6. スタッド溶接及びデッキプレート溶接 (7.7)	スタッド溶接材料 種 類 / 規 格 / 径 / 備 考 ・頭付きスタッド / JIS B 1198 / ✱図示 / ・異形棒鋼スタッド / 引張強さ400N/m2以上 ・KSW400 ・SD295 ・___ / D16以下 / 引張強さ490N/m2以上 ・KSW490 ・SD345 ・___ / D19以下 / デッキプレートはJIS G 3352の規格品とする。（7.2.7） 種 別 / 種類の記号 / 備 考 ・デッキプレート / ・SDP1T　・SDP1TG（✱Z12　・Z27） ・SDP2　・SDP2G（✱Z12　・Z27） / ・合成スラブ用デッキプレート / ・SDP1T　・SDP1TG（✱Z12　・Z27） ・SDP2　・SDP2G（✱Z12　・Z27） / ・フラット型デッキプレート / ・SDP1T　・SDP1TG（✱Z12　・Z27） ・SDP2　・SDP2G（✱Z12　・Z27） / デッキプレート貫通溶接可能箇所 ✱小梁　・小梁及び大梁 デッキプレート溶接 ✱アークスポット溶接　・すみ肉溶接 ・プラグ溶接　・焼抜栓溶接 アーク溶接、アークスポット溶接、スタッド溶接は日本建築学会「建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事」,「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」に準じて行う。 溶接工は薄板溶接に十分な技量を有する者とし、JIS Z 3801（溶接技術検定における試験方法及びその判定基準）の有資格者とする。
7. さび止め塗装 (7.8) (18.3) (18.7)	鉄鋼面の素地ごしらえの種別（18.2.3） 種 別 / 適用箇所 / 備 考 ・A種 / / ・B種 / *** / 対候性塗料塗り ✱C種 / さび止め塗装面全般 /

項 目	特 記 事 項
	鉄鋼面のさび止め塗料種別（18.3.2） ✱鉄骨部のさび止め塗料種別は下記とする。 ・鉄骨造部分　✱As種(JIS K 5674 1種) ・対候性塗料範囲　1回目Cs種(JIS K 5552 2種) 2･3回目Ds種(JIS K 5551 A種) ・溶融亜鉛メッキ範囲　✱標準仕様書（18.3）による ・デッキプレート下端　✱さび塗装なし　・___ ・耐火被覆面　✱さび塗装なし　・___ ・SRC造の鋼製スリーブ内面　✱A種(JIS K 5674 1種) 鉄鋼面さび止め塗料塗り（18.3.3） ✱見え掛り部分は A種、見え隠れ部分は B種とする。
8. 溶融亜鉛めっき工法 (7.12) (14.2.2)	適用箇所　✱外部に接する部分（屋上階、屋外階段） めっき面の素地ごしらえ　✱「標準仕様書」18.2.4のA種とする。 めっきの種類及び付着量　✱溶融亜鉛めっき（JIS H 8641）のA種（HDZT77） 高力ボルト　✱高力ボルトは溶融亜鉛めっき高力ボルト1種A（F8T相当）とする。 ✱摩擦面の処理は「標準仕様書」7.12.5による。
9. 耐火被覆 (7.9)	種類及び適用箇所（耐火時間は意匠図による） 工 法 / 適用箇所 / 備 考 ・吹付け工法（　） / / ・成形板張り工法（　） / / ・巻付け工法 / / ・ / /
10. アンカーボルト (7.2.4) (7.10.3)	・構造用アンカーボルト　✱JIS B 1220 転造（✱ABR400　・ABR490） ・JIS B 1221 切削（・ABM400　・ABM490） ・JIS G 3101のSS400 ・建方用アンカーボルト　✱JIS G 3101のSS400 ・半固定柱脚（既製品） 種 別 / アンカーボルト / 備 考 ・ハイベース / 認定品 / 日立機材（株） ・ベースパック / 認定品 / 旭化成建材（株） ・NCベース / 認定品 / 日本鋳造（株） アンカーボルトの保持及び埋込み工法の種別 種 別 / 適 用 箇 所 / 備 考 ✱A種 / / 支持材に固定 ・B種 / / 型枠の類に固定 柱底均しモルタルの工法 種 別 / 適 用 箇 所 / 備 考 ✱A種 / / 無収縮モルタル圧入（50mm） ・B種 / / モルタル詰め（30mm） 均しモルタル(7.2.9) ✱無収縮モルタル　・モルタル 無収縮モルタルの品質及び試験方法は下表による。 項目 / 品質及び試験方法 ブリーディング / 練混ぜ2時間後のブリーディング率：2.0%以下 無収縮性 / 材齢 7日：収縮しない。 圧縮強度 / 材齢 3日：25 N/mm2以上 材齢 28日：45 N/mm2以上 試験方法 / NEXCO試験方法 312-1999(無収縮モルタル品質管理試験方法)による。 試験　✱行う　・行わない
11. 建方 (7.10.4) (7.10.5)	建方工法及び仮設材 ✱建方は請負者の責任で安全に行う。 検査（「標準仕様書」7.10.5による） ✱建入れ検査（建方精度は、日本建築学会「鉄骨精度測定指針」による） ・たわみ測定（適用箇所:　　）
12. 梁貫通孔補強	補強方法 ✱図示による。現場にて変更が生じた場合は、監督員の指示に従う。 補強箇所 ✱該当設備図及び電気図による。 ・梁貫通位置図による。 現場にて位置・寸法の変更が生じた場合は、監督員の指示に従う。
13. 鉄骨製作工場	✱建築基準法施行規則第1条の3第1項による認定を取得し、かつ監理者が事前に承認した下記グレード以上の工場とする。 ・S グレード　・H グレード　・M グレード　・（それ以外）
14. 関連工事による溶接 (7.6.9)	✱金属工事及び建具工事など鉄骨部材に溶接を必要とする場合は、原則工場にて下地鉄骨を予め取り付けること。又、現場にて取り付けを行う場合は母材に悪影響を与えないように予熱等の処置を行い、7.6.3による技量を有する溶接技能者が行う。
15. 寸法精度受入検査	対物検査の方法 ・対物検査1　✱対物検査2

8. そ の 他

1. 設備関係注意事項	（1）特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。設ける場合は工事監理者の承認を得ること。 （2）設備機器の架台および基礎については工事監理者と設計者の承認を得ること。 （3）床スラブ内に設備配管等を埋め込む場合は、鉄筋のかぶり厚を確保し、設備配管径はスラブ厚さの1／3未満、管の間隔は原則として200mm以上とする。ただし工事監理者の承認を得た箇所については、5本を上限として管の間隔を3d以上とすることができる。 （4）建築物に設ける昇降機にあっては、構造耐力上安全なものとして以下の構造方法による。 ・令第129条の4（エレベーターの構造上主要な部分） ・令第129条の5（エレベーターの荷重） ・令第129条の6第一号（かご内の人又は物による衝撃に対しての安全） ・令第129条の8第1項（駆動装置及び制御器の地震等の転倒、移動防止対策） （5）建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして以下の構造方法による。 ・建築設備の支持構造及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとすること。 ・屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に緊結すること。 ・煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。 ・煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。 （6）建築物に設ける給水、排水その他の配管設備 ・風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。 ・建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。 ・管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。 ・管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の振動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。 ・給湯設備は、平成24年国土交通省告示1447号に基づき、風圧、土圧および水圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。 ・法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあっては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。

⑫ 木 質 工 事

① 適用範囲 (1.1.1)

木工事は特記なき限り下記による。設計図書に相違がある場合の優先順位は下記による。
1.「公共建築木造工事標準仕様書　令和7年版」国土交通大臣官房省庁営繕部
2.「木造計画・設計基準　令和7年度」国土交通大臣官房庁営繕部
3.「木造住宅工事仕様書」住宅金融支援機構
4. 日本建築学会　JASS11−2005

上記の仕様書に記載なき場合は、公共規格又はこれに準ずる規格を適用する。
項目欄()の数字は「木造工事標準仕様書」の該当項目番号を示す。

防耐火設計の区分
- 耐火建築物
  - ルートA（仕様基準）　- ルートB（性能検証）　- ルートC（高度な検証）
- 準耐火建築物
  - イ準耐火建築物　（木質部材：　- 被覆型　- 燃えしろ設計 ）
  - ロ準耐火建築物一号
- ⊙その他建築物

鉛直荷重を支持しない木質部材については特記による。

本章は建築物及び工作物の構造上主要な部分に木材・木質材料を用いる工事に適用する。

② 木質材料 (5.2.1) (5.2.2) (5.2.3) (6.2.1) (6.2.2) (6.2.3) (9.2.1) (9.2.2)

- 構造用製材
  特記なき限り、構造用製材を対象とし、製材の日本農林規格(JAS)に準拠する。

部位	樹種名	強度等級	乾燥処理	保存処理

1. 記入なき梁桁、母屋、垂木等の曲げ材のうち、見えがかり材は目視等級材の甲種2級、見えない部分の木材は甲種3級とする。その他は乙種2級とする。
2. 主要構造部には機械等級区分製材を用いることを原則とする。
3. 乾燥の際背割りを行う材（　　）
   ただし、見えがかり部・相欠き部材・構造用合板の釘接合面には行わない。
4. 含水率は平均含水率とし下地材等に用いる場合でも含水率D20以下であることを確認する。
5. 強度等級を指定した材料は特に、材料の欠点の節、目切れ等に注意して材料を選定し、仕口や接合部に欠点が当たらないように加工する。
6. 材の曲がりについては、目視等級1級相当とする。

⊙構造用集成材
特記なき限り、構造用集成材の日本農林規格(JAS)に準拠する。
ラミナの枚数や特殊な試験については必要に応じて特記する。

部位	樹種名	品名	強度等級	材面の品質	使用環境	ホルムアルデヒド放散量
柱	スギ	同一等級	E65−F255	1種	A	F☆☆☆☆
梁	スギ	対称異等級	E65−F225	1種	A	F☆☆☆☆

- 構造用単板積層材(LVL)
  特記なき限り、単板積層材の日本農林規格(JAS)に準拠する。
  単板の樹種や防虫処理については必要に応じて特記する。

部位	樹種名	区分	曲げ性能	水平せん断性能	使用環境	ホルムアルデヒド放散量

⊙構造用合板
特記なき限り、合板の日本農林規格(JAS)に準拠する。
単板の樹種や防虫処理については必要に応じて特記する。

部位	強度等級	曲げ性能基準（1級のみ）	板面の品質	接着の程度	厚さ[mm]	ホルムアルデヒド放散量
屋根・壁	2級	──	C−D	特類	24	F☆☆☆☆

- 直交集成板(CLT)
  特記なき限り、直交集成板の日本農林規格(JAS)に準拠する。

部位	樹種名	品名	強度等級	種別	使用環境	ホルムアルデヒド放散量

- 構造用パネル(OSB)
  特記なき限り、構造用パネルの日本農林規格(JAS)に準拠する。

部位	曲げ性能	厚さ[mm]	ホルムアルデヒド放散量

項 目

③ 接合具 (12.2.4) (12.2.5) (12.2.6)

接合具の仕様は下記による。
特記なき限り接合具は一般普及品を使用することを原則とし，
特殊なものを使用する場合は監理者の承諾を得る。

接合具に錆を生じる恐れのある場合は適切な防錆処理を施す。鋼材の表面処理は特記による。
標準めっき処理は溶融亜鉛めっき鋼板：Z27(JIS G 3302)、電気亜鉛めっき：
Ep−Fe/Zn5/CM2とする。

くぎ、木ねじ
くぎはJIS A 5508の規格に、木ねじはJIS B 1112　1195、JIS B 1135 1195の規格による。

[mm]

種　類	材　質			径	長さ	使用箇所	頭部・胴部形状
* N 釘	鉄	JIS G 3532	SWM−N			耐力壁、床板、屋根	皿頭網目付き/スムース
	ステンレス	JIS G 4309	SUS304			耐力壁、床板、屋根	平頭フラット及び網目付き/スムース
⊙CN 釘	鉄	JIS G 3532	SWM−N			耐力壁、床板、屋根	平頭フラット

構造用ビス　[mm]

製品名	径	長さ	使用箇所
⊙シネジック製 タルキックⅡ TK5x165Ⅱ	5.5	165	垂木と横架材、転び止めと横架材の接合
⊙シネジック製 パリネードS　PS8−230	8	230	2−G30の接合
⊙シネジック製 ネダノット　ND5−70	5	70	屋根面と非構造部材の接合

ボルト、ナット、座金
ボルト・ナットはJIS B 1180、JIS B 1181の規格による。　[mm]

種　類	材　質			径	長さ	防錆処理、使用箇所
* 呼び径六角ボルト * 有効径六角ボルト * 全ネジボルト	鉄	JIS G 3101 JIS G 3505 JIS G 3507−1	SS400 SWRM8〜10 SWRCH8〜10			* 電気亜鉛めっき * 溶融亜鉛めっき
	ステンレス	JIS G 4303	SUS304			生地
⊙アンカーボルト	鉄	JIS G 3101 JIS G 3138 JIS G 3505 JIS G 3507−1	SS400 SNR400B SNR490B SWRM8〜10 SWRCH8〜10			⊛電気亜鉛めっき * 溶融亜鉛めっき
	ステンレス	JIS G 4303	SUS304			生地
* 角座金 ⊛丸座金	鉄	JIS G 3131	SPHC SS400			⊛電気亜鉛めっき * 溶融亜鉛めっき
	ステンレス	JIS G 4303	SUS304			生地

座金は用途ごと（引張、せん断）に下表により使い分ける。　[mm]

座金の大きさ ＼ ボルト径	8	10	12	16	20	24
引張りを受けるボルト　厚さ	4.5	4.5	6	9	9	13
角座金の一辺	40	50	60	80	105	125
丸座金の直径	45	60	70	90	120	140
せん断を受けるボルト　厚さ	3.2	3.2	3.2	4.5	6	6
角座金の一辺	25	30	35	50	60	70
丸座金の直径	30	35	40	60	70	80

ドリフトピン、ラグスクリュー(コーチボルト)、
ジベル(スプリットリング、シアプレート)、木栓　[mm]

種　類	材　質			径	長さ	防錆処理、使用箇所
* ドリフトピン	鉄	JIS G 3101 JIS G 3505 JIS G 4051	SS400 SWRM8〜10 S10C	12	75	* 電気亜鉛めっき * 溶融亜鉛めっき
* ラグスクリュー（コーチボルト）	鉄	JIS B 1180 JIS B 1051 JIS G 3101	強度区分4.6又は4Tに適合する炭素鋼			* 電気亜鉛めっき * 溶融亜鉛めっき
* スプリットリング * シアープレート	鉄	JIS G 3101	SS400			* 電気亜鉛めっき * 溶融亜鉛めっき
* 木栓	竪木					

木栓はナラ・ケヤキ・カシ等で気乾比重0.6以上の広葉樹とし、節や目切れ等の欠点の無いものとし、先端は3〜5mm程度面取りをすること。
ドリフトピンにはテーパーを設け、テーパー部の長さは10mm以下とする。

ラグスクリューボルト(LSB)　[mm]

種　類	材　質	径	長さ	防錆処理	使用箇所
* ラグスクリューボルト	SWCH45K (JIS G 3507−2)			* 電気亜鉛めっき	

接合金物、鋼材

種　類	材　質	短期許容接合耐力	タイプ、メーカー、品名、防錆処理等
* 筋交端部の接合部			
* 柱頭・柱脚接合部*			
* 横架材接合部			
*			✱ 溶融亜鉛めっき * 電気亜鉛めっき
⊙製作金物	リスト参照		✱ 溶融亜鉛めっき * 電気亜鉛めっき

接着剤(現場接着接合)
*

項 目

④ 材料品質の検査方法

構造用木質材料
現場または加工工場に搬入された構造用木質材料は、加工に先立ち下記の項目の受け入れ検査を実施し、速やかに管理者に報告する。

木質材料	確認項目	確認の方法
* 目視等級区分構造用製材	樹種、種類、等級、含水率、寸法、保存処理、表面仕上げ	⊙製造工場の認定書等の写し
* 機械等級区分構造用製材	樹種、等級、含水率、寸法、保存処理、表面仕上げ	⊙日本農林規格（JAS)表示の確認 * 日本工業規格（JIS)表示の確認
⊙ 構造用集成材	樹種、品名、強度等級、材面の品質、使用環境、ホルムアルデヒド放散量、寸法	⊙材面の確認 ⊙寸法の確認
* 構造用LVL	樹種、品名、曲げ性能、水平せん断性能、使用環境、ホルムアルデヒド放散量、寸法	
* 直交集成版（CLT）	樹種、品名、強度等級、種別、使用環境、ホルムアルデヒド放散量、寸法、反り・ねじれ	
⊙ 構造用合板	単板の樹種、品名、等級、接着の程度、材面の品質、板面の品質、ホルムアルデヒド放散量、寸法、反り・ねじれ	
* 構造用パネル（OSB）	品名、等級、ホルムアルデヒド放散量、寸法、反り・ねじれ	

・必要項目を満たさない材料は用いない。

無等級製材
現場または加工工場に搬入された無等級製材は、加工に先立ち下記の要領で受け入れ検査を実施し、速やかに監理者に報告する。また監理者の立会いを要する検査については、指定された試験要領に基づいて、適時抜取り検査を実施する。社内検査で試験本数や抜取り率の指定がない場合は原則全数とする。検査の結果、性能を満たさない材料については適用箇所を変更する等の措置を行う。　[%]

部材	確認する仕様	確認者	材種等級	外観検査	寸法検査	含水率測定 表示	含水率測定 全乾重量法	含水率測定 含水率計	ヤング係数測定 表示	ヤング係数測定 静的試験	ヤング係数測定 動的試験
	⊙無等級材	社内	材種:100	100	100		*1	100		*1	100
		監理者	○	○	○			○			○

- 含水率測定の時期は、監理者の指示による。

*1：1荷口（樹種・伐採地が同じであれば1荷口）につき確認する試験本数を示す。
1. 監理者欄の○は立会い検査が必要であることを示す。
2. 材種は表示または出荷証明書を確認し、外観・寸法検査は日本農林規格に準じて行う。
3. 全乾法や静的ヤング係数試験は、含水率計は住木センター認定品を、動的ヤング係数は全国木材組合連合会の認定品を用いて測定することを原則とする。
4. 全乾法や静的ヤング係数実際に用する同一部材の中から抽出し、製材の日本農林規格に規定される曲げ試験に準ずる。
5. ヤング係数の動的試験結果の等級区分は、日本農林規格の構造用製材の機械等級区分に準じる
6. 特記無き場合は、含水率計による測定は、製材加工後の工場出荷前に行う。
7. 特記無き場合は、動的試験は製材後（継手などの工場加工前に）に行う。

接合具
現場または加工工場に搬入される全ての接合具について、下記の要領で受け入れ検査を実施し、速やかに監理者に報告する。

接合具の種類	確認項目	確認の方法
⊙くぎ ⊙木ねじ、特殊釘 ⊙ボルト・ナット * ラグスクリュー（コーチボルト） ⊙座金 * ドリフトピン	鋼材種別、径、長さ、表面処理、外観	⊙表示 ⊙鋼材証 * 規格証 ⊙性能証 ⊙寸法等 * 外観 * 検査
* ラグスクリューボルト	鋼材種別、径、形状、仕上げ	
* ジベル	材種、曲げ強度	
* 木栓、車知		

1.「確認の方法」は下記により確認することを示す。これらのうち必要なものを監理者と確認し承諾を得ること。
表示：JIS、Zマーク、Cマーク等規格品であることを示す梱包、刻印、出荷証明書など
鋼材証：ミルシートの写し
規格証：Zマーク同等認定書、Cマーク同等認定書
性能証：性能認定書、性能評価書、試験成績書など
寸法等：寸法などの確認
外観：外観の確認
検査：立会い目視検査（監理者）
2. 設計図書などに明記された接合具であることを確認する。同等性能の接合具を用いる場合には、その主旨を監理者に申し出て承認を得る。
3. 木製品の接合具については、あらかじめ曲げ試験などにより性能の確認を行いその結果を報告する、また必要に応じて立会いによる性能確認を実施する。

接合金物
現場または加工工場に搬入される全ての接合金物について、下記の要領で受け入れ検査を実施し、速やかに監理者に報告する。

接合金物	確認項目	確認の方法
⊙アンカーボルト・座金	座金・鋼材種別、径、長さ、形状・表面処理	⊙表示 ⊙鋼材証 * 規格証 ⊙性能証 ⊙寸法等 * 外観 * 検査
* Zマーク金物 * Zマーク同等認定品 * Cマーク金物 * Dマーク金物 * Sマーク金物 * Xマーク金物 * その他規格金物等（品名　　）	鋼材種別、形状、表面処理、製造所	
* 製作金物	鋼材種別、形状、仕上げ、溶接	

1.「確認の方法」は接合具と同様とする。これらのうち必要なものを監理者と確認し承諾を得ること。

項 目

⑤ 木材の加工 (5.4.2) (5.4.3) (6.4.5) (9.4.4)

加工時の注意
製材に背割りのある場合、曲げ材は断面の弱軸と背割りの方向を一致させる。

加工寸法の精度
図面寸法は仕上がり寸法とする。
下記を除き、2.木質材料に示す材の仕上げ後の断面寸法の許容差は各々の農林規格の寸法許容差に準ずる。ただし、無等級材の寸法許容差が構造用製材の農林規格の寸法許容差に準ずる。また上限値が制限なしとなっている場合には、協議による。
材種：（　　）
（　　）
1. 構造用製材、化粧ばり構造用集成柱の材長
   * 軸組み工法の継手仕口の場合：±1.0mm以下
   * ボルト接合工法の場合　　：±1.0mm以下
2. 構造用集成材、構造用単板集成材の材長
   * 軸組み工法の継手仕口の場合：±1.0mm以下
   * ボルト接合工法の場合　　：材長の±0.4%以下
3. ボルト孔径(dはボルト径)
   * 集成材等　：d+1.0mm(d≦M12)、d+2.0mm(d≧M16)
   * 接合金物等：d+1.0mm(d≦M12)、d+1.5mm(d≧M16)
4. ドリフトピンの孔径（dはドリフトピン径）
   * 集成材等　：d±0mm
   * 接合金物等：d+1.0mm(d≦φ12)、d+1.5mm(d≧φ16)

木質材料に示す構造用面材の寸法許容差は各々の日本農林規格または日本工業規格の寸法許容差に準ずる。

表面仕上げ

材料	表面仕上げ

塗装
素地調整：汚れ付着物を除去する
下地塗り：品名（　　）、塗装部位・範囲（　　）

面取り
* 柱：（　　）mm
* 梁：（　　）mm

加工状況の検査
⊙立ち会い検査
⊙外観検査　⊙加工寸法検査
⊙施工者自主検査記録の提出

⑥ 耐久性（防腐・防蟻・耐候処理） (4.2.1) (4.2.2) (4.2.3) (4.2.4)

木材の防腐・防蟻処理
* 高耐久材（心持ち材または集成材）の使用
  * 心材のみ使用
* 工場処理材（注：現場の加工、切断、穿孔箇所などは、現場処理に準ずる）
  JAS保存処理材　：K5　K4　K3　K2　K1
  AQ認証保存処理材　：1種　2種　3種
⊙現場処理（注：接合部、亀裂部、コンクリートなどに接する部分は特に入念な処理を行う。給排水塩化ビニル管に接する部分は、薬剤による損傷を防ぐため管を保護する。処理方法は、日本しろあり対策協会の標準仕様書に準ずる。）
⊙塗布　* 吹付　* 含漬
特記なき場合は、処理量：300ml/m²、処理階数：上記塗布量の範囲で2回処理
使用薬剤：日本しろあり対策協会または日本木材保存協会の認定品とする。

使用部位	高耐久材	工場処理材	現場処理材
土台	* ひば	* K3　*（　　）	⊙塗布
外周柱下部1m	* ひのき	* K3　*（　　）	⊙塗布
水回り	*（　　）	* K3　*（　　）	*（　　）
その他	*（　　）	* K　*（　　）	*（　　）

耐侯処理
* 建築関係図書及び建築関係仕様書による。
* 下記による。

部位	塗布の種類	色の有無
	* 造膜型　* 含侵型	* 着色（　　色）　* 透明
	* 造膜型　* 含侵型	* 着色（　　色）　* 透明
	* 造膜型　* 含侵型	* 着色（　　色）　* 透明
	* 造膜型　* 含侵型	* 着色（　　色）　* 透明

項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項
⑦. 接合方法 (5.4.2) (5.4.3) (5.5.7) (5.5.8) (5.5.9) (5.5.10) (5.5.11) (5.5.12) (5.5.13) (6.2.3) (6.5.8) (6.5.9) (6.5.10) (6.5.11) (6.5.12) (6.5.13) (6.5.14) (6.5.15) (6.5.16) (9.4.4) (9.5.8) (9.5.9) (9.5.10) (9.5.11) (9.5.12) (9.5.13)	⊙仕口、継手の原則 1. 仕口、継手の方法は構造図による。特記無き場合は 共通事項 1. 3)の標準仕様書に示された在来構法用の一般的な適用慣例に従う。 2. 採用する方法は監理者の承認を得る。 3. 仕口、継手の各部に作用する応力を考慮し、部材の引き抜けが生じないように、原則として羽子板ボルトや木栓など、引張り抵抗をする補強部材を併用する。 4. 下記接合部の項目について 3.接合具に記載された仕様での施工を確認する。 5. 接合部付近に節・目切れなどの欠点がある場合は、耐力を低減する、接合具の本数を増加するなど監理者と協議して承認を得る。 ⊙釘接合 1. 釘は材の繊維に対して乱に打ち、割れを生じないように端距離、縁距離、釘間隔を大きく取る。 2. 釘の長さは材厚の2.5倍以上とする。 3. 1ヶ所の釘の本数は2本以上とする。 4. 釘に錆を生じるおそれのある場合は、適切な防錆処理を施す。 5. 自動釘打ち機を使用する場合は、面材に釘がめり込まないようにする。そのために、釘打ち機の圧力を適切に調整するか、弱めの圧力で打ち込んだうえ、最後は手打ちを用いるなどの方法による。 6. 構造用面材を耐力壁とする場合の釘打ち方法は「昭和56年建設省告示1110号」による。 7. 構造耐力上主要な部分において、釘を引き抜き方向に抵抗させることは避ける。 8. 木口面に打たれた釘は、引き抜き方向に抵抗させることはできない。 ⊙木ねじ接合 1. 構造耐力上主要な部分において、木ネジを引き抜き方向に抵抗させることは避ける。 2. 木口面にねじ込まれた木ネジは、引き抜き方向に抵抗させることはできない。 3. 木ネジの先孔の径：針葉樹・・・ 主材 0.6d 、側材 0.8d （dはネジ径） 広葉樹・・・ 主材 0.8d 、側材 1.0d （先孔の深さは、主材へのねじ込み深さの2／3程度とする。） 4. ねじ込みには適切な道具を使い、ハンマーなどで打ち込んではならない。 5. ねじ込みを容易にしたり、損傷させないために潤滑油などを用いてもよい。 ・木質構造用ビス接合 1. 木口面にねじ込まれた構造用ビスは、引抜き方向に抵抗させることはできない。 2. 先孔を設ける場合の先孔の径は、以下のとおりとする。 比重が0.5以上の樹種・・・0.6d～0.75d （dは呼び径） 上記以外の樹種 ・・・0.4～0.7d （先孔の深さは、主材へのねじ込み深さの2/3程度とする。） ⊙ボルト接合 1. 締め付けに先立ち、ボルトの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適しているものであることを確認する。 2. ボルトの締め付けは2回以上に分けて行い、1群のボルトの締め付けは一様となるように行う。 3. ボルトの締め付けは、座金が部材にめり込む程度とし、めり込み音が発生した時点で締め付けを完了する。 4. 締め付けを完了したボルトは、ねじ部がナットから2山以上突き出ていることを確認する。 5. 一度締め付けたボルトについても、木材の収縮によるボルトの緩みをチェックし、緩んだものについては再度締め直しを行う。但し、座掘り座金等、ナットと座金が一体となって土台に埋め込まれるタイプのものについては使用条件による。 引張力を負担する構造上主要な箇所のボルトで、設計図書で指定する部位のものについては、ダブルナット・スプリングワッシャ等、緩み止めのための適切な処置を行う。 ・ラグスクリュー（コーチボルト）接合 1. 構造耐力上主要な部分において、ラグスクリューを引き抜き方向に抵抗させることは避ける。 2. 座金の厚さと大きさは、同じ胴径のボルト接合部における規定値を用いる。 3. 締め付けに先立ち、ラグスクリューの長さ、材質、呼び径等が施工箇所に適しているものであることを確認する。 4. ネジ部の先孔の径：比重 0.5以上の樹種・・・ 0.6d～0.75d （dはネジ径） その他の樹種 ・・・・・ 0.4d～0.7d （長さはネジ部の長さと同寸以上とする。） 5. ラグスクリューは先孔にレンチなどで回しながら挿入し、ハンマーなどで打ち込んではならない。 6. ねじ込みを容易にするためや、損傷させないために潤滑油などを用いてもよい。 7. 胴部の先孔の径は胴部と同径とし、長さも胴部と同寸とする。 8. 一度ねじ込んだラグスクリューを抜き直し、再びねじ込むことは避ける。 9. 鋼板を側材に用いる場合のラグスクリューは、切削ネジタイプとし、転造ネジを用いてはならない。また、鋼板の孔径は以下のとおりとする。 呼び径M12以下 :+1.0mm 呼び径M16以上 :+1.5mm ・ドリフトピン接合 1. ドリフトピンは孔に密着させ、木材に対し遊びがあってはならない。 2. ドリフトピンは原則として、集成材やLVL等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材を用いる場合はKD材とする。 3. 施工に際しては、孔に対しテーパーのある側を先端にして打ち込み、無理な打撃を加えてはならない。 4. 規格金物とセットで使用されるドリフトピンを他の接合部に使用してはならない。 ・ジベル接合 1. 木部材は接合部付近の割れ、節、目切れなどの欠点がないよう注意し、彫込み・打ち込みまたは圧入に際して割れを生じないよう、ジベルの種類に応じた断面と余長をもたせる。 2. 接合材は十分圧着させる。木材の収縮によるボルトの緩みをチェックし、緩んだものについては再度締め直しを行う。 3. 特殊ジベルは使用箇所、使用方法を確認する。 ・木栓接合 1. 木材の仕様は、基本的に45φ以下、母材の強度以上の材とし、ナラ・ケヤキ・カシなどで気乾比重0.6以上、含水率15%以下の広葉樹で節や目切れなどの欠点がないものとする。 2. 木栓は孔に密着させ、木材に対し遊びがあってはならない。 3. 木栓を孔に対して打ち込む際、折れ曲がりや割れ、頭部のつぶれなどが生じないように注意し、無理な打撃を与えてはならない。 4. 木栓は湿気の少ない場所で保管し、現場においても水に濡れないよう注意する。 ・グルードインロッド接合(GIR) 1. グルードインロッド接合とは、軸組み部材の木口に孔を開け、鋼棒等を挿入して、樹脂接着剤等を注入・充填させることにより、接着剤の付着抵抗と鋼棒等の引張によって、応力を伝達する接合をいう。 2. グルードインロッド接合は、原則として、集成材やLVL等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はKD材とする。 3. 施工に際しては、所定の適用範囲や材料、手順、接着剤の使用環境、養生方法等を遵守して適正に行う。 ・ラグスクリューボルト接合(LSB) 1. 認定の方法に適合した先孔寸法とし、適切な治具などを用いてまっすぐ加工する。 2. 打ち込みに先立ち、長さ、材質、呼び径などが打込み箇所に適しているものであることを確認する。 3. ラグスクリューボルトは先孔に対しレンチなどで回しながら挿入するものとし、ハンマーなどで打ち込んではならない。 打込みに際しては、適切な治具などを用いてまっすぐ打ち込む。また、材質を傷つけにくい低速電動レンチを使用することが作業性も良く、精度も確保できるので望ましい。 4. 柱脚接合部の柱木口には、干割れ防止、柱木口からの吸湿・吸水による含水率の増加の防止のための木口シールを行う。	⑧. 運搬・建方 (5.5) (6.5) (9.5)	⊙接合金物による接合 1. 羽子板ボルト、ひら金物、短冊金物、かね折り金物および箱金物などの取り付けは、それぞれの仕様に基づき、接合両材の間が密着するように締め付ける。 2. 3.3節に示す大断面材用の接合金物に関しては、それぞれの仕様に基づく。 ⊙接着接合 1. 接合部の耐力は、使用材料および使用方法に適した接着性能の試験を行い確認する。 2. 接着剤を用いた接合を行う手順は、接着剤製造業者の推奨する接着仕様に従うとし、実験によって接合部に要求される耐力と耐久性が立証された場合はその際の作業条件を標準とする。 ・その他の方法による接合 使用材料および使用方法は構造図によるものとし、監理者の承諾を得る。 輸送計画 製品の輸送に当たっては、建方計画に支障がないように、道路状況、現場作業手順等を考慮し十分な検討を行う。また、輸送時に製品の品質を損なわないようにする。 集積・保管 集積の際には適当な depth 引敷材などを挿入するなどして 材面 の損傷を受けないように 積層 などする。降雪や降雨に対する保護としてシート養生を行う。ただし、エアコンの効いた室内は乾燥による割れが発生するため避ける。 建方計画 アンカーボルトの施工方法、建方スペース、建方機械、搬入・仕分け、地組み、足場計画、建方、養生、安全対策などについて検討し、木工事施工計画書としてまとめる。 施工時の安全性 建方作業中および作業後、横架材上に諸材料または機械などの重量物を積載する場合、 による諸外力に対しては、必要に応じて仮設補強等の処置を施す。 アンカーボルトの施工 1. 芯出しは、型板を用いて基準墨に正しく合せて適切な機器等で正確に行う。 2. アンカーボルトの保持は、形鋼などを用いるなどして正確に行い、移動、下部の振れなどのないように固定する。 3. アンカーボルトの保持及び埋込み工法 ・A種 （ ） ⊙B種 （ ） ・その他 （ ） 4. アンカーボルトはダブルナットとする。 ・適用除外 （ ） 5. 土台の穴あけはコンクリート打設後、ボルトの通り芯からのずれを実測してから行う。 建方精度 1. 建方の精度基準は下記による。 ⊙建物の倒れ ⊙e≦H／1,000 ・（ ） ⊙梁の水平度 ⊙e≦L／700+5mm かつ e≦15mm （節点間のレベル差） ・（ ） ⊙建物のわん曲 ⊙e≦L／2,500mm かつ e≦25mm ・（ ） ⊙柱据え付け面の高さ及びアンカーボルトの位置 柱据え付け面の基準高さからの誤差 ⊙±3mm以下 ・（ ） 通り芯からの誤差 ・±3mm以下 ・（ ） 階高 ・－5mm≦ΔH≦+5mm ・（ ） 2. 建方精度に不具合が発生した場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。 施工状況の検査 1. アンカーボルト施工時の立会い検査 ・目視による精度確認 ・計測機器による精度確認 ・アンカーボルト径、間隔 ・施工者自主検査記録の提出 （ ） 2. 地組み時の立会い検査 ・目視による精度確認 ・計測機器による精度確認 ・材料の加工寸法検査 ・施工者自主検査記録の提出 （ ） 3. 建方時の立会い検査 ・目視による精度確認 ・計測機器による精度確認 ・材料の加工寸法検査 ・施工者自主検査記録の提出 （ ） 4. 建方後の施工状況の検査 ⊙防腐・防蟻処理 ⊙材料の加工寸法検査 ⊙接合具の施工状況 ⊙接合金物の施工状況 ・その他 （ ） ・施工者自主検査記録の提出 （ ） 5. 最終確認 工事中に発生するボルトの緩み、接合具および接合金物に影響する材の割れ、接着面のはがれ等に注意を払い、不具合が発生した場合は是正する。補強の必要がある場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。 ・施工者自主検査記録の提出 （ ）		
		⑨. 製作工場・プレカット工場の選定・承諾	設計図書に基づき、当該工事の規模、加工内容に応じた技術と設備を備え、かつ自主管理能力を有した製作工場及び木工技能者を選定し、監理者の承諾を得る。				
		10. モックアップ	必要に応じてモックアップを製作する。 ・モックアップの製作 部位 （ 露出柱 ）				

MARU。architecture
有限会社マル・アーキテクチャ 一級建築士事務所 東京都知事登録第59575号
高野 洋平 一級建築士国土交通大臣登録第329238号
株式会社Dai建築DESIGN 一級建築士事務所 鹿児島県知事登録第1-6-1号
松葉瀬忠夫 一級建築士国土交通大臣登録第141001号
ARUP
オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 一級建築士事務所 東京都知事登録第35571号
富岡 良太 一級建築士登録第355621号 構造設計一級建築士登録第10495号
菅 健太郎 一級建築士登録第318575号 設備設計一級建築士登録第4096号
向井 一将 一級建築士登録第328591号 設備設計一級建築士登録第4451号

Project Title	敎8-18末吉小放課後児童クラブ施設改築本体工事	Client	曽於市
Name of Drawing	構造関係特記仕様書-4	Scale	
Architect		Date	2026.10.09
Drawn by			
Checked by			

S-004

建築技術性能証明　GBRC第11－07号改4(更2)『アクパド工法Ⅱ(乾式施工)』特記仕様書
教8-18末吉小放課後児童クラブ施設改築本体工事

1.工法概要
　本工法は螺旋状の回転翼を軟弱地盤に圧入回転させて掘削し、この掘削孔に砕石を充填圧入することで締固められた砕石柱状体を築造し、この柱状体と原地盤の支持力を複合させて利用する地盤補強工法である。

2.特記仕様
　(1)オーガー径　Φ400㎜　(2)掘削深度 L=3.00･3.25m　(3)本数:95本
　(4)設計接地圧:qa=15.00KN/㎡　(5)改良後の支持力確認試験(表面波探査試験)
　(6)使用する砕石はJIS A5001道路用砕石で規格された砕石S-40(40-20)
　　又はJIS A5005(コンクリート用砕石及び砕砂)で規格された砕石(コンクリート用砕石4020)を使用する。

3.改良深度及びパイル配置の決定
　本工法の長期許容支持力度は、スウェーデン式サウンディング試験(以下SWS試験と称する)又は、標準貫入試験によって得られたN値、N値を用いて計算された粘着力㎝、内部摩擦角Φmを日本建築学会による支持力式「建築基礎構造設計指針P.105」に準じた式に代入して算定するが、それにより得られた計算結果に基づき砕石パイルの改良深さ及び配置間隔を決定する。

4.施工計画書
　本工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書には次の事項を明記する。
　(1)工事概要　(2)工事内容　(3)予定工程表　(4)施工機械
　(5)使用材料　(6)施工方法　(7)施工管理　(8)安全対策
　(9)安全管理体制

5.施工方法
　(1)砕石の締固めは加圧締固めとする。
　(2)砕石の1回当たりの投入量は掘削孔内10㎝～15㎝とする。
　(3)概略施工手順は下記の通りとする。
　　1.パイルの中心位置に、オーガーの中心を合わせて機械をセットする。
　　2.セットが完了したらオーガーを回転させ、掘削を開始する。
　　3.所定の深度に達したらベルコンを介し砕石を投入し、締固めを開始する。
　　4.投入締固めを継続的に行う。
　　5.仕上高は現況GLまでとする。(GL設定は不要)

6.施工管理
　(1)パイルの鉛直度　改良機本体のロッドを傾斜計(マグネット式水平器)で計測する。
　(2)掘削深度　改良機装着の施工管理計測装置で計測し記録する。
　(3)砕石投入量　改良機装着の施工管理計測装置で計測し記録する。
　(4)押込み力　改良機装着の施工管理計測装置で計測し記録する。

7.支持力確認試験
　本工法は原地盤と砕石パイルとの複合地盤を構築する工法であるので、施工後に杭間の長期許容支持力度を表面波探査法により確認する。
　尚、表面波探査法は(財)先端建設技術センターの技術審査証明(技審証第1305号)を取得しているビイック株式会社に委託して行う。
　(1)合格判定値　長期許容支持力度(計算値＋杭間支持力の合算)以上をもって合格とする。
　(2)確認試験箇所　本工事は改良後の杭間代表箇所とする。
　(3)品質不良箇所の処置　品質に不良があった場合は、監理者と協議し適切な処置を行う。

8.施工報告書
　工事完了後、次の事項について報告書を作成し監督員に提出する。
　(1)出来形平面図(施工番号･試験箇所･写真管理箇所)　(2)支持力確認試験結果
　(3)施工年月日　(4)パイル径　(5)掘削深度　(6)砕石投入量
　(7)押込み力　(8)施工状況写真

全国アクパド工法協会

MARU。architecture
有限会社マル･アーキテクチャ 一級建築士事務所 東京都知事登録第59575号
高野　洋平 一級建築士国土交通大臣登録 第329238号
株式会社Dai建築DESIGN 一級建築士事務所 鹿児島県知事登録第1-6-1号
松薗潮忠夫 一級建築士国土交通大臣登録 第141001号
ARUP
オーブ･アラップ･アンド･パートナーズ･ジャパン･リミテッド 一級建築士事務所 東京都知事登録第35571号
富岡　良太 一級建築士登録第355621号 構造設計一級建築士登録 第10495号
菅　健太郎 一級建築士登録第318575号 設備設計一級建築士登録 第4096号
向井　一将 一級建築士登録第328591号 設備設計一級建築士登録 第4451号

Project Title: 教8-18末吉小放課後児童クラブ施設改築本体工事
Client: 曽於市
Name of Drawing: 砕石パイル工法標準図
Scale:
Architect:
Drawn by:
Checked by:
Date: 2026.10.09
S-005

鉄筋コンクリート構造標準図

1. 一般事項

(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

(2) 本標準図及び構造図面にない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」最新版および、日本建築学会「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」最新版による。

(3) 特記事項の適用

本標準仕様書内における下記事項は、○印の付いたものを適用する。

1. 直線重ね継手長さは、表 1-3-1による。

表 1-3-1

指示欄	構造計算方法	直線重ね継手長さ L1
•	保有水平耐力計算等を用いたため、建築基準法施行令第73条2項の適用を除外する。	表 2-4-1のL1
⊙	上記以外	表 2-4-1のL1かつ40d以上(軽量コンクリートを使用する場合は、50d)とする。

2. 地中梁配筋は、以下のタイプのものを採用する。
⊙ A1　• B1　• C1　• B2 (基礎に浮き上がりが生じる場合)　• C2 (基礎に浮き上がりが生じる場合)
2. 地中小梁配筋は、以下のタイプのものを採用する。
• A　⊙ B
3. 構造スリットは、以下のものを採用する。
• 在来工法　⊙ 既製品

2. 鉄筋加工、かぶり

(1)鉄筋の表示記号

表 2-1-1

異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
記　号	•	×	⌀	●	○	⊙	⊗	◎	●	⌀	⊗

(2)鉄筋の折曲げ形状及び寸法

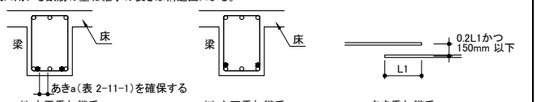
表 2-2-1

折曲げ形状	折曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径(D)
180° フック (余長4d以上)	180° 135° 90°	SD295 SD345	D16以下	3d以上
			D19～D41	4d以上
135° フック (余長6d以上)		SD390	D41以下	5d以上
90° フック (余長8d以上)	90°	SD490	D25以下	5d以上
			D29～D41	6d以上

1. ▽は折り曲げ開始点を示す。この開始点位置は、以下の図面において共通とする。
2. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フックまたは135° フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。
3. 90° 未満の折曲げ内法直径は構造図による。記載のない場合、表 2-2-1の90° フックの場合と同じとする。

(3)継手の基本事項

1. 対象とする継手は重ね継手・ガス圧接継手・フレア溶接継手とし、その他(機械式継手・突合せアーク溶接継手など)の仕様は構造図による。
2. 柱梁主筋の異形鉄筋重ね継手長さは構造図による。
3. 耐力壁主筋に直線重ね継手を使用する場合、継手長さは、表 1-3-1による。
4. D35以上の異形鉄筋には、原則として重ね継手を用いない。
5. 径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の呼び径 (d) により算出する。
6. あき重ね継手は、原則としてスラブ筋・基礎スラブ筋・壁筋に適用する。その場合、あき重ね継手の継手長さは表 1-3-1の直線重ね継手長さを確保し、鉄筋間隔は、0.2L1かつ150mm以下とする。
7. 梁主筋の重ね継手は水平重ね継手を原則とし、上下重ね継手とする場合は監理者と協議すること。(図 2-3-1)
8. 杭に用いる鉄筋の重ね継手の長さは構造図による。



(i) 水平重ね継手　(ii) 上下重ね継手　あき重ね継手

図 2-3-1

(4) 鉄筋の重ね継手長さ L1 L1h

表 2-4-1

L1:フックなし L1h:フック付	鉄筋の種類 \ Fc(N/mm²)	18	21	24～27	30～36	39～45	48～60
直線重ね継手の長さ L1 (継手位置 L1/2 L1/2)	SD295	45d	40d	35d <40d>	35d <40d>	30d <40d>	30d <40d>
	SD345	50d	45d	40d	35d <40d>	35d <40d>	30d <40d>
	SD390		50d	45d	40d	40d	35d <40d>
	SD490			55d	50d	45d	40d
フック付重ね継手の長さ L1h (継手位置 L1h/2 L1h/2 L1h 折曲げ開始点 折曲げ開始点)	SD295	35d <40d>	30d <40d>	25d <40d>	25d <40d>	20d <40d>	20d <40d>
	SD345	35d <40d>	30d <40d>	30d <40d>	25d <40d>	25d <40d>	25d <40d>
	SD390		35d <40d>	35d <40d>	30d <40d>	30d <40d>	25d <40d>
	SD490			40d	35d <40d>	35d <40d>	30d <40d>

1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。
2. 継手位置は、各標準図 に示す継手の好ましい位置に設けること。
3. L1hのフックを135° フック、90° フックとする場合のフック形状は表 2-2-1による。
4. SD490でL1hとする場合は、90° フックの場合に限る。90° フックとしない場合は監理者と協議すること。
5. < >は、表1-3-1で保有水平耐力計算を用いない場合を選択した場合に適用する。

(5)隣り合う継手の位置

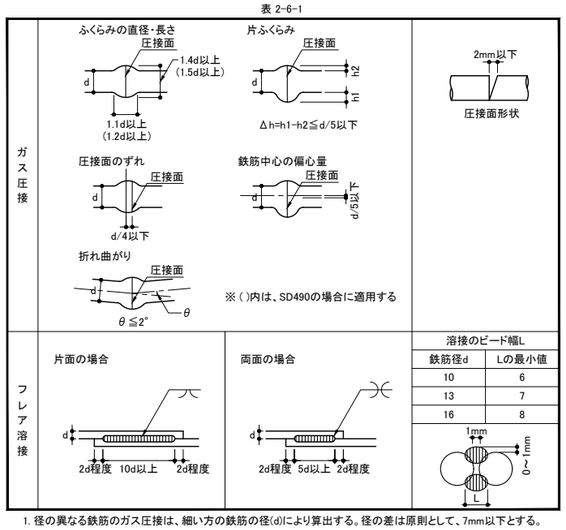
表 2-5-1

重ね継手	フックありの場合	L1h, L1h, 0.5 L1h	L1h, L1h, ≧0.5 L1h
	フックなしの場合	L1, L1, 0.5 L1	L1, L1, ≧0.5 L1
機械式継手 圧接継手 溶接継手	—	圧接継手・溶接継手, ≧ 400	a, 400 以上かつ (a+40)mm以上, 機械式継手又は溶接長さ

1. スラブ筋(基礎スラブ筋を含む)でD16以下の場合および壁筋の場合を除く。

(6)ガス圧接・フレア溶接の形状

表 2-6-1



1. 径の異なる鉄筋のガス圧接は、細い方の鉄筋の径(d)により算出する。径の差は原則として、7mm以下とする。
2. 鉄筋のフレア溶接は、原則として鉄筋の種類はSD345まで、鉄筋の径はD16までとする。
3. フレア溶接は、被覆アーク溶接またはガスシールドアーク溶接により、使用する溶接材料は、表 2-6-2による。

表 2-6-2

溶接される鉄筋の種類	被覆アーク溶接棒の種類 JIS Z 3211	ソリッドワイヤの種類 JIS Z 3312
SD295	E4316,E4915,E4916等の低水素系溶接棒	YGW11　YGW12 YGW13　YGW15 YGW16　YGW18 YGW19
SD345		

(7)鉄筋の定着長さ L2 L2h

表 2-7-1

L2:直線定着 L2h:フック付定着	鉄筋の種類 \ Fc(N/mm²)	18	21	24～27	30～36	39～45	48～60
直線定着長さ L2 (定着起点 L2 a)	SD295	40d	35d	30d	30d	25d	25d
	SD345	40d	35d	35d	30d	30d	25d
	SD390		40d	40d	35d	35d	30d
	SD490			45d	40d	40d	35d
フック付定着長さ L2h 90° フックの場合※ (折曲げ開始点 L2h 定着起点 a 8d 余長)	SD295	30d	25d	20d	20d	15d	15d
	SD345	30d	25d	25d	20d	20d	15d
	SD390		30d	30d	25d	25d	20d
	SD490			35d	30d	30d	25d

1. 軽量コンクリートの場合は、上表 の数値に5dを加えた値とする。
2. L2hのフックを135° フック、180° フックとする場合のフック形状は表 2-2-1による。
3. SD490でL2hとする場合は、90° フックの場合に限る。90° フックとしない場合は監理者と協議すること。
4. 軽量コンクリートとSD490の組み合わせは、対象外とする。

(8)鉄筋の定着長さ L3 L3h

表 2-8-1

L3:直線定着 L3h:フック付定着	鉄筋の種類 \ 部位 \ Fc(N/mm²)	18～60 小梁	18～60 スラブ
直線定着長さ L3 (定着起点 L3 a)	SD295 SD345 SD390	20d <25d>	10dかつ 150mm以上 <25d>
フック付定着長さ L3h (余長 8d, a, L3h, 折曲げ開始点, 定着起点)	SD295 SD345 SD390	10d	

1. 軽量コンクリートの場合は、上表 の 数値に5dを加えた値とする。
2. < >は片持ち部材の場合を示す。
3. 水圧・地反力を受ける耐圧スラブの定着長さは表2-7-1による。

(9)鉄筋の定着長さ La Lb

表 2-9-1

折曲げ定着長さ	鉄筋の種類 \ Fc(N/mm²)	18	21	24～27	30～36	39～45	48～60
梁主筋の柱内折曲げ定着の投影長さ La (L2, La(ただし、柱せいの3/4以上), a, 余長 8d, 柱せい)	SD295	20d	15d	15d	15d	15d	15d
	SD345	20d	20d	20d	15d	15d	15d
	SD390		20d	20d	20d	15d	15d
	SD490			25d	25d	20d	20d
小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影長さ Lb (L2, Lb(ただし、B/2 以上), a, 余長 8d, 梁幅 B)	SD295	15d	15d	15d	15d	15d	15d
	SD345	20d	20d	15d	15d	15d	15d
	SD390		20d	20d	15d	15d	15d
	SD490						

1. La:梁主筋の柱内折曲げ定着の投影長さ(基礎梁,片持ち梁及び片持ちスラブの上端筋を含む)
2. Lb:小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影長さ(片持ち小梁及び片持ちスラブの上端筋を除く)
3. 軽量コンクリートの場合は、表 の 値に5dを加えたものとする。

(10)かぶり厚さ

1. 柱・梁かぶり厚さは図 2-10-1に示される各部位に対応する表 2-10-1の値を満足し、かつ主筋に対する最小かぶり厚さは、主筋径の1.5倍以上とする。D29以上の鉄筋を使用する場合は、最小かぶり厚さが表 2-10-1より大きくなる部位があるため、注意すること。
2. 配筋は構造体寸法(打増しを除いた寸法)から所定の設計かぶり厚さを確保できる位置にて行う。
3. 耐久性上有効な仕上げがある場合、表 2-10-1の※1の値を10mm減じてよい。
耐久性有効な仕上げの例
・タイル張り
・モルタル塗り(10mm以上)
・打増し(10mm以上)
ただし、「住宅の品質確保の促進などに関する法律」の規定を満たす必要がある場合は、監理者の指示を受ける。
4. ひび割れ誘発目地・打継ぎ目地・化粧目地等がある場合は、目地からのかぶり厚さを確保する。
5. 柱・梁で打継ぎ目地を設ける場合は、構造体寸法に目地深さ分を打増しとする。この打増しは上記3により、耐久性上有効な仕上げと考えることができる。
6. 捨てコンクリートは、かぶり厚さに含まない。
7. 軽量コンクリートを用いる場合は表 2-10-1の※2の値に10mmを加えた値とする。
8. ※3は施工誤差の割増10mmを標準として見込むことによって、打設後最小かぶり厚さを下回る危険性を低減するために、設計時点で配慮したかぶり厚さ(設計かぶり厚さ)を示す。
9. ※4は建築基準法施行令に規定されたかぶり厚さを基に、屋外側については耐久性の観点から10mm増したかぶり厚さ(最小かぶり厚さ)を示す。
10. 計画供用期間の級が超長期で、計画供用期間中に保全を行う部材では、維持保全の周期に応じて定める。

表 2-10-1

(単位mm)

部位			設計かぶり厚さ ※3 短期	設計かぶり厚さ ※3 標準・長期	設計かぶり厚さ ※3 超長期	最小かぶり厚さ ※4 短期	最小かぶり厚さ ※4 標準・長期	最小かぶり厚さ ※4 超長期	分類記号
土に接しない部分	スラブ	屋内	30	30	40	20	20	30	a
		屋外	30	40 ※1	50 ※1	20	30 ※1	40 ※1	b
	柱・梁 耐力壁	屋内	40	40	40	30	30	30	c
		屋外	40	50 ※1	50 ※1	30	40 ※1	40 ※1	d
	非耐力壁	屋内	30	30	40	20	20	30	e
		屋外	30	40 ※1	50 ※1	20	30 ※1	40 ※1	f
	煙突内面		60			50			
	擁壁・基礎スラブ		50			40			h
土に接する部分	柱・梁・壁・スラブ 連続基礎の立上り部分		50 ※2			40 ※2			i
	基礎スラブ・擁壁		70 ※2			60 ※2			j
基礎			70 ※2			60 ※2			k

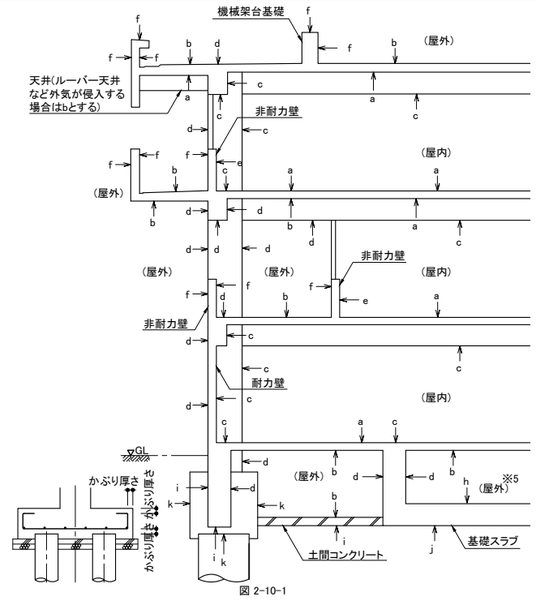


図 2-10-1

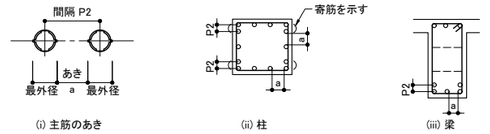
(11)主筋のあき・間隔

1. 主筋相互のあきaは粗骨材最大寸法の1.25倍以上、隣り合う鉄筋呼び径の平均値の1.5倍以上とする。
2. 粗骨材の最大寸法を25mmとして算出した数値を表 2-11-1に示す。
3. 粗骨材の最大寸法が25mm以外の場合のあき寸法、最小鉄筋間隔は、監理者に確認すること。
4. 最小鉄筋間隔P2は構造図による。構造図に記載がない場合は表 2-11-1による。
5. 最小鉄筋間隔P2の最大値については、監理者に確認すること。

表 2-11-1

呼び名 (d)	最外径 竹節	最外径 ねじ節	主筋のあきaの最小値	最小鉄筋間隔
D10	11	11	32	43
D13	14	15	32	47
D16	18	19	32	51
D19	22	22	32	54
D22	25	26	33	59
D25	29	29	38	67
D29	32	33	44	77
D32	36	37	48	85
D35	39	40	53	93
D38	43	43	57	100
D41	46	47	62	109

※ 鉄筋の最外径は銘柄ごとに異なるため、使用する鉄筋に合わせて適宜判断すること。



(i) 主筋のあき　(ii) 柱　(iii) 梁

図 2-11-1

(12)鉄筋のフック

1. 次に示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。
・あばら筋、帯筋、および幅止筋
・煙突の鉄筋(壁の一部となる場合を含む)
・柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分および下端の両端にある場合の部分
・小梁の下端筋
・片持ち梁や片持ちスラブの先端
・その他、本配筋標準に記載する箇所

図 の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要

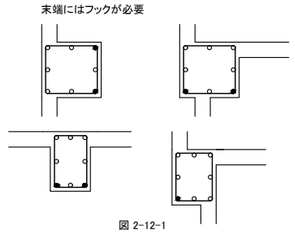


図 2-12-1

(13)鉄筋のサポート・スペーサ

表2-13-1

部位	スラブ	梁	柱
種類	鋼製・コンクリート製・モルタル製	鋼製・コンクリート製・モルタル製	鋼製・コンクリート製・モルタル製
配置	上端筋、下端筋それぞれ 間隔は 0.9m 程度 端部は 0.1m 以内	間隔は 1.5m 程度 端部は 0.5m 程度	上段は梁下より 0.5m 程度 中段は上段より 1.5m 間隔程度 柱幅方向は 1.0m 以下 2個 1.0m 超え 3個
備考		上または下と側面の両側へ対称に設置	同一平面に対称となるように設置

部位	基礎	基礎梁	壁・地下外壁
種類	鋼製・コンクリート製・モルタル製	鋼製・コンクリート製・モルタル製	鋼製・コンクリート製・モルタル製
配置	間隔は 0.9m 程度	間隔は 1.5m 程度 端部は 0.5m 程度	上段は梁下より 0.5m 程度まで 中段は上段より 1.5m 間隔程度 横間隔は 1.5m 程度 端部は 0.5m 程度
備考	基礎の四隅と柱の四隅に配置	上または下と側面の両側へ対称に設置	

1. スペーサは側面に限りプラスチック製でもよい。
2. 断熱材打込み時のサポートは支持重量に対して、めり込まない程度の接触面積を持ったものとする。

MARU。architecture
有限会社マル・アーキテクチャ 一級建築士事務所 東京都知事登録第59575号
高野　洋平 一級建築士国土交通大臣登録第329238号
株式会社Da建築DESIGN 一級建築士事務所 鹿児島県知事登録第1-6-1号
松葉瀬忠夫 一級建築士国土交通大臣登録第141001号
ARUP
オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 一級建築士事務所 東京都知事登録第3571号
富岡　良太 一級建築士登録第355621号 構造設計一級建築士登録第10495号
菅　健太郎 一級建築士登録第318575号 設備設計一級建築士登録第4096号
向井　一将 一級建築士登録第328591号 設備設計一級建築士登録第4451号

Project Title	Client	Name of Drawing	Scale	Architect	Date
教8-18末吉小放課後児童クラブ施設改築本体工事	曽於市	鉄筋コンクリート構造標準図-1		Drawn by / Checked by	2026.10.09

S-006

8. スラブ

(1) スラブ筋の定着

(a) 一般スラブの定着

1. スラブの配筋が梁左右で同じ場合は通し筋としてもよい。

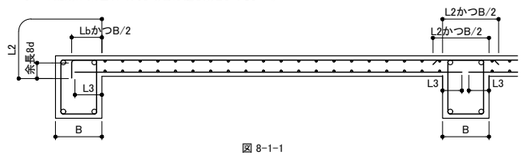


図 8-1-1

(b) 幅の小さい梁への定着 （Lbが確保できない場合）

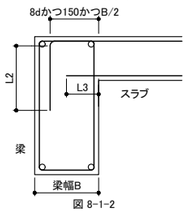


図 8-1-2

(c) 片持ちスラブの梁への定着

1. 以下の配筋とする場合、連続スラブの配筋に留意すること。
2. 片持ちスラブ主筋には原則として継手を設けないこと。

i) 隣接スラブと同一レベルの場合

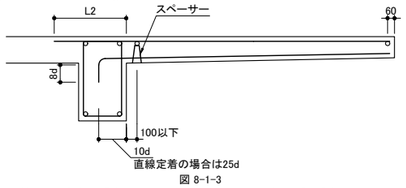
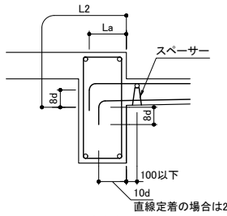


図 8-1-3

ii) 梁の中間にスラブが付く場合



iii) 逆スラブの場合

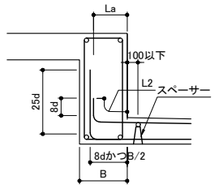


図 8-1-4 図 8-1-5

(d) 先端部に荷重が作用する場合の納まり例

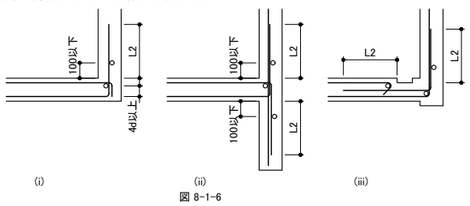


図 8-1-6

(2) カットオフ筋長さおよび継手位置

(a) カットオフ筋長さ

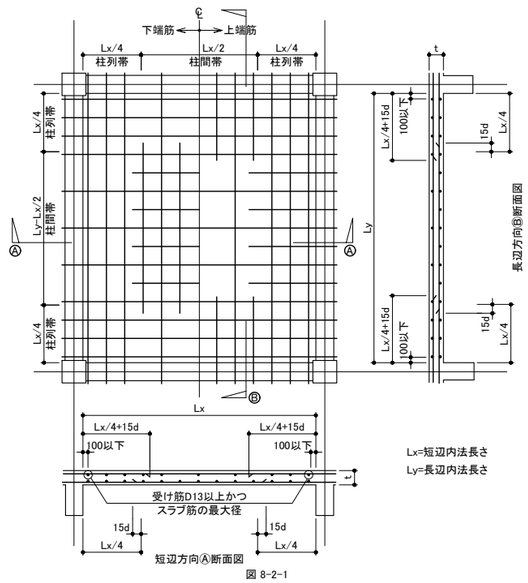


図 8-2-1

(b) 継手位置

1. 耐圧版の場合は下図の逆とする。

継手の好ましい位置
（図中の継手位置に継手を設けられない場合は監理者と協議すること）

(i) 上端筋の継手　(ii) 下端筋の継手

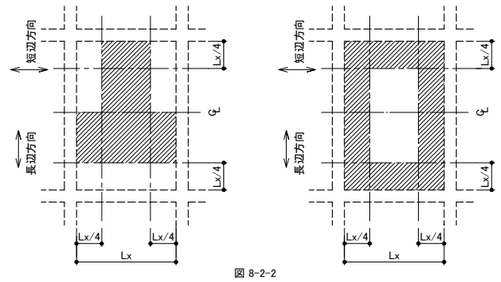


図 8-2-2

(3) 高低差のある場合のスラブ筋のおさまり

(a) スラブが梁側面に付く場合

(i) h＞50mm かつスラブ下端筋が梁主筋の上を通る場合　(ii) スラブ下端筋が梁主筋の下を通る場合

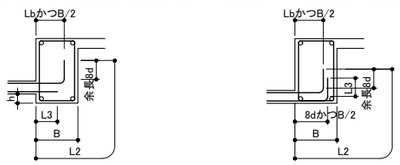
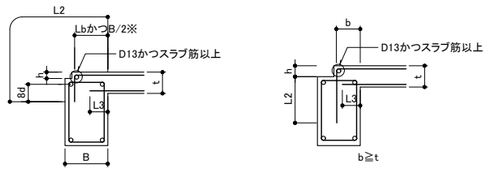


図 8-3-1　図 8-3-2

(b) 片側スラブが梁より上がる場合

1. (i) ～ (iii) は壁がない場合を、(iv) は壁がある場合を示す。

(i) 0<h≦50mm かつスラブ下端筋が梁主筋の下を通る場合　(ii) 50mm<h かつスラブ下端筋が梁主筋の下を通る場合



※スラブ上端筋の水平投影長さがLbかつB/2以上確保できない場合は (ii) による。

図 8-3-3　図 8-3-4

(iii) h<t+70mm かつスラブ下端筋が梁主筋の上を通る場合　(iv) h<3t1 かつ t2>t1

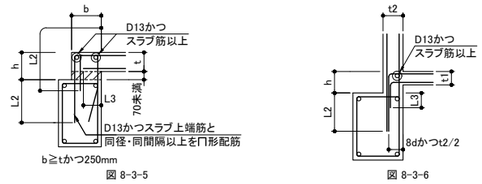


図 8-3-5　図 8-3-6

(c) 梁の両側のスラブが上がる場合

(i) h≧0 かつスラブ筋下端筋が梁主筋の下を通る場合

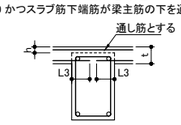


図 8-3-7

(ii) スラブ下端筋が梁主筋の上を通る場合

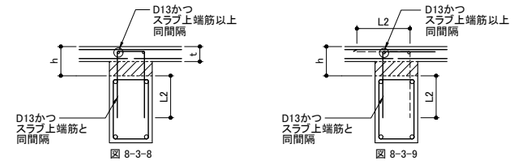


図 8-3-8　図 8-3-9

(d) スラブ中間部に高低差のある場合

1. 下記以外の場合は構造図による。

(i) 段差が小さい場合 (H≦t/2)　(ii) 段差がスラブ厚程度の場合 (t/2<H≦2t)

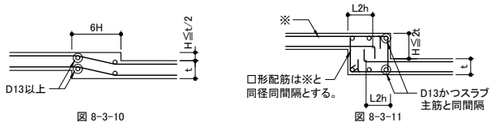


図 8-3-10　図 8-3-11

(4) 釜場

1. t: 底盤と同厚以上。

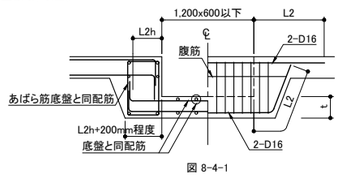


図 8-4-1

9. 壁

(1) 一般壁

(a) 壁と柱・梁との収まり

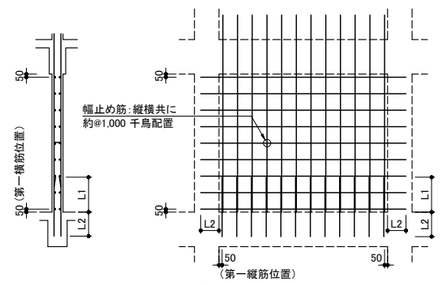


図 9-1-1

1. 壁筋の重ね継手の相互の鉄筋は、密着させるのが原則であるが、あき重ね継手も同等に有効とすること。

(b) 各部の定着

(i) 壁-柱

1. a 区間の部分は通し配筋でもよい。
2. (エ)、(オ) は増打ちコンクリートのある非耐力壁の場合。耐力壁の場合は構造図による。
3. ※1. ※2. 鉄筋の径及び間隔は、13(2)の柱打増し要領による。

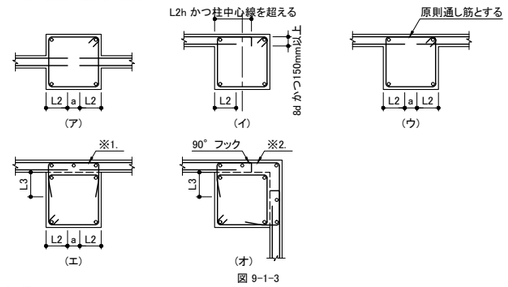


図 9-1-3

(ii) 壁-梁

1. a区間の部分は通し配筋でもよい。
2. (エ)は増打ちコンクリートのある非耐力壁の場合。耐力壁の場合は設計図書の特記による。
3. ※1. 鉄筋の径及び間隔は、13(2)の柱打増し要領による。

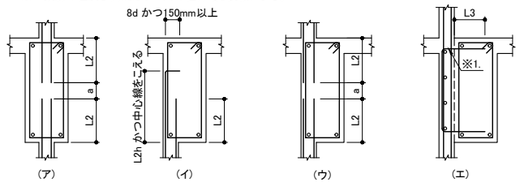


図 9-1-4

(iii) 壁-スラブ（非耐力壁とスラブが取り合う場合）

(ア) スラブ上端筋がある場合

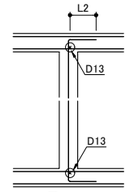


図 9-1-5

(イ) スラブ上端筋がない場合

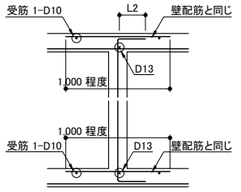
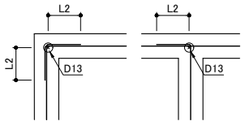


図 9-1-6

(iv) 壁-壁（平面）

(ア) シングル配筋



(イ) ダブル配筋

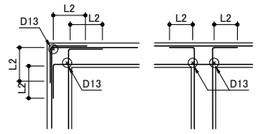


図 9-1-7

(2) 壁端部・開口部小口補強

1. 耐震壁の場合、コ形補強筋は壁筋と同径・同間隔とする。
2. L寸法は構造図による。構造図に記載がない場合は15dとする。
3. 壁筋にフックを設けた壁で、壁厚が250mm以下の場合、開口部小口補強は省略とすることができる。

(a) コ形補強筋が外側の場合　(b) コ形補強筋が内側の場合　(c) 壁筋にフックを設けた場合

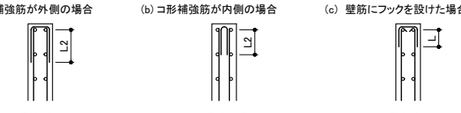


図 9-2-1　図 9-2-2　図 9-2-3

(3) スリット

1. 鉛直方向のスリット幅は壁高さの1/100以上、水平方向のスリット幅は30mm程度かつ梁スパンの1/250程度とする。

(a) 在来工法を用いる場合

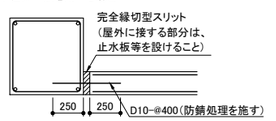


図 9-3-1

(b) 既製品を用いる場合

1. 耐震スリットの要領図を作成し、管理者に提出のこと。
2. 旧都市基盤整備公団の品質判定基準に合格していること。(耐火性・水密性)
3. スリット材は耐火仕様とすること。(耐火が求められる場合)

MARU。architecture
有限会社マル・アーキテクチャ 一級建築士事務所 東京都知事登録第59575号
高野 洋平 一級建築士国土交通大臣登録第329238号
株式会社Dai建築DESIGN 一級建築士事務所 鹿児島県知事登録第1-6-1号
松葉瀬忠夫 一級建築士国土交通大臣登録第141001号
ARUP
オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 一級建築士事務所 東京都知事登録第35571号
富岡 良太 一級建築士登録第355621号 構造設計一級建築士登録第10495号
菅 健太郎 一級建築士登録第318575号 設備設計一級建築士登録第4096号
向井 一将 一級建築士登録第328591号 設備設計一級建築士登録第4451号

Project Title	Client	Name of Drawing	Scale	Architect	Date	
教8-18末吉小放課後児童クラブ施設改築本体工事	曽於市	鉄筋コンクリート構造標準図-2		Drawn by	2026.10.09	S-007
				Checked by		

10. 地下外壁

(1) 地下外壁と各部のおさまり

1. 地下外壁の壁筋の継手は、地下外壁内とし、柱・梁に設けない。
2. e1は壁外面と柱外面のずれ、e2は壁外面と梁外面のずれを示し、e1、e2寸法は構造図による。
   e1、e2が70mm以上の打増し部補強は、表 13-1-1、表 13-2-1および表 13-2-2による。
3. 土に接する側の縦筋・横筋は原則として柱・梁主筋の外側を通す。

(a) 柱とのおさまり

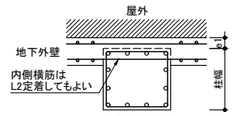


図 10-1-1

(b) 梁とのおさまり

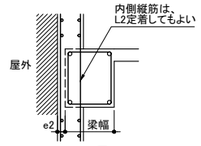


図 10-1-2

(c) 壁上部のおさまり（特記なき限り図 10-1-3とする。）

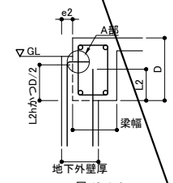


図 10-1-3

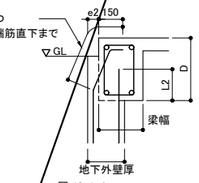


図 10-1-4

(d) 地下外壁と基礎梁の接合部おさまり（特記なき限り図 10-1-5とする。）

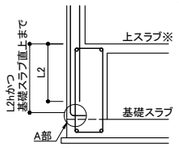


図 10-1-5

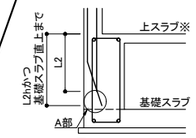


図 10-1-6

※ 上スラブがない場合、または上スラブが置きスラブの場合の、地下外壁定着は構造図による。

(e) A部鉄筋折曲げ形状と寸法

1. 壁筋が帯筋・あばら筋から離れた位置となる場合は、90°フックの余長部分を8dかつ150以上、帯筋・あばら筋内に定着する。

(i) 先端90°フックとする場合

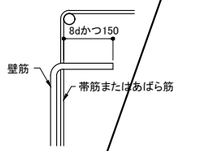


図 10-1-7

(ii) 先端を斜めに折り曲げる場合

1. 定着長さはL2とする。

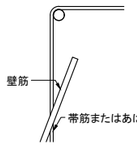
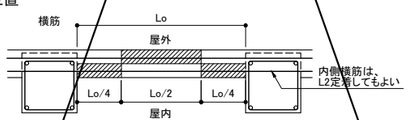


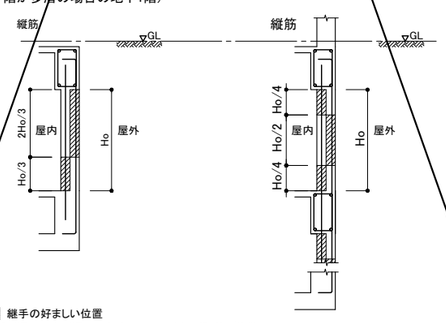
図 10-1-8

(2) 継手位置



(a) 地下階が1層の場合
（地下階が多層の場合の地下1階）

(b) 地下階が多層の場合



継手の好ましい位置
（図中の継手位置に継手を設けられない場合は監理者と協議すること）

図 10-2-1

11. 開口補強

(1) スラブおよび非耐力壁

1. 開口が連続するスラブの場合および片持ちスラブに開口を設ける場合の補強は構造図による。
2. スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下の場合、鉄筋を1/6以下の勾配で曲げること、または50mm以下でずらすことにより補強筋を省略することができる。ただし、開口部から設計かぶりを確保すること。
3. 壁開口、スラブ開口が柱または梁に接する場合、接する柱・梁の部分には補強筋を省略できる。
4. 壁開口の最大径が両方向の配筋間隔以下の場合、鉄筋を1/6以下の勾配で曲げること、または50mm以下でずらすことにより補強筋を省略することができる。ただし、開口部から設計かぶりを確保すること。
5. 開口幅700mmを超える場合は、監理者に開口補強要領を確認すること。

(a) スラブ開口補強

1. 開口寸法がスラブの配筋間隔以下の小開口の補強は、図11-1-3による。

(i) 角形開口（一辺の最大寸法が700mm以下）　(ii) 円形開口（直径700mm以下）

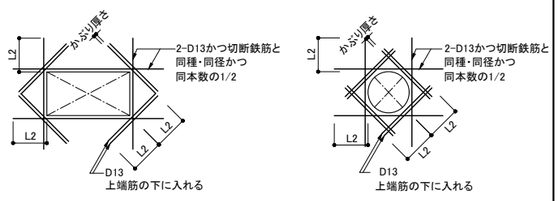
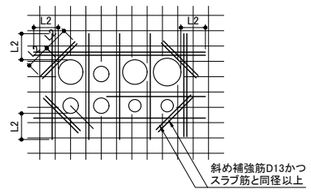


図11-1-1

2. 小開口を連続して設けた例



※・開口により切断された鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強すること。
・孔と孔のへりあきは、スラブ厚以上とすること。

(b) 非耐力壁の開口補強

1. 開口寸法が壁の配筋間隔以下の小開口の補強は、図 11-1-3による。

(i) 角形開口（一辺の最大寸法が700mm以下）　(ii) 円形開口（直径700mm以下）

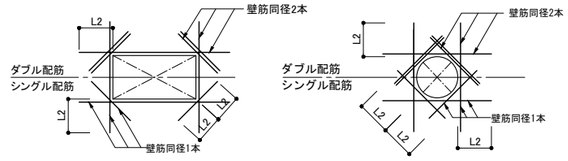
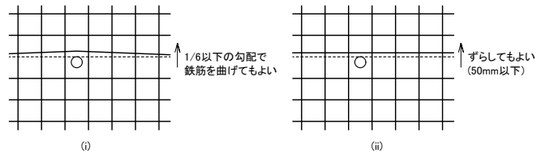


図 11-1-2

(c) 単独円形小開口の配筋要領（開口の大きさが、床壁の配筋間隔以下の場合）



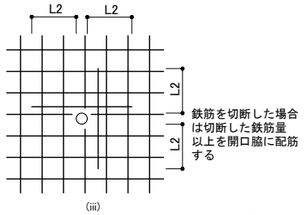


図 11-1-3

(d) スラブ開口部が柱または梁に接する場合の配筋要領

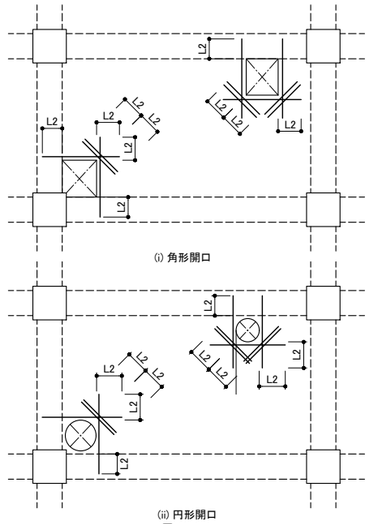


図 11-1-4

(e) 壁開口部が柱または梁に接する場合の配筋要領（耐震壁を含む）

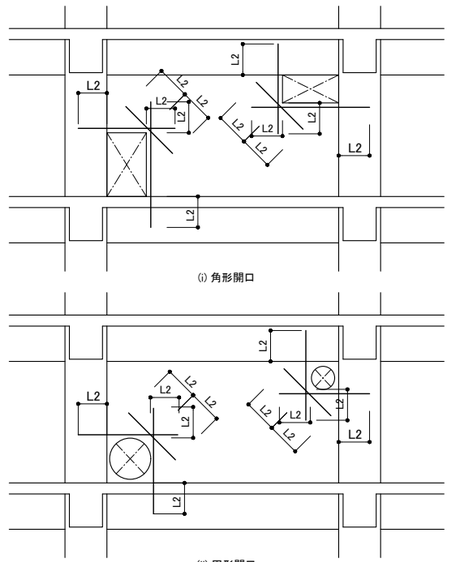


図 11-1-5

(f) 壁開口部が連続する場合の配筋要領（耐力壁の場合）

1. 円形連続開口まわりの補強筋の定着長さは図 11-1-5に準ずる。

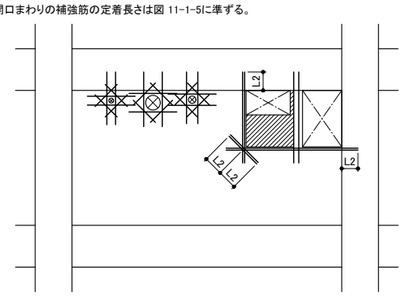


図 11-1-6

(g) 壁開口部が連続する場合の配筋要領（非耐力壁）

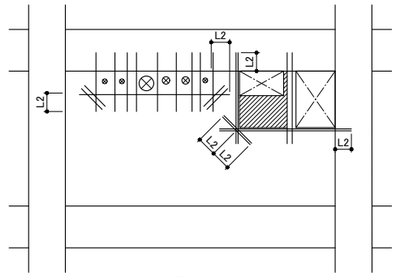
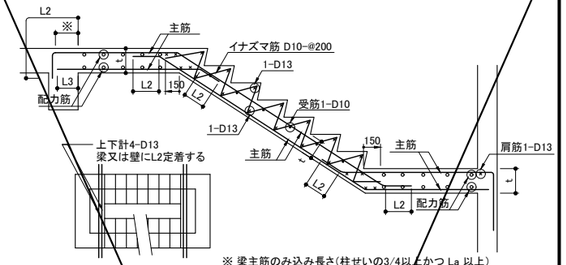


図 11-1-7

12. 階段

(1) 1方向スラブ階段



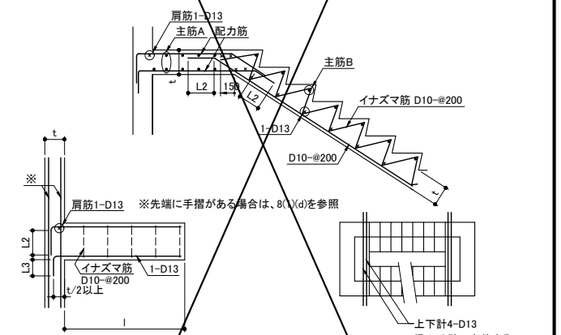
※ 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4以上かつ La 以上）

図 12-1-1

表 12-1-1

階段種別	厚さ t	配筋	
		主筋	配力筋

(2) 片持ち階段



階段で壁厚が250未満の場合は、壁配筋表にかかわらず
※印筋（縦筋）をD13-@200以上の配筋とする
階段主筋は、壁中心線を超えてから縦に下す。

図 12-1-1

表 12-1-1

階段種別	厚さ t	配筋		
		主筋 A	主筋 B	配力筋

MARU。architecture
有限会社マル・アーキテクチャ 一級建築士事務所 東京都知事登録第59575号
高野 洋平 一級建築士国土交通大臣登録第329238号
株式会社Dai建築DESIGN 一級建築士事務所 鹿児島県知事登録第1-6-1号
松葉瀬忠夫 一級建築士国土交通大臣登録第141001号
ARUP
オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 一級建築士事務所 東京都知事登録第35571号
富岡 良太 一級建築士登録第355621号 構造設計一級建築士登録第10495号
菅 健太郎 一級建築士登録第318575号 設備設計一級建築士登録第4096号
向井 一将 一級建築士登録第328591号 設備設計一級建築士登録第4451号

Project Title	Client	Name of Drawing	Scale	Architect	Date	
教8-18末吉小放課後児童クラブ施設改築本体工事	曽於市	鉄筋コンクリート構造標準図-3		Drawn by	2026.10.09	S-008
				Checked by		

木質構造標準図（面材耐力壁）

共通事項

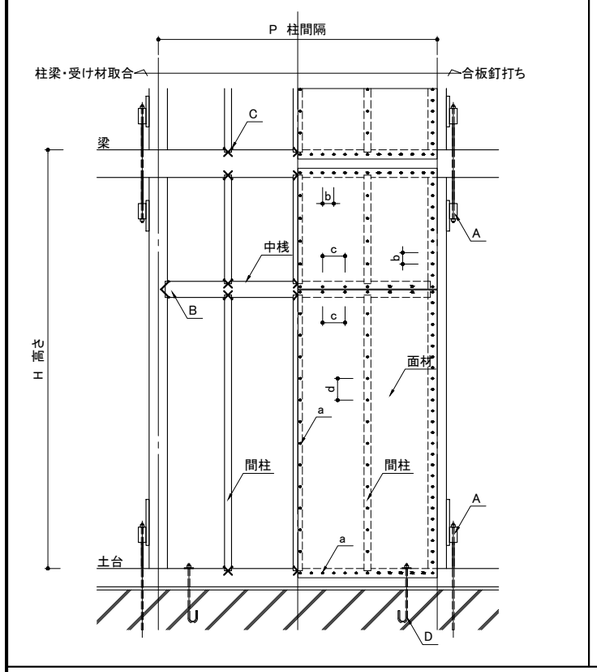
各部仕口形状は、高耐力壁仕様構造用合板張り耐力壁を除き、PWA木造軸組接合部標準図(2)5.軸組標準に準ずる。
面材に対し、次に示す釘の打ち損じが生じた場合は隣り合う釘との中間部に増し打ちすること。
・釘頭のめり込みが面材厚の10%以上かつ1mm以上　・釘のへり空き不足　・釘の飛び出し
耐力壁の土台と基礎との間は、無収縮モルタル又は十分な耐久力を持つスペーサー材を挿入し隙間を埋めること。

間柱・受け材等構造に関わる羽柄材の品質については、見乾燥材及び皮付き材は不可とし、四角ピン角、ねじれ、反りの無いものを原則とする。
釘ピッチの基準は使用釘本数を満たしている必要がある。記載のピッチは「辺の長さ÷ピッチ＋1本」と読むこととする。

1.昭56建告1100号に準じた耐力壁

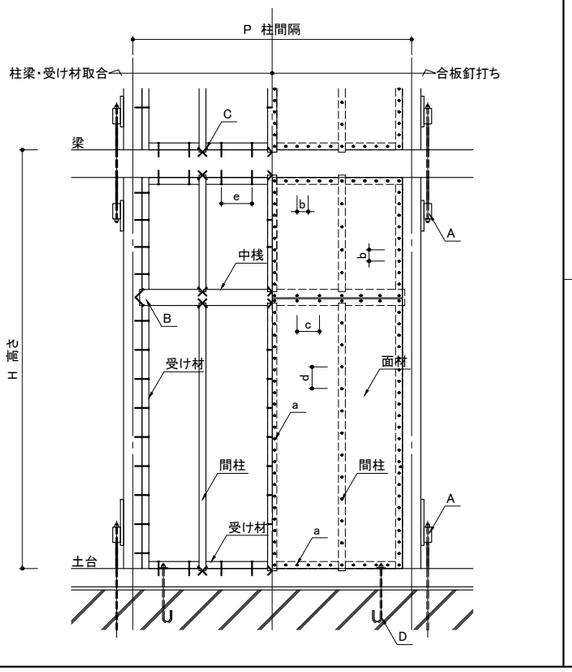
面材張り大壁耐力壁

（単位：mm）



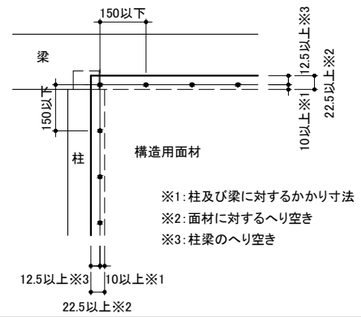
受け材仕様真壁耐力壁

（単位：mm）

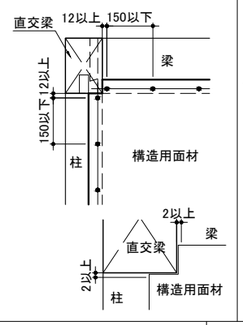


各部詳細図

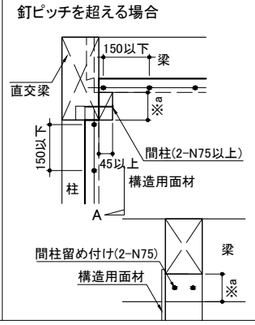
(1) 釘打ち要領図
(a) 一般部



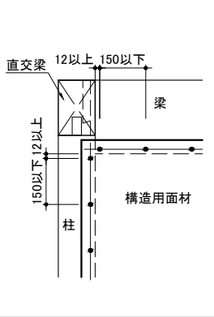
(b-1) 合板端欠



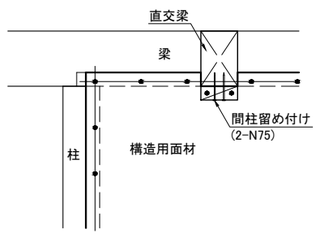
(b-2) 合板端欠
※a（梁と直交梁の差分）が規定の釘ピッチを超える場合



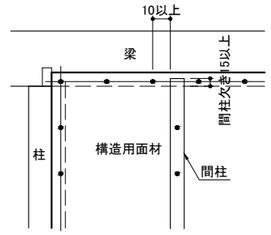
(c) 柱持たせ



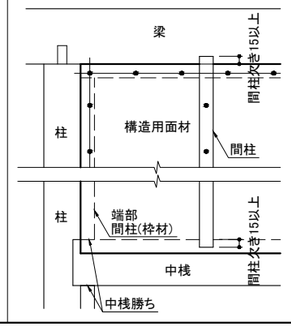
(d) 耐力壁内に直交梁が在るとき



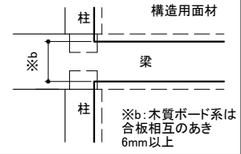
(2) 受け材・間柱勝ち負け要領図
(a) 枠無し



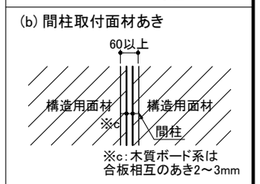
(b) 枠有り



(3) 面材相互あき要領図
(a) 上下面材あき



(b) 間柱取付面材あき



壁種類	面材張り大壁耐力壁		
壁倍率（短期許容せん断耐力）	4.3倍（8.42kN/m）	3.7倍（7.25kN/m）	2.5倍（4.90kN/m）
1. 各部の仕様			
面材の種類	構造用パーティクルボード t=9mm 構造用MDF t=9mm	構造用合板 t=9mm以上 構造用パネル（OSB） t=9mm以上	構造用パーティクルボード t=9mm 構造用MDF t=9mm、構造用合板 t=9mm以上 構造用パネル（OSB） t=9mm以上
柱間隔	600mm≦P≦2,000mm		
高さ	H≦6,000mm、かつ一連の耐力壁の両端柱芯間距離の5倍以下		
間柱	幅45mm以上、間隔500mm以下　ただし合板を継ぐ場合は見付幅60mm以上、両面貼りの場合は奥行90mm以上		
中桟	幅90mm以上		
受け材	幅45mm以上、奥行60mm以上		
2. 各部仕口形状及び性能			
A. 各階の柱頭柱脚部	補強金物等は特記による		
B. 中桟端部	まぐさ欠きに15mmの大入れの上、2-N75斜め釘打ち		
C. 間柱端部	間柱欠きに6～15mm大入れの上、2-N75斜め釘打ち		
D. アンカーボルト	M12以上のアンカーボルトの耐力壁両端の柱近接位置（柱芯から200mm内外）に1本ずつ設ける		
3. 面材の釘打ち方法			
a. 釘打ち	面材4周を釘打ちする。金物が干渉する場合は、金物を避けた位置に所定の本数を釘打ちする 柱及び梁に対するかかり寸法　：10mm以上 面材に対するへり空き　：22.5mm以上 柱梁のへり空き　：12.5mm以上		
b. 横架材・柱材 - 面材	構造用合板：CN50@75mm以下、左記以外の面材：N50@75mm以下		N50@150mmm以下
c. 中桟 - 面材	構造用合板：CN50@150mm以下、左記以外の面材：N50@150mm以下		N50@150mmm以下
d. 間柱 - 面材	構造用合板：CN50@150mm以下、左記以外の面材：N50@150mm以下		N50@150mmm以下
e. 受け材 - 面材	構造用合板：CN50@75mm以下、左記以外の面材：N50@75mm以下		
- 梁（土台）と柱 ※1	N90@120mm以下（両面貼りの場合は@60mm以下）		N90@200mm以下（両面貼りの場合は@100mm以下）

壁種類	受け材仕様真壁耐力壁		
壁倍率（短期許容せん断耐力）	4.0倍（7.84kN/m）	3.3倍（6.46kN/m）	2.5倍（4.90kN/m）
1. 各部の仕様			
面材の種類	構造用パーティクルボード t=9mm 構造用MDF t=9mm	構造用合板 t=9mm以上 構造用パネル（OSB） t=9mm	構造用合板 t=9mm以上 構造用パネル（OSB） t=9mm
柱間隔	600mm≦P≦2,000mm		
高さ	H≦6,000mm、かつ一連の耐力壁の両端柱芯間距離の5倍以下		
間柱	幅45mm以上、間隔500mm以下　ただし合板を継ぐ場合は見付幅60mm以上、両面貼りの場合は奥行90mm以上		
中桟	幅90mm以上		
受け材	幅45mm以上、奥行60mm以上		
2. 各部仕口形状及び性能			
A. 各階の柱頭柱脚部	補強金物等は特記による		
B. 中桟端部	突き付けの上、2-N75斜め釘打ち		
C. 間柱端部	突き付けの上、2-N75斜め釘打ち		
D. アンカーボルト	M12以上のアンカーボルトの耐力壁両端の柱近接位置（柱芯から200mm内外）に1本ずつ設ける		
3. 面材の釘打ち方法			
a. 釘打ち	面材4周を釘打ちする。金物が干渉する場合は、金物を避けた位置に所定の本数を釘打ちする 面材に対するへり空き　：10mm以上 受け材に対するかかり寸法　：22.5mm以上 受け材のへり空き　：12.5mm以上		
b. 外周受け材 - 面材	構造用合板：CN50@75mm以下、左記以外の面材：N50@75mm以下		N50@150mmm以下
c. 中桟 - 面材	構造用合板：CN50@150mm以下、左記以外の面材：N50@150mm以下		N50@150mmm以下
d. 間柱 - 面材	構造用合板：CN50@150mm以下、左記以外の面材：N50@150mm以下		N50@150mmm以下
e. 受け材 - 面材	構造用合板：CN50@75mm以下、左記以外の面材：N50@75mm以下		
- 梁（土台）と柱	構造用パーティクルボード、構造用MDF：N90@120mm以下（両面貼りの場合は、@60mm以下） 構造用合板、構造用パネル：N90@200mm以下（両面貼りの場合は、@100mm以下）		N90@300mm以下（両面貼りの場合は@150mm以下）

※1　大壁耐力壁において受け材-土台取り合いは床合板勝ち仕様を、受け材 - 柱取り合いは入隅仕様を想定する

MARU。architecture
有限会社マル・アーキテクチャ 一級建築士事務所 東京都知事登録第59575号
高野 洋平 一級建築士国土交通大臣登録第329238号
株式会社Dai建築DESIGN 一級建築士事務所 鹿児島県知事登録第1-6-1号
松薗潮忠夫 一級建築士国土交通大臣登録第141001号
ARUP
オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 一級建築士事務所 東京都知事登録第35571号
富岡 良太 一級建築士登録第355621号 構造設計一級建築士登録第10495号
菅 健太郎 一級建築士登録第318575号 設備設計一級建築士登録第4096号
向井 一将 一級建築士登録第328591号 設備設計一級建築士登録第4451号

Project Title	Client	Name of Drawing	Scale	Architect	Date
教8-18末吉小放課後児童クラブ施設改築本体工事	曽於市	木造軸組接合部標準図-1		Drawn by / Checked by	2026.10.09

S-009

本仕様書及び標準図は、ＰＷＡ標準図ＷＧ及び品質管理ＷＧが作成したものです。内容を自由に修正して使用することができます。使用上の責任は全て使用者にあり、ＰＷＡはいかなる責務も負いません。お気付きの点や改良案等の御意見は、contact@precut.jp　までお願いします。

木　造　軸　組　接　合　部　標　準　図（4）

7．水平構面

(注)　(単位)mm

7.1共通事項

・各部仕口形状は、（3）高耐力仕様屋根・床水平構面を除き、木造軸組接合部標準図 (2) 5.軸組標準接合部に準ずる。
・木造軸組み工法住宅の許容応力度設計（2008年）の詳細計算法による水平構面については、同書の規定に準拠することとし、釘ピッチ配列等の仕様については設計図による。
・指定性能評価機関またはそれに準じる公共の評価機関で成績書を取得して耐力が明示された水平構面については試験成績書の仕様に準拠することとする。

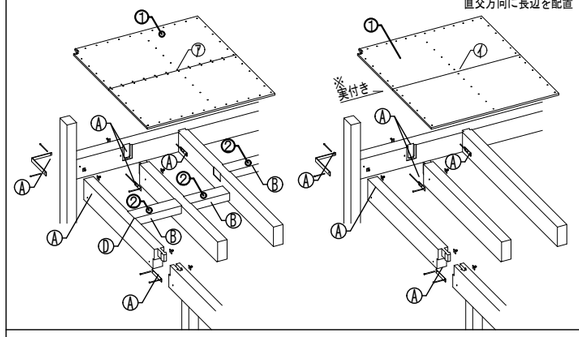
7.2水平構面の仕様

（1）木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた床構面

(a) 日の字釘打ち
短期許容せん断耐力
7.84kN/m

(b) 川の字釘打ち
短期許容せん断耐力
3.53kN/m

※ 合板は、横架材に対し直交方向に長辺を配置



1)各部材料および寸法

①	面材：構造用合板t=24mm～30mm横架材に直貼
②	甲乙梁:幅45mm以上×せい45mm以上・梁及び甲乙梁の間隔1000mm以下

2)各部仕口形状及び性能

Ⓐ	各仕口部分： 水平力時に継手、仕口各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
Ⓑ	構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
Ⓒ	高低差のある梁へは側面に床受け材を取り付け構造用合板を受ける構成
Ⓓ	甲乙梁端部は小梁に対して深さ15mm程度の大入れ　N75　1本斜め打ち

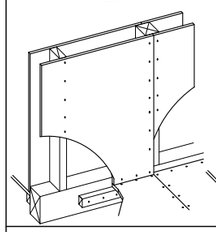
3)各部への釘打及びビス止め

⑦	構造用合板はN75@150mm日の字釘打ちで横架材,甲乙梁,床受材に留め付ける
④	構造用合板はN75@150mm川の字釘打ちで横架材,甲乙梁,床受材に留め付ける ※ 構造用合板は、実付きとする.

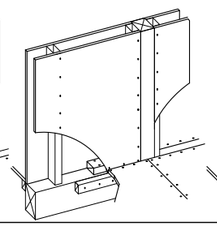
注意事項：構造用合板（又はOSB）に対する釘頭のめり込みは、2mmを限度とする
2mmを超える場合は隣り合う釘との中間部に増し打ちすること
川の字釘打ちは構造用合板上に直接フローリングを貼る構成の場合、
撓み等に注意する事

告示耐力壁-床納まり

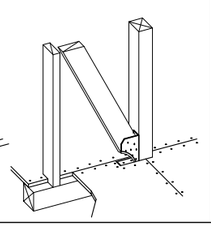
大壁合板耐力壁-床構面
(壁勝)



真壁合板耐力壁-床構面
(壁勝)

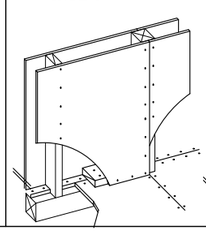


筋違耐力壁-床構面
(筋違勝)

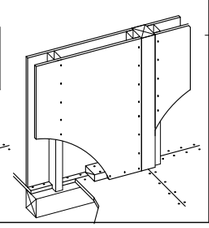


認定仕様例示）日合連（JPMA）仕様耐力壁-床勝納まり

大壁合板耐力壁-床勝
認定番号：FRM-0296

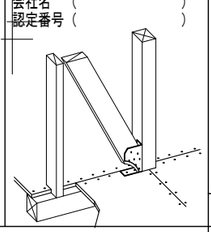


真壁合板耐力壁-床勝
認定番号：FRM-0298



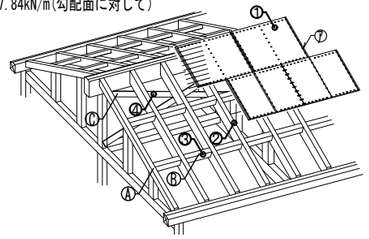
筋違金物による床勝ち納まり

筋違耐力壁-床構面
(床勝:大臣認定仕様)
会社名（　　）
認定番号（　　）

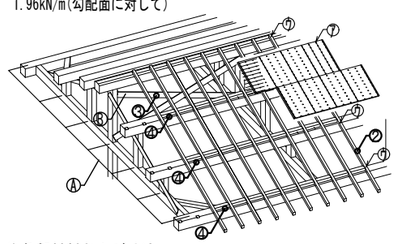


（2）木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた屋根構面

(a) 登梁-厚合板
短期許容せん断耐力
7.84kN/m(勾配面に対して)



(b) 垂木-合板
短期許容せん断耐力
1.96kN/m(勾配面に対して)



1)各部材料および寸法

①	面材：構造用合板t=24mm～30mm横架材に直貼
②	登梁：幅105mm以上×せい105mm以上　間隔1000mm以下
③	甲乙梁：幅45mm以上×せい45mm以上　間隔1000mm以下
④	小屋耐力壁：15mm以上×90mm以上 （端部は平12建告1460号の筋違耐力壁の接合）

2)各部仕口形状及び性能

Ⓐ	各仕口部分：水平力時に継手、仕口各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
Ⓑ	構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
Ⓒ	耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁線上には同等以上の壁量となるよう小屋耐力壁（くも筋違い）を設ける事

3)各部への釘打及びビス止め

⑦	構造用合板はN75@150mmで日の字に垂木に留め付ける

1)各部材料および寸法

①	面材：構造用合板t=9mm～15mm(横置)
②	垂木：幅45mm以上×せい45mm～90mm@500mm以下
③	小屋耐力壁：15mm以上×90mm以上 (端部は平12建告1460号の筋違耐力壁の接合)
④	転び止め：45mm×60mm程度

2)各部仕口形状及び性能

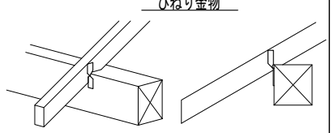
Ⓐ	母屋ピッチ:1000mm以下
Ⓑ	耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁線上には同等以上の壁量となるよう小屋耐力壁（くも筋違い）を設ける事

3)各部への釘打及びビス止め

⑦	構造用合板はN50@150mmで川の字に垂木に留め付ける
④	転び止めを梁に2-N75斜め釘止め
⑦	垂木の留め付けは、垂木の側面から軒桁、母屋、棟木の上面に対してN75釘2本打ち

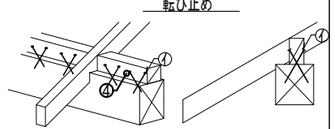
注意事項：構造用合板（又はOSB）に対する釘頭のめり込みは、2mmを限度とする

ひねり金物

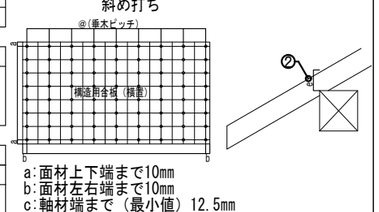


注意事項：ひねり金物を使用する際、軒先・棟だけでなく垂木-母屋の接点全てに使用する

転び止め



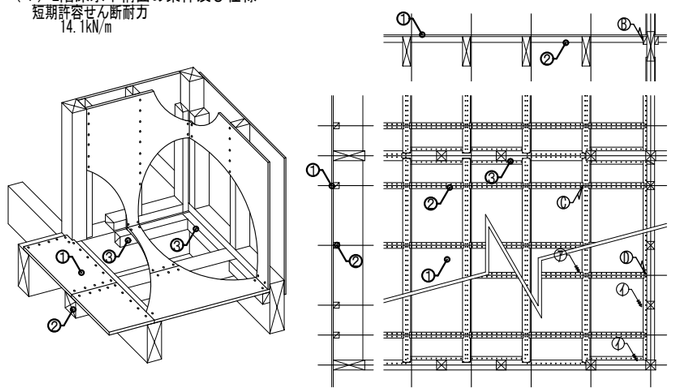
注意事項：転び止めを使用する際、軒先・棟だけでなく垂木-母屋の接点全てに使用する
N75釘4本(表2本と裏2本を千鳥配置)
斜め打ち



a:面材上下端まで10mm
b:面材左右端まで10mm
c:軸材端まで（最小値）12.5mm

7.3　JISA3301仕様高耐力水平構面

（1）2階床水平構面の条件及び仕様
短期許容せん断耐力
14.1kN/m



1)各部材料

①	面材：構造用合板t=24mm又は28mm横架材に直張り
②	甲乙梁:90mm×90mmの正角材又は幅75mm×成120mm製材を平使い
③	大梁側面に取り付ける床受材:幅55mm～75mm×成120mmの製材

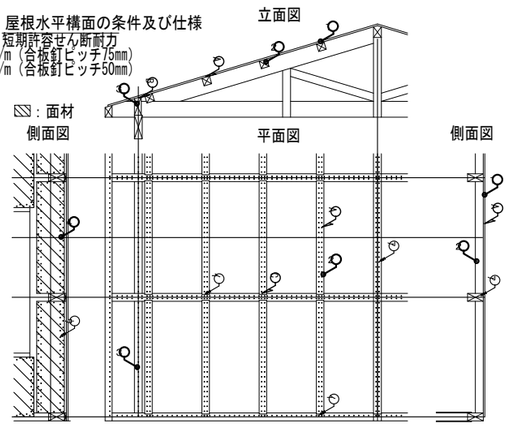
2)各部仕口形状及び性能

Ⓐ	構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
Ⓑ	高低差のある梁へは側面に床受け材を取り付け構造用合板を受ける構成
Ⓒ	甲乙梁端部は小梁に対して深さ15mm程度の大入れ
Ⓓ	甲乙梁端部は床受け材に対して床受け材を深さ15mm×成60mm 切り欠き甲乙梁は成60mm分大入れし床受け材勝ちの納まりとする

3)各部への釘打及びビス止め

⑦	構造用合板はN75@75mm日の字釘打ちで横架材,甲乙梁,床受材に留め付ける
④	大梁側面へ取り付ける床受材は木質構造用ビスφ6,L130～150 を150 mmピッチの二列打ちとして留め付ける

（2）屋根水平構面の条件及び仕様
短期許容せん断耐力
13.5kN/m（合板釘ピッチ75mm）
19.1kN/m（合板釘ピッチ50mm）



1)各部材料

①	面材：構造用合板t=24mm登梁及び母屋に直張り
②	母屋:幅120mm×成120mmの製材 多雪区域(3級及び4級)の場合は幅120mm×成150mmの製材
③	軒先転び止め:幅105mm×成300mmの製材を用い,天端は屋根面に合わせ切り欠く
④	軒先転び止めの外面に直貼りする構造用合板:t=12mm

2)各部仕口形状及び性能

Ⓐ	構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には母屋を設ける
Ⓑ	屋根の合板レベルに対して低い位置にある軒先の大梁上に転び止めを設け構造用合板を受ける構成
Ⓒ	母屋端部は登梁に対して深さ15mm程度の大入れ

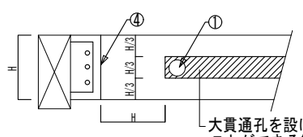
3)各部への釘打及びビス止め

⑦	13.5kN/m仕様:構造用合板はN75@75mm4周(ロの字)釘打ちで登梁及び母屋に留め付ける 19.1kN/m仕様:構造用合板はN75@50mm4周(ロの字)釘打ちで登梁及び母屋に留め付ける
④	母屋端部に対して吹上対策として木質構造用ビスφ5,L150（頭部径φ12.5以上 ねじ部長さ50以上）1本を斜め打ちとする
⑦	軒先大梁と転び止めの外面に直張りする構造用合板は，N50くぎを50 mmピッチの 千鳥打ちとして留め付ける

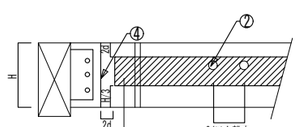
8．貫通孔

8.1　梁貫通孔の条件及び仕様

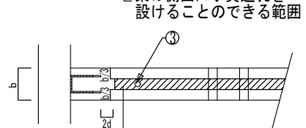
①	大貫通孔:d≦H/4かつ150mm
②	小貫通孔:d≦30mm(隣り合う孔は3d以上離す)
③	縦小貫通孔:d≦b/6かつ30mm
④	接合金物用切り欠きライン



大貫通孔を設ける
ことができる範囲



梁の側面に小貫通孔を
設けることのできる範囲

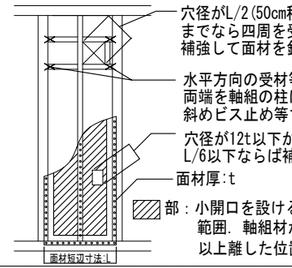


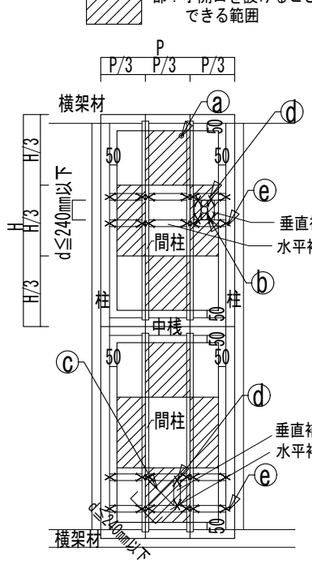
梁の上下面に小貫通孔を
設けることのできる範囲
（大貫通孔は不可）

8.2　耐力壁貫通孔

(1)小開口付耐力壁：木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2008年版)
※壁倍率7倍までの孔開けルール

剛性・耐力に影響しない面材耐力壁の小開口の設け方





(2) 高耐力仕様合板貼耐力壁（JISA3301標準仕様）
※壁倍率7倍を超える場合の孔開けルール（JISA3301仕様）

a)貫通孔基準

ⓐ	小貫通孔(d≦30mm) 1区画につき1か所までなら補強不要
ⓑ	小貫通孔×3(外接円の径d≦240mm) 四周を補強受材で補強 面材1枚につき1か所のみ可
ⓒ	大貫通孔(d≦240mm) 四周を補強受材で補強 面材1枚につき1か所のみ可

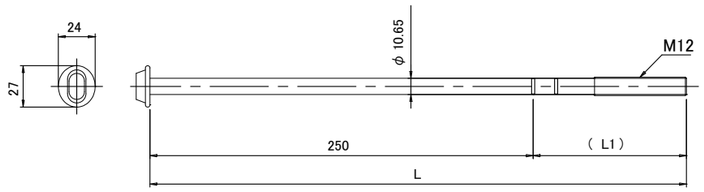
b)釘打ち及び断面

ⓓ	合板から補強受材へN50@90mmで釘打ち 補強受材は間柱と同寸以上の断面
ⓔ	補強受け材の留め付けは斜めビス2本止め

令和2年 2月17日改訂　一般社団法人　中大規模木造プレカット技術協会

MARU。architecture
有限会社マル・アーキテクチャ　一級建築士事務所　東京都知事登録第59575号　高野　洋平　一級建築士国土交通大臣登録第329238号
株式会社Dai建築DESIGN　一級建築士事務所　鹿児島県知事登録第1-6-1号　松葉瀬忠夫　一級建築士国土交通大臣登録第141001号
ARUP　オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド　一級建築士事務所　東京都知事登録第35571号　富岡　良太　一級建築士登録第355621号　構造設計一級建築士登録第10495号　菅　健太郎　一級建築士登録第318575号　設備設計一級建築士登録第4096号　向井　一将　一級建築士登録第328591号　設備設計一級建築士登録第4451号

Project Title	教8-18末吉小放課後児童クラブ施設改築本体工事
Client	曽於市
Name of Drawing	木造軸組接合部標準図-2
Scale	
Architect	
Drawn by	
Checked by	
Date	2026.10.09
	S-010



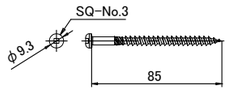
L	350	400	450
L1	100	150	200

ユニハットアンカーボルト M12

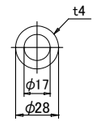
2020.5.1

BXカネシン株式会社

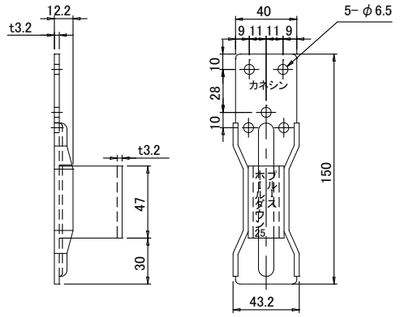




YPR－85



専用座金

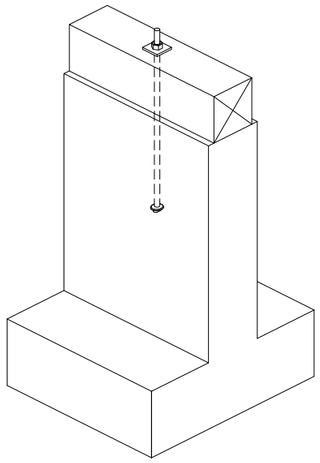


本体

プルースホールダウン25

2021.2.9

BXカネシン株式会社



ユニハットアンカーボルト M12

2021.2.9

BXカネシン株式会社

コルトアンカーボルトの仕様条件

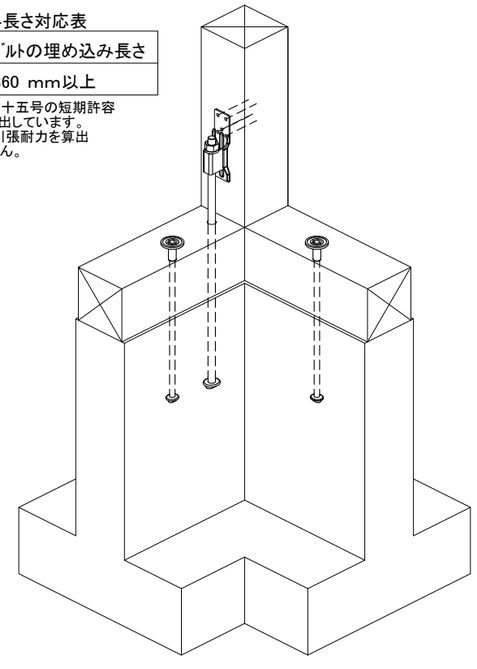
型番	対応可能引張耐力	ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの埋め込み長さ	ｺﾝｸﾘｰﾄ幅	ｺﾝｸﾘｰﾄ設計基準強度
PRH-25	25.3kN	240 mm以上	135 mm以上	Fc=18 N/mm²以上

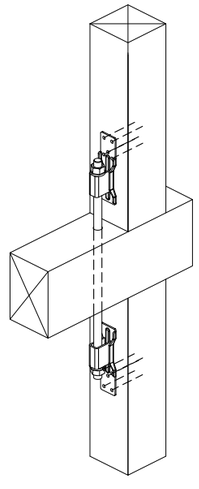
※各種合成構造設計指針より算出しております。

Zマークアンカーボルト（M16 ）等の埋め込み長さ対応表

型番	対応可能引張耐力	ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの埋め込み長さ
PRH-25	25.3kN	360 mm以上

※上記の埋め込み長さは国土交通省告示1024号第1第十五号の短期許容応力度(付着)を用い引張耐力に必要な表面積より算出しています。
また、建築基準法施行令90条に基づきボルト鋼材の引張耐力を算出し確認しています。定着長さにフックは含んでおりません。





プルースホールダウン25

2021.2.9

BXカネシン株式会社

MARU。architecture
有限会社マル・アーキテクチャ 一級建築士事務所 東京都知事登録第59575号
高野 洋平 一級建築士国土交通大臣登録第329238号
株式会社Dai建築DESIGN 一級建築士事務所 鹿児島県知事登録第1-6-1号
松葉瀬忠夫 一級建築士国土交通大臣登録第141001号
ARUP
オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 一級建築士事務所 東京都知事登録第35571号
富岡 良太 一級建築士登録第355621号 構造設計一級建築士登録第10495号
菅 健太郎 一級建築士登録第318575号 設備設計一級建築士登録第4096号
向井 一将 一級建築士登録第328591号 設備設計一級建築士登録第4451号

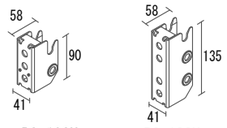
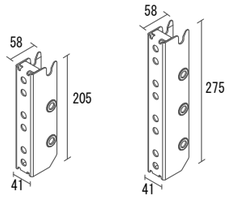
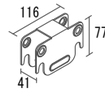
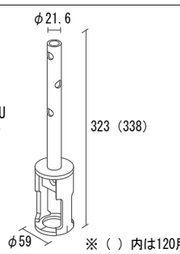
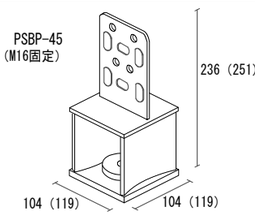
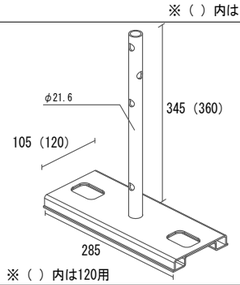
Project Title: 教8-18末吉小放課後児童クラブ施設改築本体工事
Client: 曽於市
Name of Drawing: 木造軸組接合部標準図-3
Scale:
Architect:
Drawn by:
Checked by:
Date: 2026.10.09
S-011

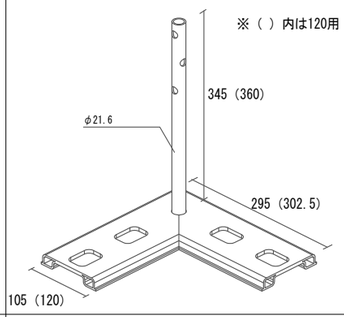
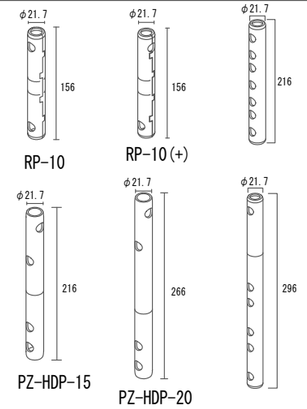
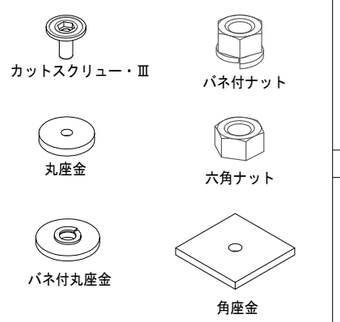
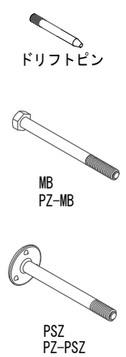
木造軸組接合部標準図　　金物工法―プレセッターＳＵ（ＢＸカネシン）

■：採用　□：不採用

PRESETOR SU

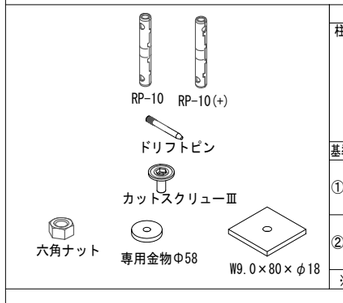
接合金物

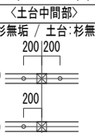
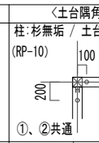
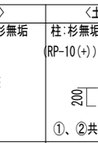
	種類・記号	形状
プレセッターSU梁受金物	■ PS-10SU 梁成 105以上180未満	 PS-10SU　PS-18SU
	■ PS-18SU 梁成 180以上240未満 ※登梁仕様 勾配0～5/10：180以上 勾配5/10超～10/10：210以上	
	■ PS-24SU 梁成 240以上330未満	 PS-24SU　PS-33SU
	■ PS-33SU 梁成 330以上	
和室バリアフリー金物	□ PS-SU10BF 大引金物	 PS-SU10BF
土台継手金物	□ PS-DJSU 土台継手用	 PS-DJSU
柱脚金物	□ PS-OPSU(105用) 土台成105用 □ PS-OPSU(120用) 土台成120用	 ※（ ）内は120用
	□ PSBP-45(105用) 土台成105用 □ PSBP-45(120用) 土台成120用	 ※（ ）内は120用
	□ PSHD-30ST-Ⅱ (105用) 土台成105用 □ PSHD-30ST-Ⅱ (120用) 土台成120用	 ※（ ）内は120用

	種類・記号	形状
柱脚金具	□ PSHD-30CN-Ⅱ (105用) 土台成105用 □ PSHD-30CN-Ⅱ (120用) 土台成120用	
柱頭柱脚金物・パイプ系	□ RP-10 □ RP-10(+) ■ PZ-HDP-15 ■ PZ-HDP-20 □ FP-140 □ FP-260	
接合具・ナット	□ カットスクリュー・Ⅲ C-SW-Ⅲ □ 丸座金 □ RW6.0×68×φ14 □ 専用金物φ58 □ バネ付丸座金 □ 4.5×45φ-B □ 角座金 □ W4.5×40×φ14 □ W6.0×60×φ14 □ W9.0×80×φ18 □ バネ付ナット □ M12BN □ M16BN □ 六角ナット □ M12 □ M16 □ その他	
接合具・ボルト・ドリフトピン	■ ドリフトピン □ MB（中ボルト） □ PZ-MB （プロイズ中ボルト） □ PSZ （PS座付きボルト） □ PZ-PSZ （プロイズPS座付きボルト）	

土台-柱納まり例　※短期引抜力を負担しない柱脚接合部においては、この仕様に関わらず接合方法を選択することができる。

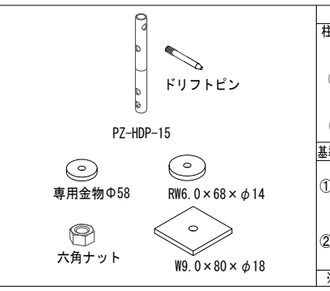
RP-10、RP-10(+)

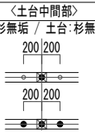
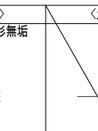


	〈土台中間部〉	〈土台隅角部〉	〈土台隅角部〉
	柱:杉無垢 / 土台:杉無垢	柱:杉無垢 / 土台:杉無垢	柱:杉無垢 / 土台:杉無垢
		 (RP-10)	 (RP-10(+))
基準引張耐力	11.2（(+)11.9）	11.1	(+)10.3
①	A.Bolt M12 座金 カットスクリューⅢ 埋込長 250mm以上	A.Bolt M12 座金 カットスクリューⅢ 埋込長 250mm以上	A.Bolt M16 座金 W9.0×80 埋込長 360mm以上
②	A.Bolt M12 座金 専用金物φ58 埋込長 250mm以上	A.Bolt M12 座金 専用金物φ58 埋込長 250mm以上	A.Bolt 座金 埋込長

※基礎幅150　Fc21N/mm2としてZボルトにて埋め込み長さ算出　※土台端部の設置は不可

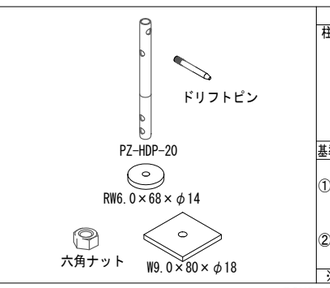
PZ-HDP-15



	〈土台中間部〉	〈土台隅角部〉	〈土台端部〉
	柱:杉無垢 / 土台:杉無垢	柱:杉無垢 / 土台:杉無垢	
			
基準引張耐力	21.1	16.2	
①	A.Bolt M12 座金 RW6.0×68 埋込長 250mm以上	A.Bolt M12 座金 専用金物φ58 埋込長 250mm以上	A.Bolt 座金 埋込長
②	A.Bolt M16 座金 W9.0×80 埋込長 360mm以上		A.Bolt 座金 埋込長

※基礎幅150　Fc21N/mm2としてZボルトにて埋め込み長さ算出　※土台端部の設置は不可

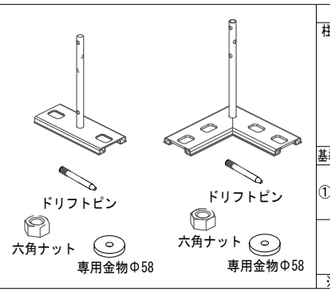
PZ-HDP-20

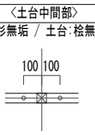
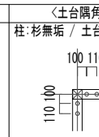
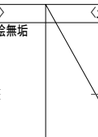


	〈土台中間部〉	〈土台隅角部〉	〈土台端部〉
	柱:杉無垢 / 土台:杉無垢	柱:杉無垢 / 土台:杉無垢	柱:杉無垢 / 土台:杉無垢
			
基準引張耐力	24.3		16.9
①	A.Bolt M12 座金 RW6.0×68 埋込長 260mm以上	A.Bolt 座金 埋込長	A.Bolt M16 座金 W9.0×80 埋込長 360mm以上
②	A.Bolt M16 座金 W9.0×80 埋込長 360mm以上	A.Bolt 座金 埋込長	A.Bolt 座金 埋込長

※基礎幅150　Fc21N/mm2としてZボルトにて埋め込み長さ算出

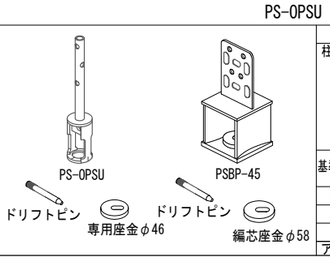
PSHD-30ST-Ⅱ　／　PSHD-30CN-Ⅱ

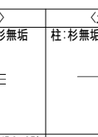


	〈土台中間部〉	〈土台隅角部〉	〈土台端部〉
	柱:杉無垢 / 土台:桧無垢	柱:杉無垢 / 土台:桧無垢	
			
基準引張耐力	30.5	30.8	
①	A.Bolt M12 座金 専用金物φ58 埋込長 250mm以上	A.Bolt M12 座金 専用金物φ58 埋込長 250mm以上	A.Bolt 座金 埋込長
②			A.Bolt 座金 埋込長

※基礎幅150　Fc21N/mm2としてZボルトにて埋め込み長さ算出

PS-OPSU　／　PSBP-45



	〈土台中間部〉	〈土台隅角部〉	〈土台端部〉
	柱:杉無垢 / 土台:杉無垢	柱:杉無垢 / 土台:杉無垢	柱:杉無垢 / 土台:杉無垢
			
基準引張耐力	30.1（PS-OP） 45.9（PSBP-45）	30.1（PS-OP） 45.9（PSBP-45）	30.1（PS-OP） 45.9（PSBP-45）
	A.Bolt M16 座金 専用金物φ58 埋込長	A.Bolt M16 座金 専用金物φ58 埋込長	A.Bolt M16 座金 専用金物φ58 埋込長

アンカーは必要耐力に応じて別途検討。

耐力表

プレセッターSU梁受金物(柱-梁型)
柱：杉同一等級構成構造用集成材E65-F255
梁：スプルース対称異等級構成構造用集成材E105-F300

	PS-10SU	PS-18SU	PS-24SU	PS-33SU
短期基準 引張耐力(kN)	10.2 (HP)	14.5 (HP)	21.8 (HP)	24.8 (HP)
短期基準 剪断耐力(kN)	8.7 (住木)	19.0 (住木)	31.3 (住木)	35.8 (住木)
短期基準 逆剪断耐力(kN)	6.8 (HP)	16.3 (HP)	27.0 (HP)	39.0 (HP)

プレセッターSU梁受金物(梁-梁型)
梁：スプルース対称異等級構成構造用集成材E105-F300

	PS-10SU	PS-18SU	PS-24SU	PS-33SU
短期基準 引張耐力(kN)	9.2 (HP)	18.3 (HP)	25.4 (HP)	34.6 (HP)
短期基準 剪断耐力(kN)	7.3 (HP)	17.4 (HP)	26.1 (HP)	40.5 (HP)

ロールパイプ・ホールダウンパイプ(杉KD材)・柱脚金物

	部位	RP-10	RP-10 (+)	PZ-HDP -15	PZ-HDP -20	FP-140	FP-260
短期基準 引張耐力(kN)	中柱	11.2 (建試)	11.9 (HP)	21.1 (HP)	24.3 (HP)	12.0 (HP)	11.1 (HP)
	隅角柱	11.1 (建試)	10.3 (HP)	16.2 (HP)		11.9 (HP)	11.1 (HP)
	隅柱				16.9 (HP)		
	柱-柱	13.7 (HP)					
短期基準 剪断耐力(kN)	中柱	4.5 (HP)		6.27 (社)	5.36 (社)		

	部位	PS-OPSU	PSBP-45	PSHD30 Ⅱ-CN	PSHD30 Ⅱ-ST
短期基準 引張耐力(kN)	中柱 隅柱	30.1 (HP)	45.9 (HP)	31.1(隅) (HP) *1	30.2(中) (HP) *1
短期基準 剪断耐力(kN)	中柱 隅柱	6.4 (HP)	9.3 (HP)		

■ *1は、柱：杉無垢、土台：桧無垢にて試験をおこなっていますので、杉材での耐力数値運用はできません。

■試験時使用樹種以上を使用可能推奨樹種としております。
ハイブリッドビームのようなラミナ構成の特殊なものは特にご注意ください。

■上記試験耐力値は材幅105以上を基本としております。

■住木:(公財)日本住宅・木造技術センター
ＨＰ:ハウスプラス確認検査(株)
建試:(一財)建材試験センター
社：㈱カネシン社内試験

試験データダウンロードURL
http://www.kaneshin.co.jp/user/certification.php
*ユーザー登録が必要となります。

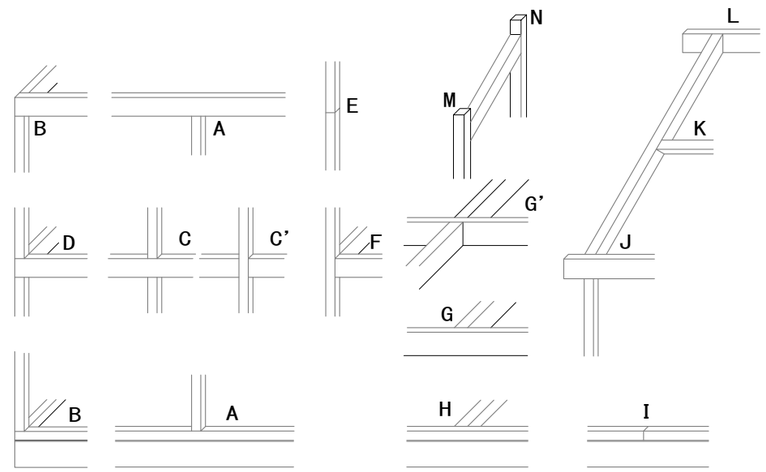
MARU。architecture　有限会社マル・アーキテクチャ 一級建築士事務所 東京都知事登録第59575号　高野 洋平 一級建築士国土交通大臣登録第329238号
株式会社Dai建築DESIGN 一級建築士事務所 鹿児島県知事登録第1-6-1号　松葉瀬忠夫 一級建築士国土交通大臣登録第141001号
ARUP　オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 一級建築士事務所 東京都知事登録第35571号　富岡 良太 一級建築士登録第355621号 構造設計一級建築士登録第10495号　晋 健太郎 一級建築士登録第318575号 設備設計一級建築士登録第4096号　向井 一将 一級建築士登録第328591号 設備設計一級建築士登録第4451号

Project Title	Client	Name of Drawing	Scale	Architect / Drawn by / Checked by	Date	
教8-18末吉小放課後児童クラブ施設改築本体工事	曽於市	木造軸組接合部標準図-4			2026.10.09	S-012

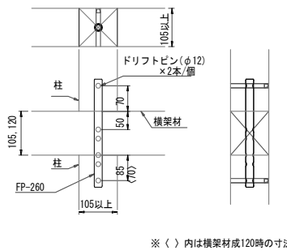
木造軸組接合部標準図 金物工法 プレセッターＳＵ （ＢＸカネシン）

PRESETOR SU

キープラン

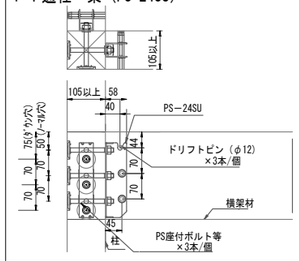


C：中柱　柱頭－梁－柱脚（FP-260）

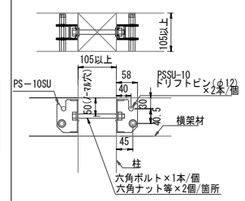


※（ ）内は横架材成120時の寸法

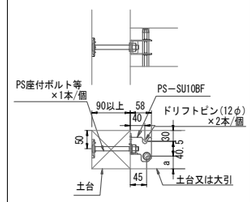
F：通柱－梁（PS-24SU）



C'：柱-梁両面使い(PS-10SU)

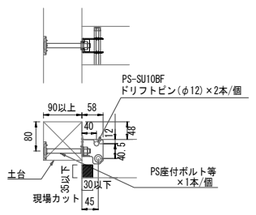


H：土台－大引き(PS-SU10BF)

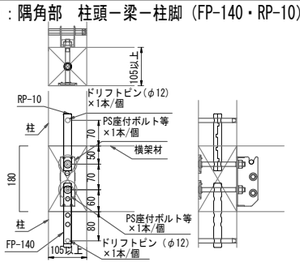


H：土台－大引き(PS-SU10BF)

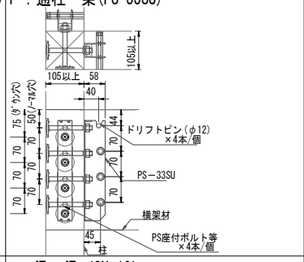
大引き天端-土台天端-48mm



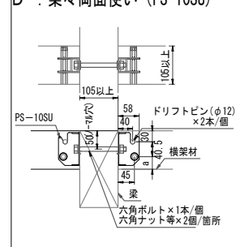
D：隅角部　柱頭－梁－柱脚（FP-140・RP-10）



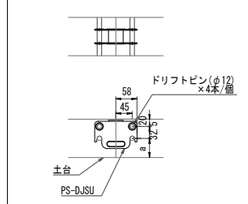
F：通柱－梁(PS-33SU)



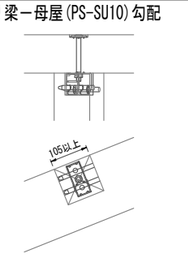
D'：梁々両面使い（PS-10SU）



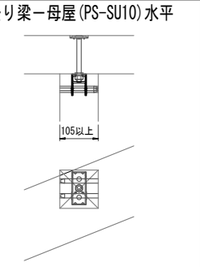
I：土台-継手仕口



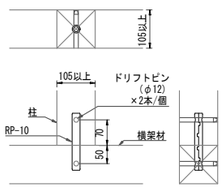
K：登り梁－母屋(PS-SU10)勾配



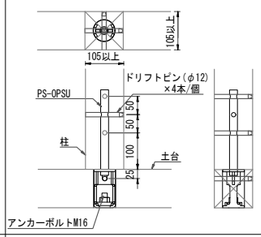
K：登り梁－母屋(PS-SU10)水平



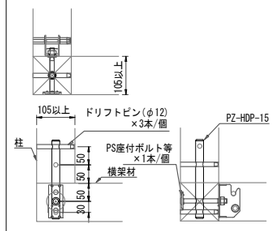
A：中柱（RP-10）



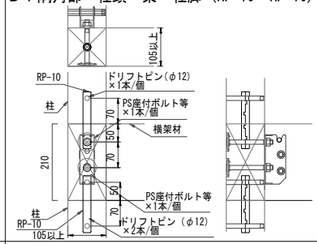
A：中柱（PS-OPSU）



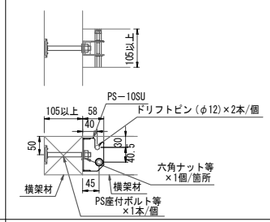
B：PZ-HDP-15 隅角部



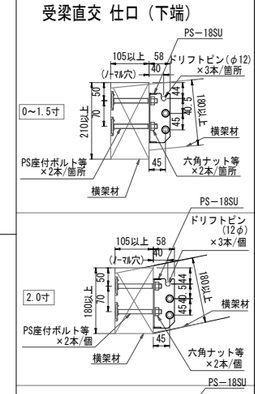
D：隅角部　柱頭－梁－柱脚（RP-10・RP-10）



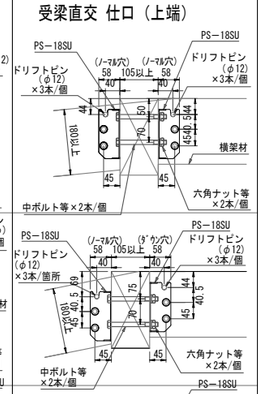
G：梁－梁（SU-10）



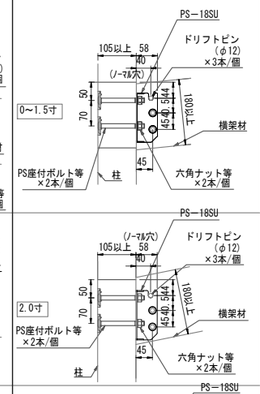
J：登り梁－梁
受梁直交 仕口（下端）



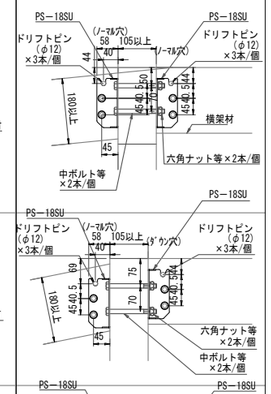
L：登り梁－梁
受梁直交 仕口（上端）



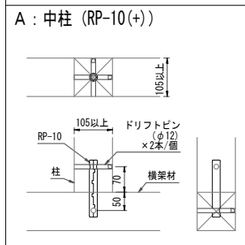
M：登り梁－柱　直交 仕口（下端）



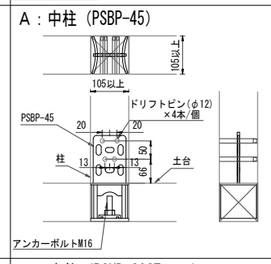
N：登り梁－柱　直交 仕口（上端）



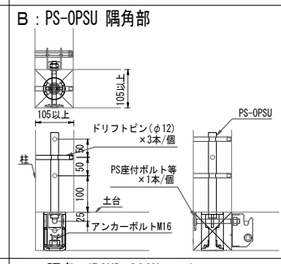
A：中柱（RP-10(+)）



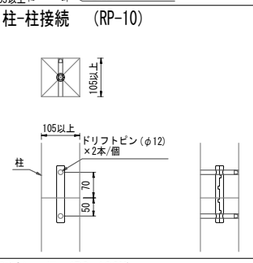
A：中柱（PSBP-45）



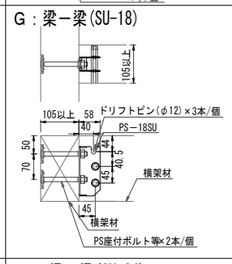
B：PS-OPSU 隅角部



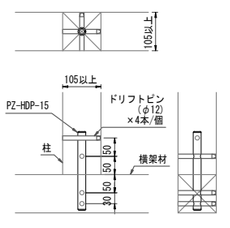
E：柱-柱接続　（RP-10）



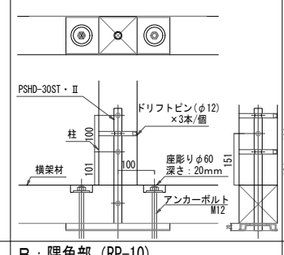
G：梁－梁(SU-18)



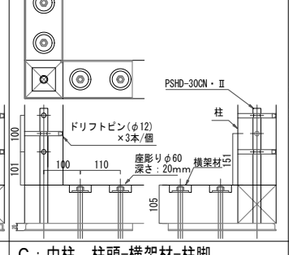
A：中柱（PZ-HDP-15）



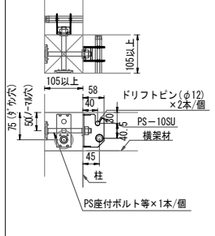
A：中柱（PSHD-30ST・Ⅱ）



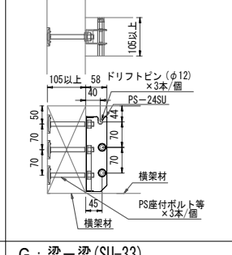
B：隅角（PSHD-30CN・Ⅱ）



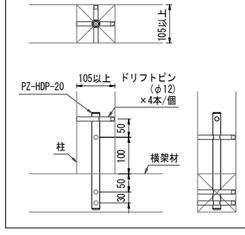
F：通柱－梁（PS-10SU）



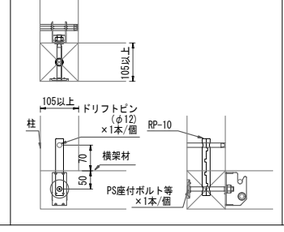
G：梁－梁(SU-24)



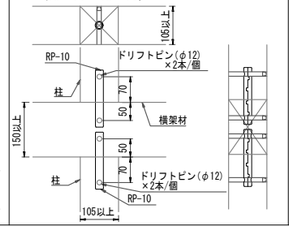
A：中柱（PZ-HDP-20 ）



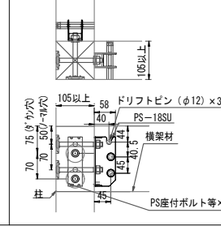
B：隅角部（RP-10）



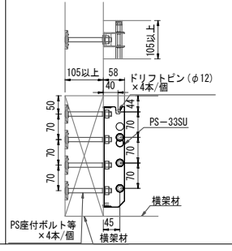
C：中柱　柱頭-横架材-柱脚
（RP-10・RP-10）



F：通柱－梁(PS-18SU)



G：梁－梁(SU-33)



MARU。architecture
有限会社マル・アーキテクチャ
一級建築士事務所
東京都知事登録第59575号
高野　洋平
一級建築士国土交通大臣登録
第329238号

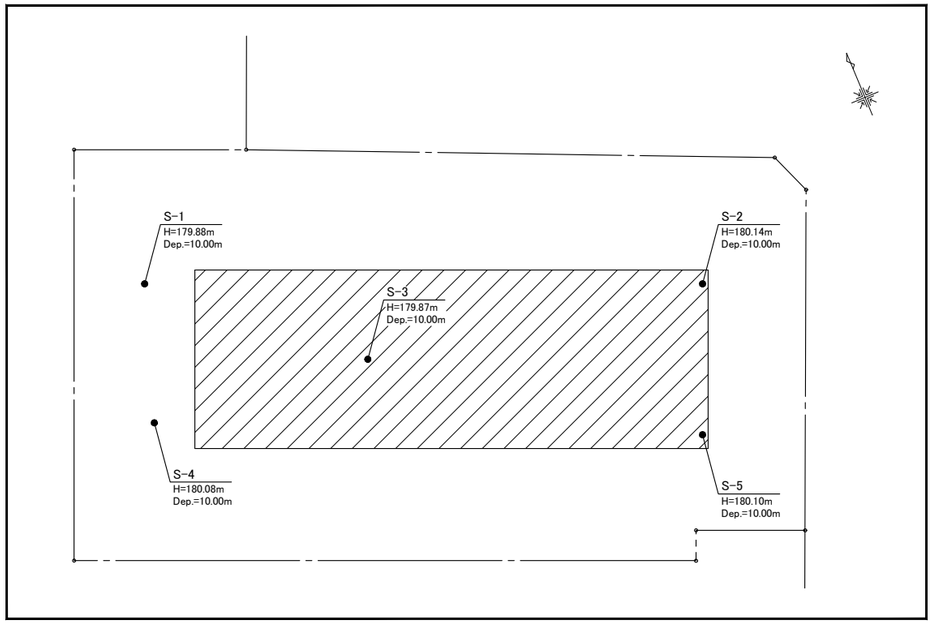
株式会社Dai建築DESIGN
一級建築士事務所
鹿児島県知事登録第1-6-1号
松葉瀬忠夫
一級建築士国土交通大臣登録
第141001号

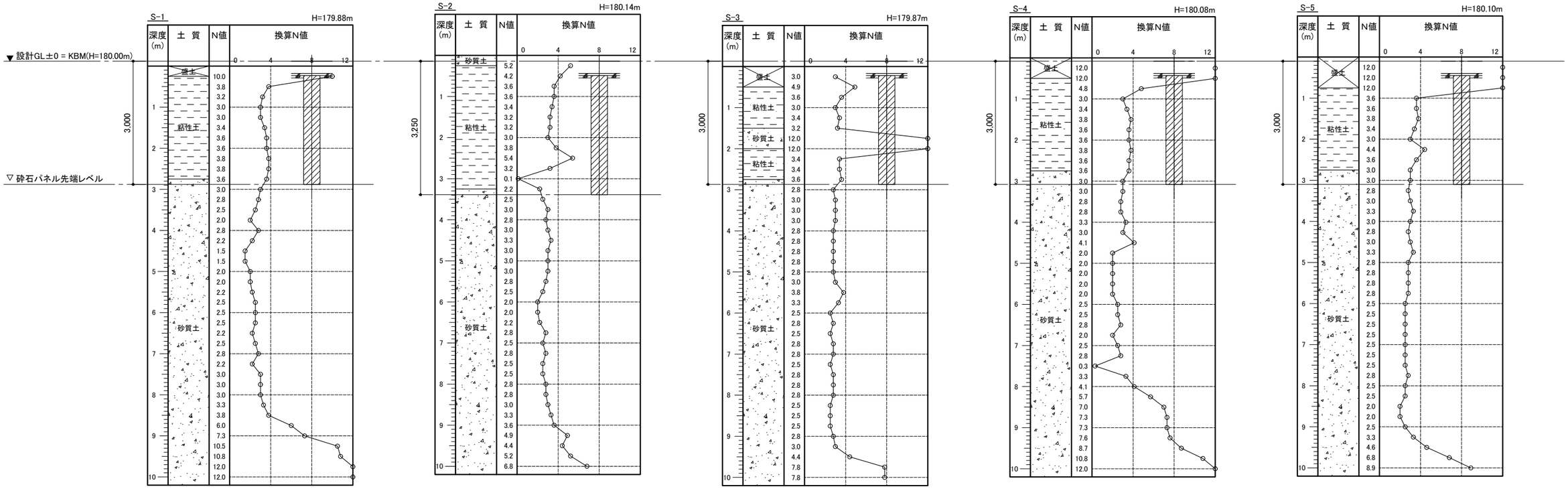
ARUP
オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド
一級建築士事務所
東京都知事登録第35571号
富岡　良太
一級建築士登録第355621号
構造設計一級建築士登録
第10495号
菅　健太郎
一級建築士登録第318575号
設備設計一級建築士登録
第4096号
向井　一将
一級建築士登録第328591号
設備設計一級建築士登録
第4451号

Project Title	Client	Name of Drawing	Scale	Architect / Drawn by / Checked by	Date	
牧8-18末吉小放課後児童クラブ施設改築本体工事	曽於市	木造軸組接合部標準図-5			2026.10.09	S-013

ボーリング柱状図

調査位置平面図





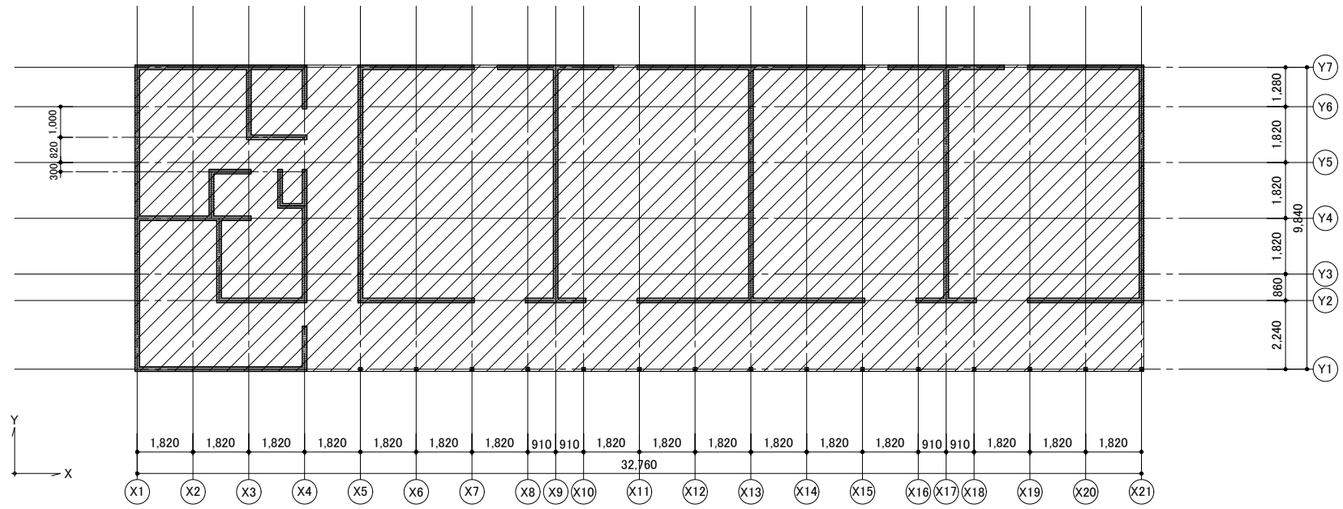
MARU。architecture
有限会社マル・アーキテクチャ 一級建築士事務所 東京都知事登録第59575号
高野 洋平 一級建築士国土交通大臣登録第329238号
株式会社Dai建築DESIGN 一級建築士事務所 鹿児島県知事登録第1-6-1号
松葉瀬忠夫 一級建築士国土交通大臣登録第141001号
ARUP
オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 一級建築士事務所 東京都知事登録第35571号
富岡 良太 一級建築士登録第355621号 構造設計一級建築士登録第10495号
菅 健太郎 一級建築士登録第318575号 設備設計一級建築士登録第4096号
向井 一将 一級建築士登録第328591号 設備設計一級建築士登録第4451号

Project Title	Client	Name of Drawing	Scale	Architect / Drawn by / Checked by	Date	
教8-18末吉小放課後児童クラブ施設改築本体工事	曽於市	ボーリング柱状図			2026.10.09	S-014

基礎伏図　1/200

特記なき限り

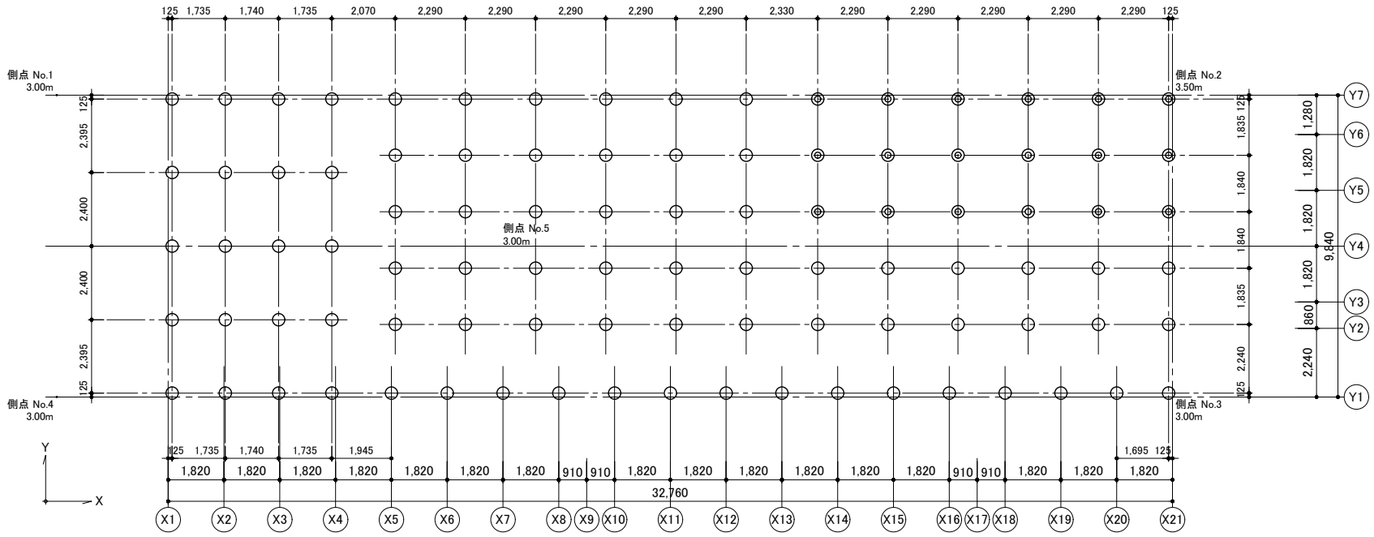
1. 1FL = 設計GL+150
2. 耐圧版符号　▨ FS30
3. 耐圧版天端レベル　1FL−150
4. 壁符号　W15
5. 壁天端レベル　1FL+250
6. RC柱天端レベル　1FL+250
7. ■　印は、RC柱型(120mmx120mm、スパイラル筋：p60+立上り筋：D6−1本)を示す



地盤改良体伏図　1/200

特記なき限り

1. 設計GL = 1FL−150 (= KBM±0)
2. 砕石パイル　○ φ400　◎ φ400
3. 砕石パイル下端レベル　○ 設計GL−3,000　◎ 設計GL−3,250



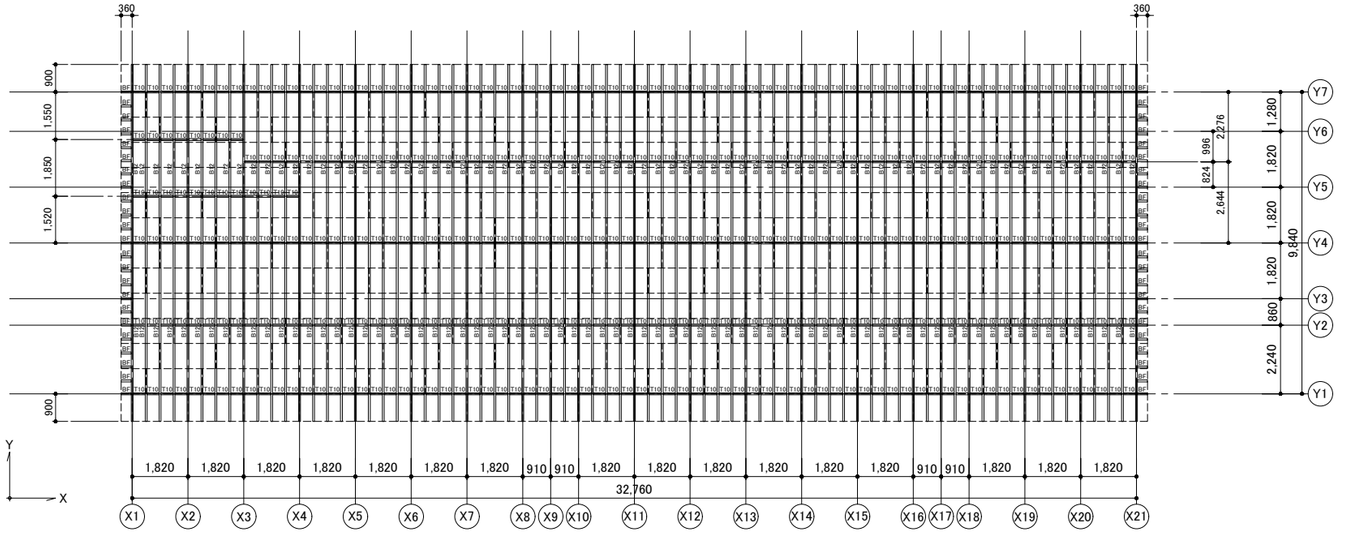
MARU。architecture | 有限会社マル・アーキテクチャ 一級建築士事務所 東京都知事登録第59575号 | 高野 洋平 一級建築士国土交通大臣登録第329238号
株式会社Dai建築DESIGN 一級建築士事務所 鹿児島県知事登録第1-6-1号 | 松葉瀬忠夫 一級建築士国土交通大臣登録第141001号
ARUP | オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 一級建築士事務所 東京都知事登録第35571号 | 富岡 良太 一級建築士登録第355621号 構造設計一級建築士登録第10495号 | 菅 健太郎 一級建築士登録第318575号 設備設計一級建築士登録第4096号 | 向井 一将 一級建築士登録第328591号 設備設計一級建築士登録第4451号

Project Title	Client	Name of Drawing	Scale	Architect	Date	
教8-18末吉小放課後児童クラブ施設改築本体工事	曽於市	地盤改良体伏図、基礎伏図	A1:1/100 A3:1/200	Drawn by Checked by	2026.10.09	S-021

垂木伏図 1/200

特記なき限り

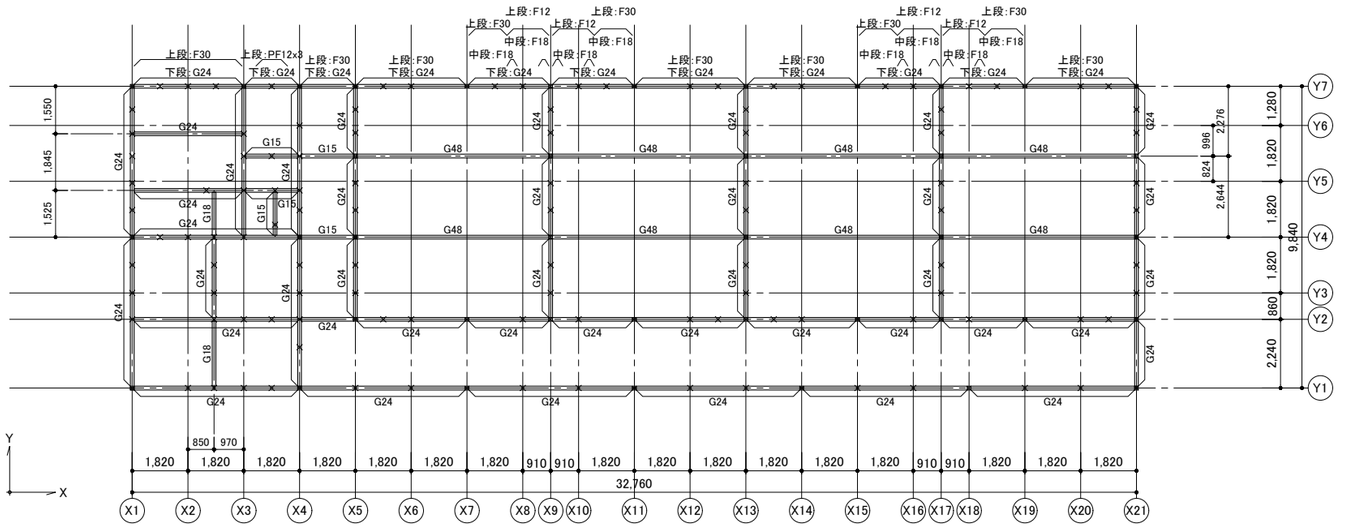
1. 屋根材 □□□ S1



屋根伏図 1/200

特記なき限り

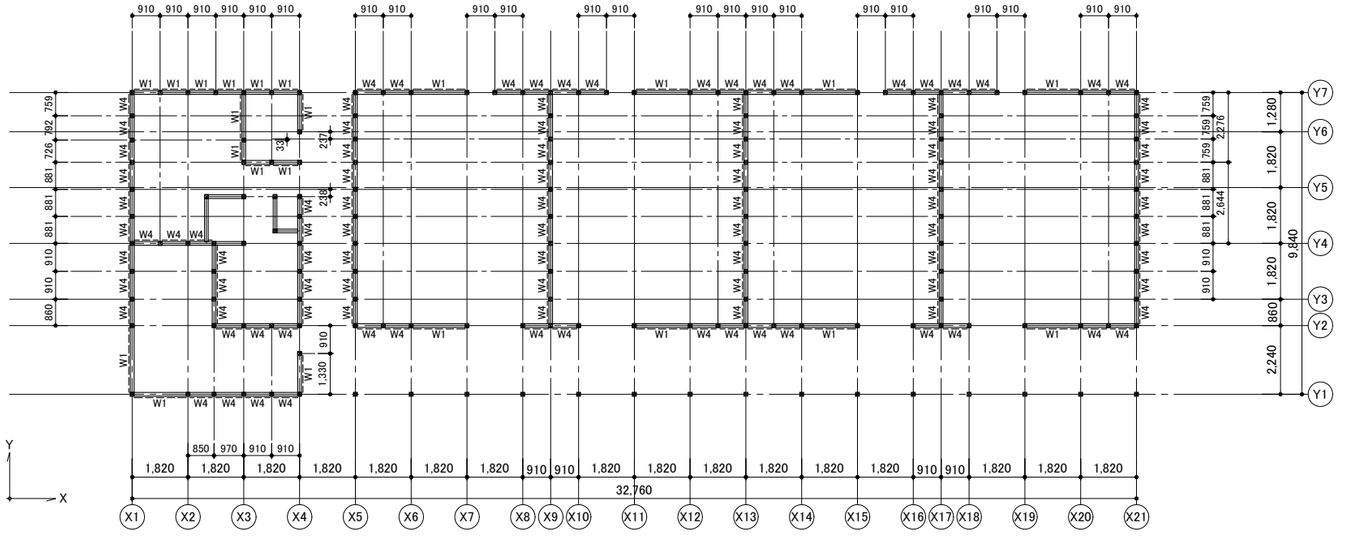
1. 梁天端レベル 軸組図による
2. ■ 印は、柱勝ちを示す
   × 印は、梁勝ちを示す



1階床伏図 1/200

特記なき限り

1. 土台符号 D1
2. 土台天端レベル 1FL+390
3. 柱符号 ■ C1
4. ─ ─ ─ 印は、壁位置を示す

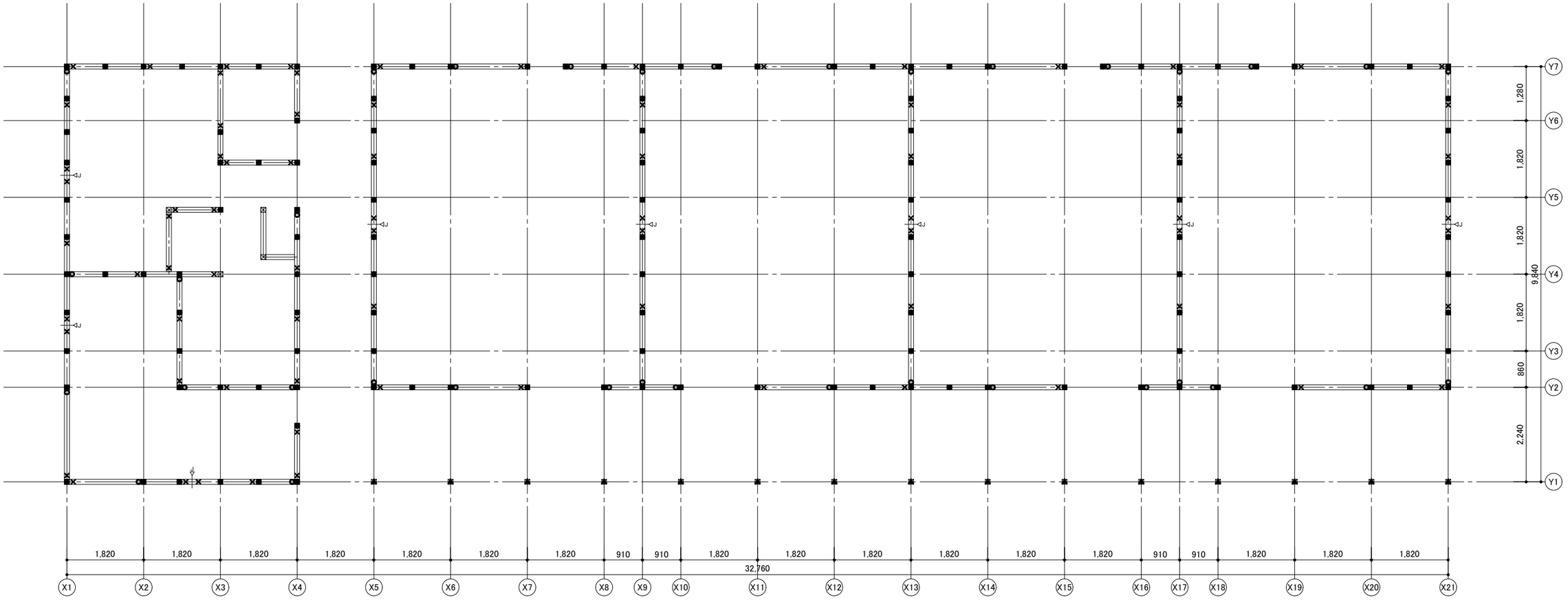


MARU。architecture | 有限会社マル・アーキテクチャ 一級建築士事務所 東京都知事登録第59575号 | 高野 洋平 一級建築士国土交通大臣登録第329238号

株式会社Dai建築DESIGN 一級建築士事務所 鹿児島県知事登録第1-6-1号 | 松葉瀬忠夫 一級建築士国土交通大臣登録第141001号

ARUP | オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 一級建築士事務所 東京都知事登録第35571号 | 富岡 良太 一級建築士登録第355621号 構造設計一級建築士登録第10495号 | 菅 健太郎 一級建築士登録第318575号 設備設計一級建築士登録第4096号 | 向井 一将 一級建築士登録第328591号 設備設計一級建築士登録第4451号

Project Title	教8-18末吉小放課後児童クラブ施設改築本体工事
Client	曽於市
Name of Drawing	1階床伏図,屋根伏図,垂木伏図
Scale	A1:1/100 A3:1/200
Architect	
Drawn by	
Checked by	
Date	2026.10.09
	S-022



柱頭・柱脚金物取付図　1/100

特記なき限り

1. 土台符号　D1
2. ⏚ 印は、土台継手位置を示す
3. 柱符号　■ C1
4. 柱脚金物・梁勝ち柱頭金物　●印 : RP-10
5. 柱脚金物　×印 : UHA-M12
   ○印 : PRH-25
   ▲印 : D BOLT

＜柱脚金物・接合金物凡例＞

UHA-M12 :ユニハットアンカーボルト M12
（BX カネシン株式会社製）
PRH-25 :プルースホールダウン
（BX カネシン株式会社製）
RP-10 :ロールパイプ RP-10
（BX カネシン株式会社製）
D BOLT :D ボルトシステム(ホールアンカータイプ)
（コボット株式会社製）

※ 金物は、図中に示すメーカー製品、または同等以上の性能を有するものとする。
※ 既製品金物は、メーカー指定の専用金物、専用ビス、専用ボルト、
専用座金、専用ドリフトピン等を用いて取り付けること。
※ 各金物の取付位置、向き、接合具本数、アンカーボルト径、
埋込深さ等は、メーカーの最新資料および施工マニュアルによること。

MARU。architecture
有限会社マル・アーキテクチャ 一級建築士事務所 東京都知事登録第59575号
高野 洋平 一級建築士国土交通大臣登録第329238号
株式会社Dai建築DESIGN 一級建築士事務所 鹿児島県知事登録第1-6-1号
松葉瀬忠夫 一級建築士国土交通大臣登録第141001号
ARUP
オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 一級建築士事務所 東京都知事登録第35571号
富岡 良太 一級建築士登録第355621号 構造設計一級建築士登録第10495号
菅 健太郎 一級建築士登録第318575号 設備設計一級建築士登録第4096号
向井 一将 一級建築士登録第328591号 設備設計一級建築士登録第4451号

Project Title: 教8-18末吉小放課後児童クラブ施設改築本体工事
Client: 曽於市
Name of Drawing: 柱頭・柱脚金物取付図
Scale: A1:1/50 A3:1/100
Architect
Drawn by
Checked by
Date: 2026.10.09
S-023

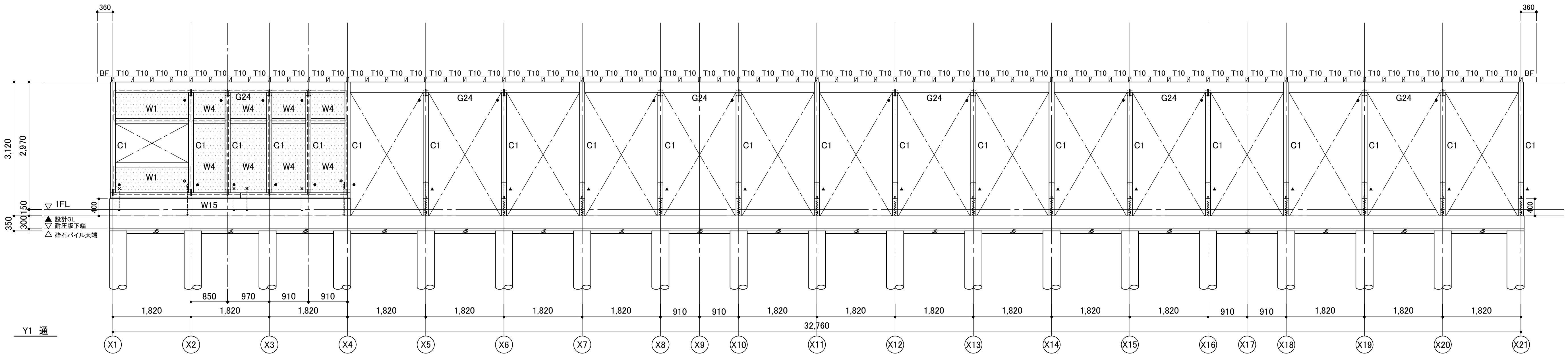
軸組図-1　1/100

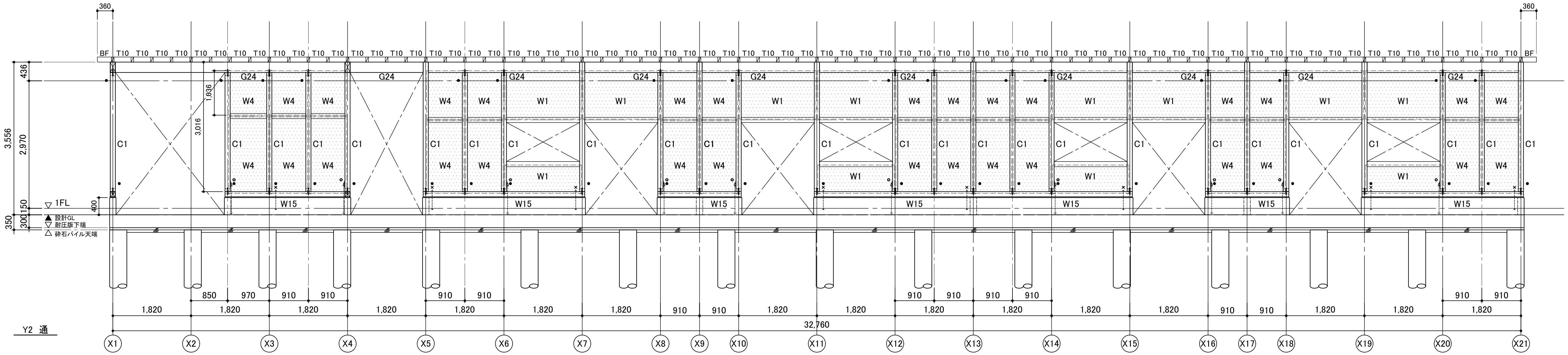
特記なき限り 1. 土台符号　D1
2. ⬚⬚⬚ 印は、構造用合板を示す
3. 構造用合板を張り継ぐ位置（土台芯からh=1,820）、開口を設ける場合は境界部に
受け材：■-120x120(スギ製材、無等級)を設ける
4. 柱脚金物
×印：UHA-M12
○印：PRH-25
●印：RP-10
▲印：D BOLT

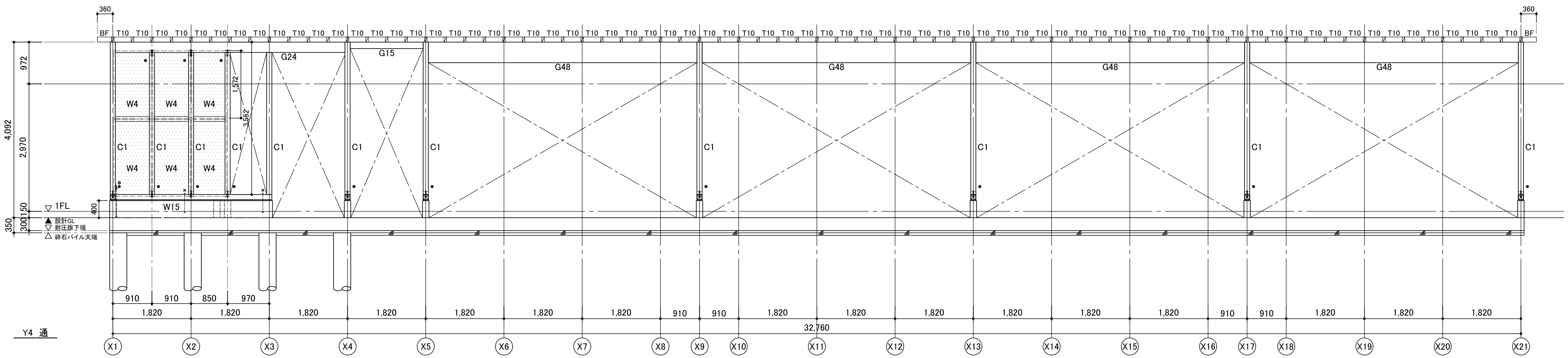
＜柱脚金物・接合金物凡例＞

UHA-M12 ：ユニハットアンカーボルト M12（BX カネシン株式会社製）
PRH-25 ：プルースホールダウン（BX カネシン株式会社製）
RP-10 ：ロールパイプ RP-10（BX カネシン株式会社製）
D BLOT ：D ボルトシステム(ホールアンカータイプ)（コボット株式会社製）

※ 金物は、図中に示すメーカー製品、または同等以上の性能を有するものとする。
※ 既製品金物は、メーカー指定の専用金物、専用ビス、専用ボルト、専用座金、専用ドリフトピン等を用いて取り付けること。
※ 各金物の取付位置、向き、接合具本数、アンカーボルト径、埋込深さ等は、メーカーの最新資料および施工マニュアルによること。







軸組図-2

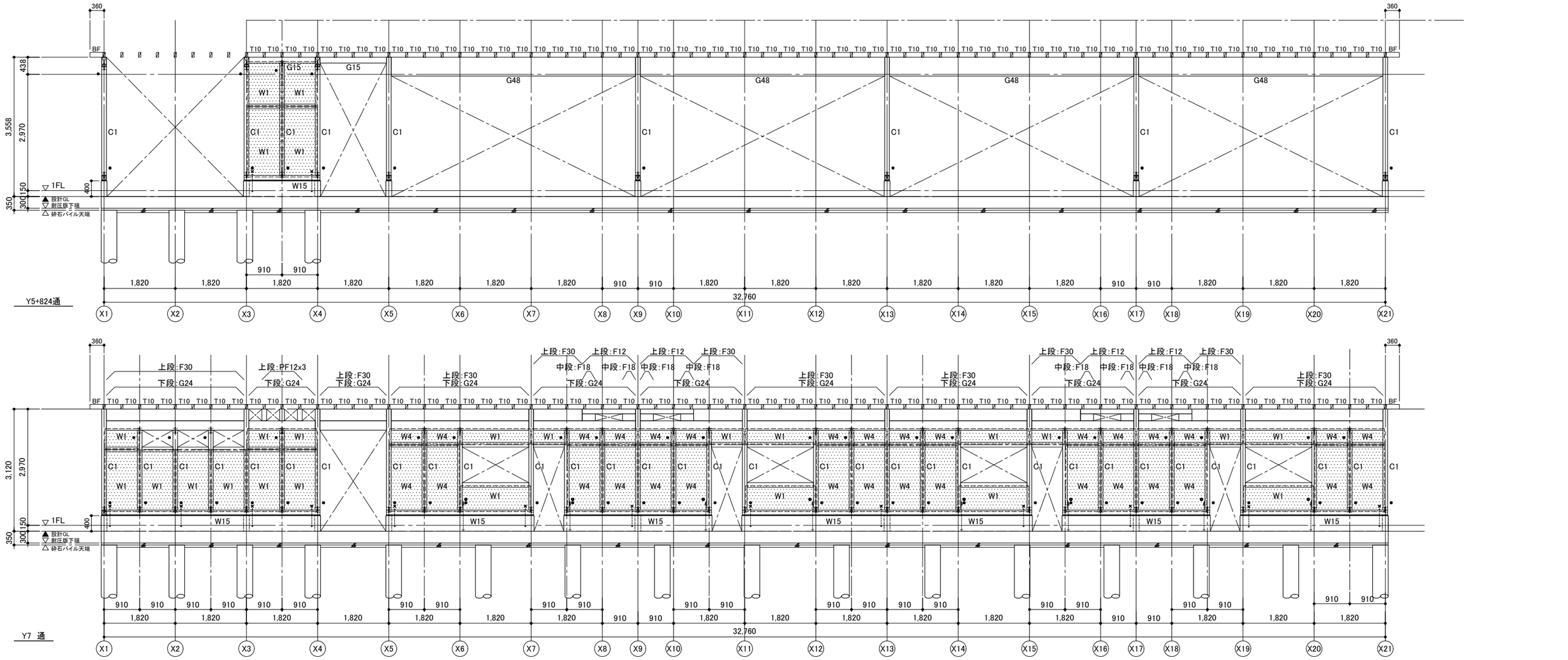
1/100

特記なき限り 1. 土台符号　D1
2. ▭ 印は、構造用合板を示す
3. 構造用合板を張り継ぐ位置(土台芯からh=1,820)、開口を設ける場合は境界部に
═ 受け材：■-120x120(スギ製材、無等級)を設ける
4. 柱脚金物　×印：UHA-M12
○印：PRH-25
●印：RP-10
▲印：D BOLT

＜柱脚金物・接合金物凡例＞

UHA-M12 ：ユニハットアンカーボルト M12（BX カネシン株式会社製）
PRH-25 ：ブルースホールダウン（BX カネシン株式会社製）
RP-10 ：ロールパイプ RP-10（BX カネシン株式会社製）
D BLOT ：D ボルトシステム(ホールアンカータイプ)（コボット株式会社製）

※ 金物は、図中に示すメーカー製品、または同等以上の性能を有するものとする。
※ 既製品金物は、メーカー指定の専用金物、専用ビス、専用ボルト、専用座金、専用ドリフトピン等を用いて取り付けること。
※ 各金物の取付位置、向き、接合具本数、アンカーボルト径、埋込深さ等は、メーカーの最新資料および施工マニュアルによること。



MARU。architecture
有限会社マル・アーキテクチャ 一級建築士事務所 東京都知事登録第59575号
高野 洋平 一級建築士国土交通大臣登録第329238号
株式会社Dai建築DESIGN 一級建築士事務所 鹿児島県知事登録第1-6-1号
松葉瀬忠夫 一級建築士国土交通大臣登録第141001号
ARUP
オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 一級建築士事務所 東京都知事登録第35571号
富岡 良太 一級建築士登録第355621号 構造設計一級建築士登録第10495号
菅 健太郎 一級建築士登録第318575号 設備設計一級建築士登録第4096号
向井 一将 一級建築士登録第328591号 設備設計一級建築士登録第4451号

Project Title	Client	Name of Drawing	Scale	Architect	Date	
教8-18末吉小放課後児童クラブ施設改築本体工事	曽於市	軸組図-2	A1：1/50 A3：1/100	Drawn by Checked by	2026.10.09	S-032

軸組図-3

1/100

特記なき限り 1. 土台符号　D1
2. ▭ 印は、構造用合板を示す

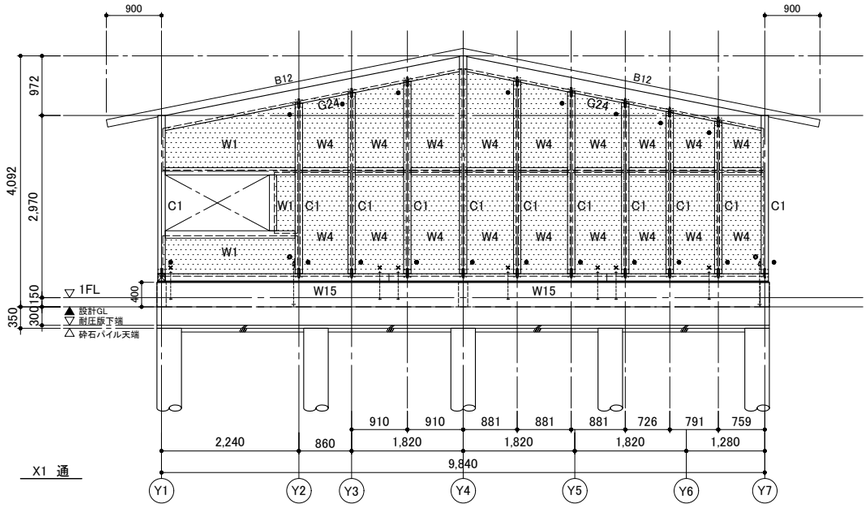
3. 構造用合板を張り継ぐ位置(土台芯からh=1,820)、開口を設ける場合は境界部に
受け材：■-120x120(スギ製材、無等級)を設ける

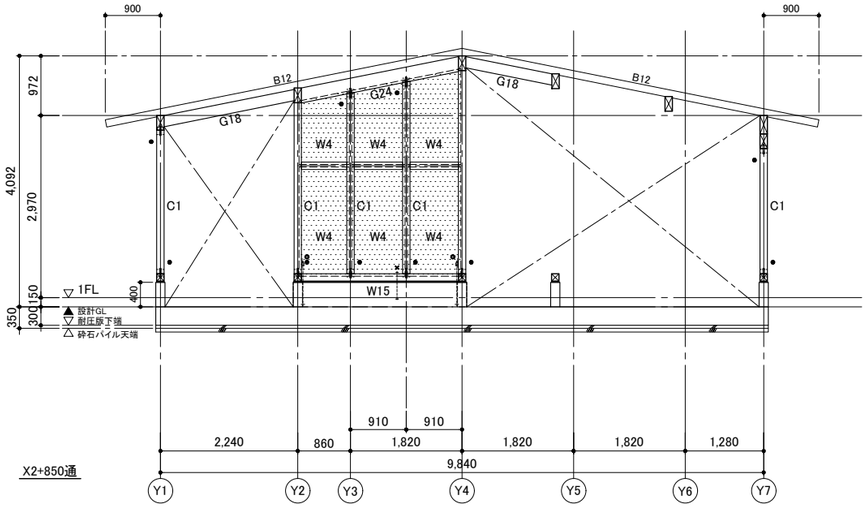
4. 柱脚金物　×印：UHA-M12
○印：PRH-25
●印：RP-10
▲印：D BOLT

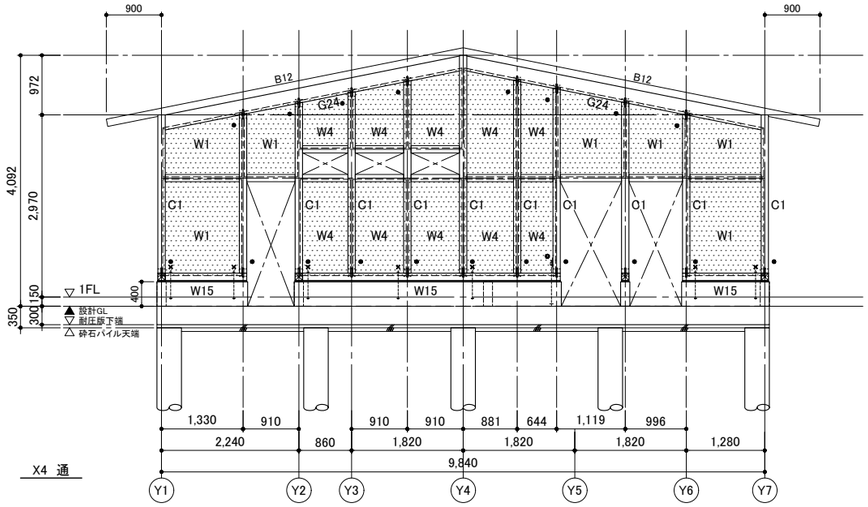
＜柱脚金物・接合金物凡例＞

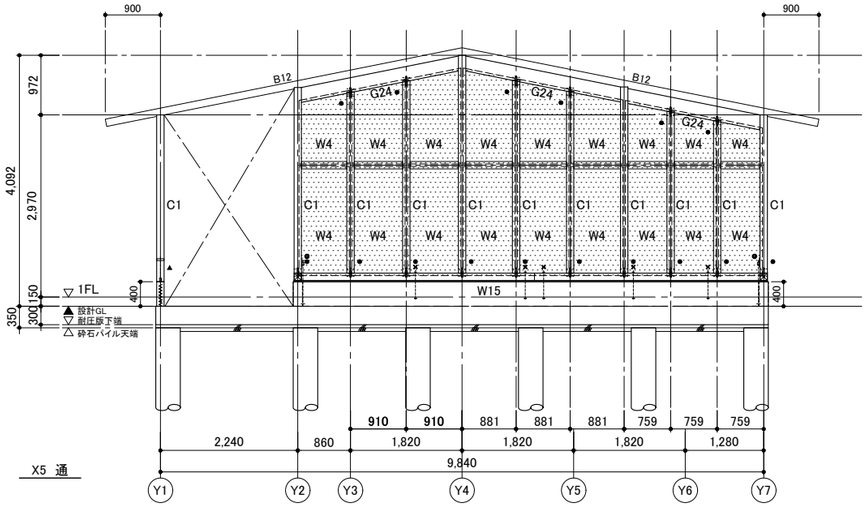
UHA-M12 ：ユニハットアンカーボルト M12（BX カネシン株式会社製）
PRH-25 ：ブルースホールダウン（BX カネシン株式会社製）
RP-10 ：ロールパイプ RP-10（BX カネシン株式会社製）
D BLOT ：D ボルトシステム(ホールアンカータイプ)（コボット株式会社製）

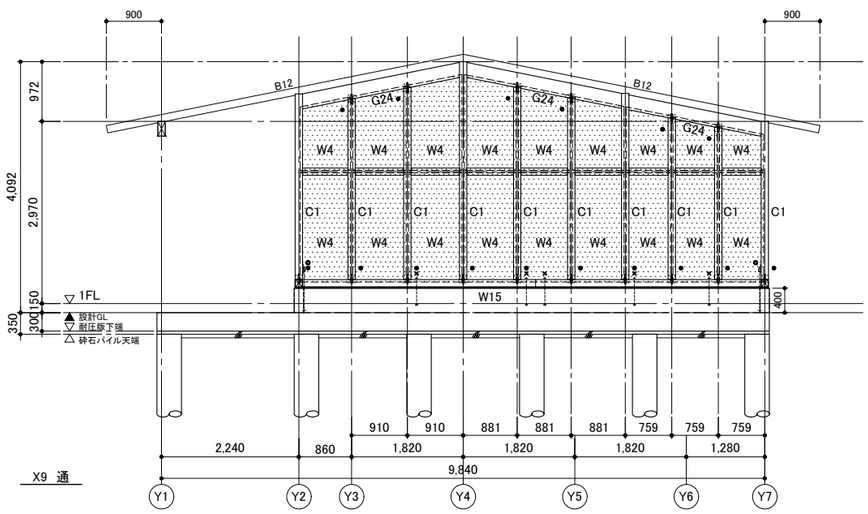
※ 金物は、図中に示すメーカー製品、または同等以上の性能を有するものとする。
※ 既製品金物は、メーカー指定の専用金物、専用ビス、専用ボルト、専用座金、専用ドリフトピン等を用いて取付けること。
※ 各金物の取付位置、向き、接合具本数、アンカーボルト径、埋込深さ等は、メーカーの最新資料および施工マニュアルによること。

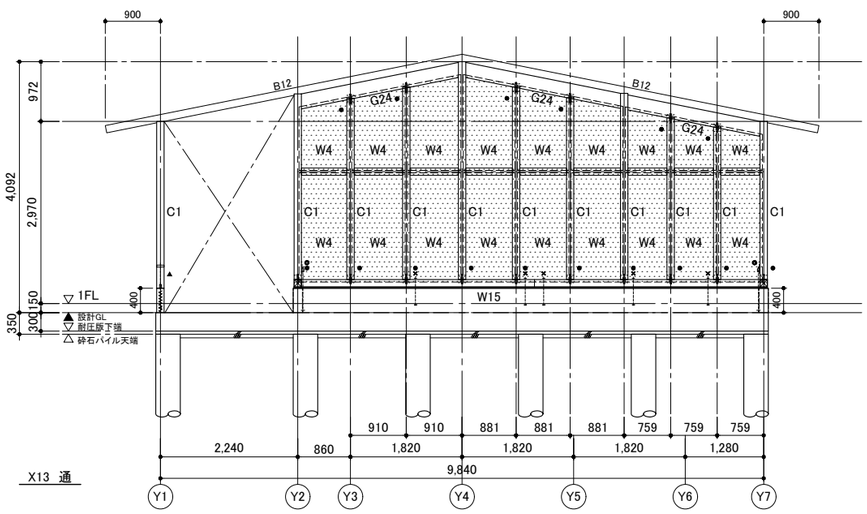












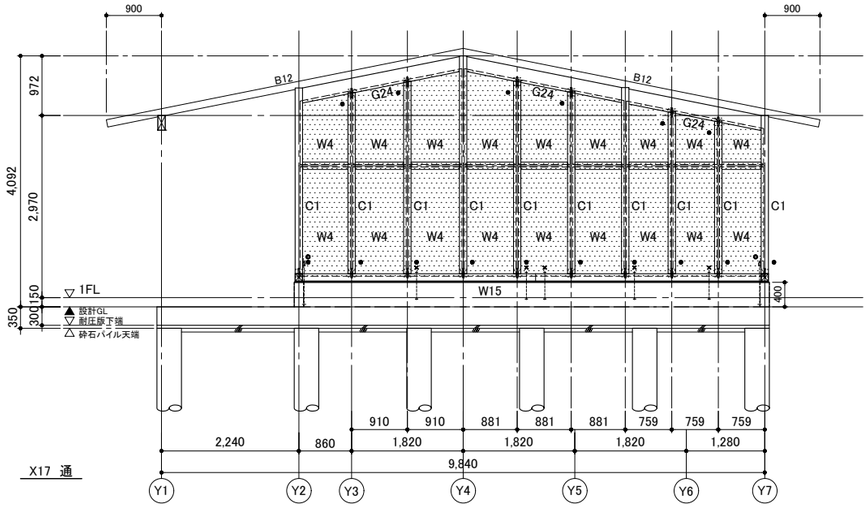
MARU。architecture
有限会社マル・アーキテクチャ 一級建築士事務所 東京都知事登録第59575号
高野 洋平 一級建築士国土交通大臣登録第329238号
株式会社Dai建築DESIGN 一級建築士事務所 鹿児島県知事登録第1-6-1号
松葉瀬忠夫 一級建築士国土交通大臣登録第141001号
ARUP
オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 一級建築士事務所 東京都知事登録第35571号
富岡 良太 一級建築士登録第355621号 構造設計一級建築士登録第10495号
菅 健太郎 一級建築士登録第318575号 設備設計一級建築士登録第4096号
向井 一将 一級建築士登録第328591号 設備設計一級建築士登録第4451号

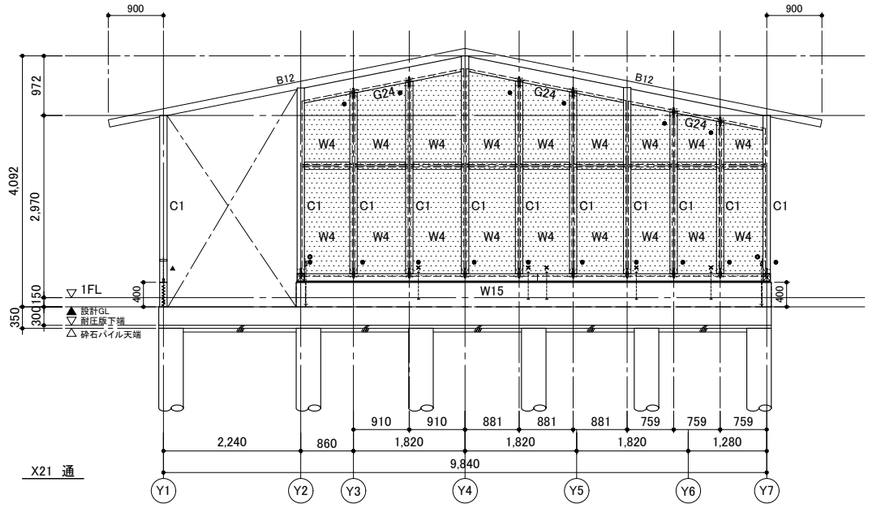
Project Title	Client	Name of Drawing	Scale	Architect / Drawn by / Checked by	Date	
教8-18末吉小放課後児童クラブ施設改築本体工事	曽於市	軸組図-3	A1：1/50 A3：1/100		2026.10.09	S-033

軸組図-4

1/100

特記なき限り 1. 土台符号　D1
2. □□□ 印は、構造用合板を示す
3. 構造用合板を張り継ぐ位置(土台芯からh=1,820)、開口を設ける場合は境界部に
受け材：■-120x120(スギ製材、無等級)を設ける
4. 柱脚金物　×印：UHA-M12
○印：PRH-25
●印：RP-10
▲印：D BOLT





＜柱脚金物・接合金物凡例＞

UHA-M12 ：ユニハットアンカーボルト M12（BX カネシン株式会社製）
PRH-25 ：ブルースホールダウン（BX カネシン株式会社製）
RP-10 ：ロールパイプ RP-10（BX カネシン株式会社製）
D BLOT ：D ボルトシステム(ホールアンカータイプ)（コボット株式会社製）

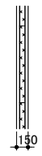
※ 金物は、図中に示すメーカー製品、または同等以上の性能を有するものとする。
※ 既製品金物は、メーカー指定の専用金物、専用ビス、専用ボルト、専用座金、専用ドリフトピン等を用いて取り付けること。
※ 各金物の取付位置、向き、接合具本数、アンカーボルト径、埋込深さ等は、メーカーの最新資料および施工マニュアルによること。

MARU。architecture
有限会社マル・アーキテクチャ 一級建築士事務所 東京都知事登録第59575号
高野 洋平 一級建築士国土交通大臣登録第329238号
株式会社Dai建築DESIGN 一級建築士事務所 鹿児島県知事登録第1-6-1号
松葉瀬忠夫 一級建築士国土交通大臣登録第141001号
ARUP
オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 一級建築士事務所 東京都知事登録第35571号
富岡 良太 一級建築士登録第355621号 構造設計一級建築士登録第10495号
菅 健太郎 一級建築士登録第318575号 設備設計一級建築士登録第4096号
向井 一将 一級建築士登録第328591号 設備設計一級建築士登録第4451号

Project Title	Client	Name of Drawing	Scale	Architect	Date	
教8-18末吉小放課後児童クラブ施設改築本体工事	曽於市	軸組図-4	A1：1/50 A3：1/100	Drawn by Checked by	2026.10.09	S-034

壁リスト 1/80

特記なき限り 1. 巾止め筋　D10−@1,000(縦筋・横筋共通)
2. 開口補強筋の鉄筋材質は、特記仕様にならう

符号		W15			
水平断面					
縦筋		D13−@200(ﾀﾞﾌﾞﾙﾁﾄﾞﾘ)			
横筋		D13−@200(ﾀﾞﾌﾞﾙﾁﾄﾞﾘ)			
開口部	縦筋	2−D13			
	横筋	2−D13			
	斜め筋	2−D13			
備考					

耐圧版リスト

特記なき限り 1. 地業　捨てコンクリート t=50, 砂利 t=60

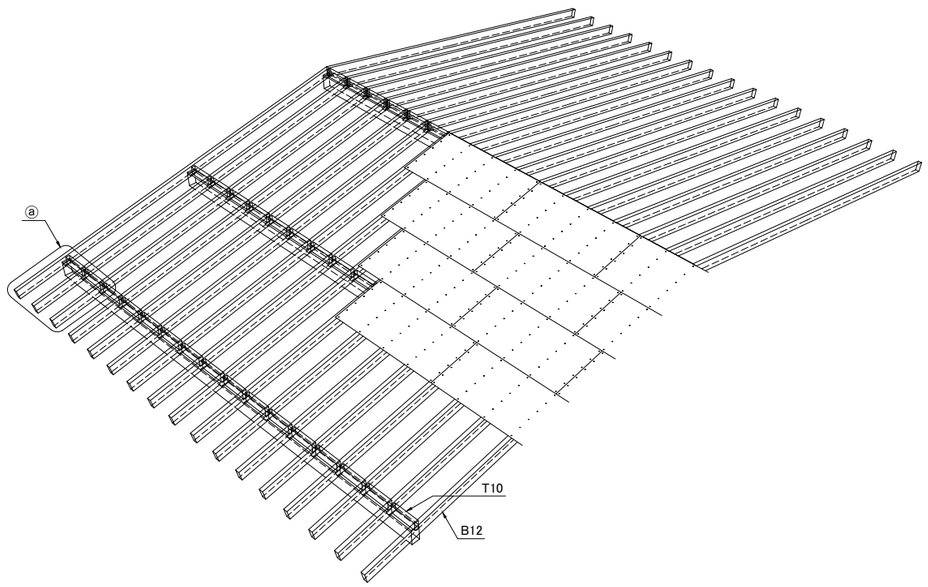
符号	版厚	位置	X方向	Y方向	備考
FS30	300	上端筋	D13−@200	D13−@200	
		下端筋	D13−@200	D13−@200	
		上端筋			
		下端筋			
		上端筋			
		下端筋			

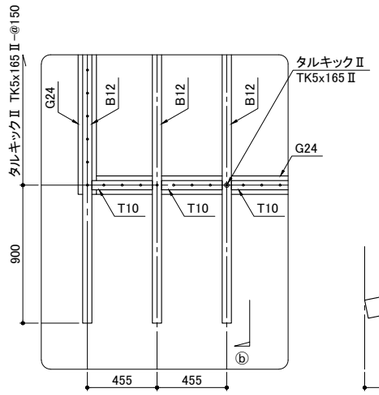
木部材リスト

特記なき限り 1. 合板を除く木部材は、集成材とする
2. 可能な限り南九州産材を用いること
変更する場合は、監理者の許可を得ること
3. 既成金物は、カネシン製の金物又は短期許容耐力が同等以上の金物とする
4. 構造用ビスは、シネジック社製または短期許容耐力が同等以上の金物とする

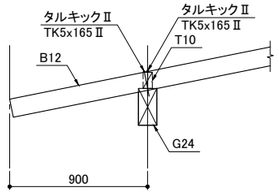
部位	符号	部材	材料	接合金物	備考
柱	C1	■−120x120	スギ同一等級 E65−F255	柱脚・柱頭金物 RP−10	
土台	D1	■−120x120	ヒノキ製材 E90	土台継手金物 PS−DJSU	継手部は、PS−DJSUにより緊結すること
梁	G48	■−120x480	スギ対称異等級 E65−F225	梁受け金物 PS−33SU	
	G24	■−120x240	スギ対称異等級 E65−F225	梁受け金物 PS−18SU	
	G18	■−120x180	スギ対称異等級 E65−F225	梁受け金物 PS−18SU	
	G15	■−120x150	スギ対称異等級 E65−F225	梁受け金物 PS−10SU	
垂木	B12	■−60x120−@455	スギ製材 (無等級)	垂木緊結金物 タルキックⅡ TK5x165Ⅱ	X1, X2+850, X3, X5, X9, X13, X17, X21の梁上の垂木は、TK5×165Ⅱ−@150で緊結すること その他の垂木は、横架材との交差部で交差箇所ごとに一点ビスにより緊結すること
転び止め	T10	■−60x105	スギ製材 (無等級)	垂木緊結金物 タルキックⅡ TK5x165Ⅱ	各部材は、TK5x165Ⅱ 3本で横架材に緊結すること
非構造部材	BF	■−60x120−@455	スギ製材 (無等級)	直行梁接合金物 ネダノット ND5−70	構造用合板と3点でビスで緊結し、直交する垂木と斜めうち2本で緊結すること
	F30	■−120x300	スギ対称異等級 E65−F225	梁緊結金物 パリネードS PS8−230	重ねた梁は、PS8−L230−@455 交互に30° 打ちにより緊結すること 梁受金物は、不要とする
	F18	■−120x180	スギ対称異等級 E65−F225	梁緊結金物 パリネードS PS8−230	重ねた梁は、PS8−L230−@455 交互に30° 打ちにより緊結すること 梁受金物は、不要とする
	F12	■−120x120	スギ対称異等級 E65−F225	梁緊結金物 パリネードS PS8−230	重ねた梁は、PS8−L230−@455 交互に30° 打ちにより緊結すること 梁受金物は、不要とする
	PF12	■−120x120	スギ製材 (無等級)	垂木緊結金物 タルキックⅡ TK5x165Ⅱ	下端を TK5x165Ⅱ 2本斜め打ちにより梁と緊結、 上端をTK5×165 Ⅱで垂木と緊結、TK5×165 Ⅱ 斜め打ちにより左右それぞれの転び止めと緊結すること
壁	W4	12mm構造用合板 片面張り、大壁仕様	2級 特類	面材釘打ち仕様 CN50釘−@75(中通@150)	告示1100号 別表第2(2)項 壁倍率3.7倍
	W1	12mm構造用合板 片面張り、大壁仕様	2級 特類	面材釘打ち仕様 CN50釘−@300	構造用合板を張り継ぐ位置･開口を設ける場合は境界部に、受け材:■−120×120スギ製材(無等級材)を梁受金物PS−10SUを用いて設けること
屋根	S1	24mm構造用合板	2級 特類	面材釘打ち仕様 CN65釘−@150	455mmピッチで配置された垂木に横置き(合板長編方向が垂木軸方向に直交するように配置)して川型で釘打ちすること 垂木と横架材、転び止めと横架材は指定された通り緊結すること。 床倍率2.0倍相当(短期許容せん断耐力:3.9kN/m)

屋根構成図



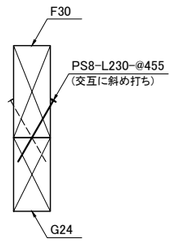


Detail.ⓐ 1/40

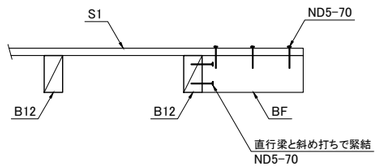


Section.ⓑ 1/40

F30・G24 構成図 1/20



F6 構成図 1/20

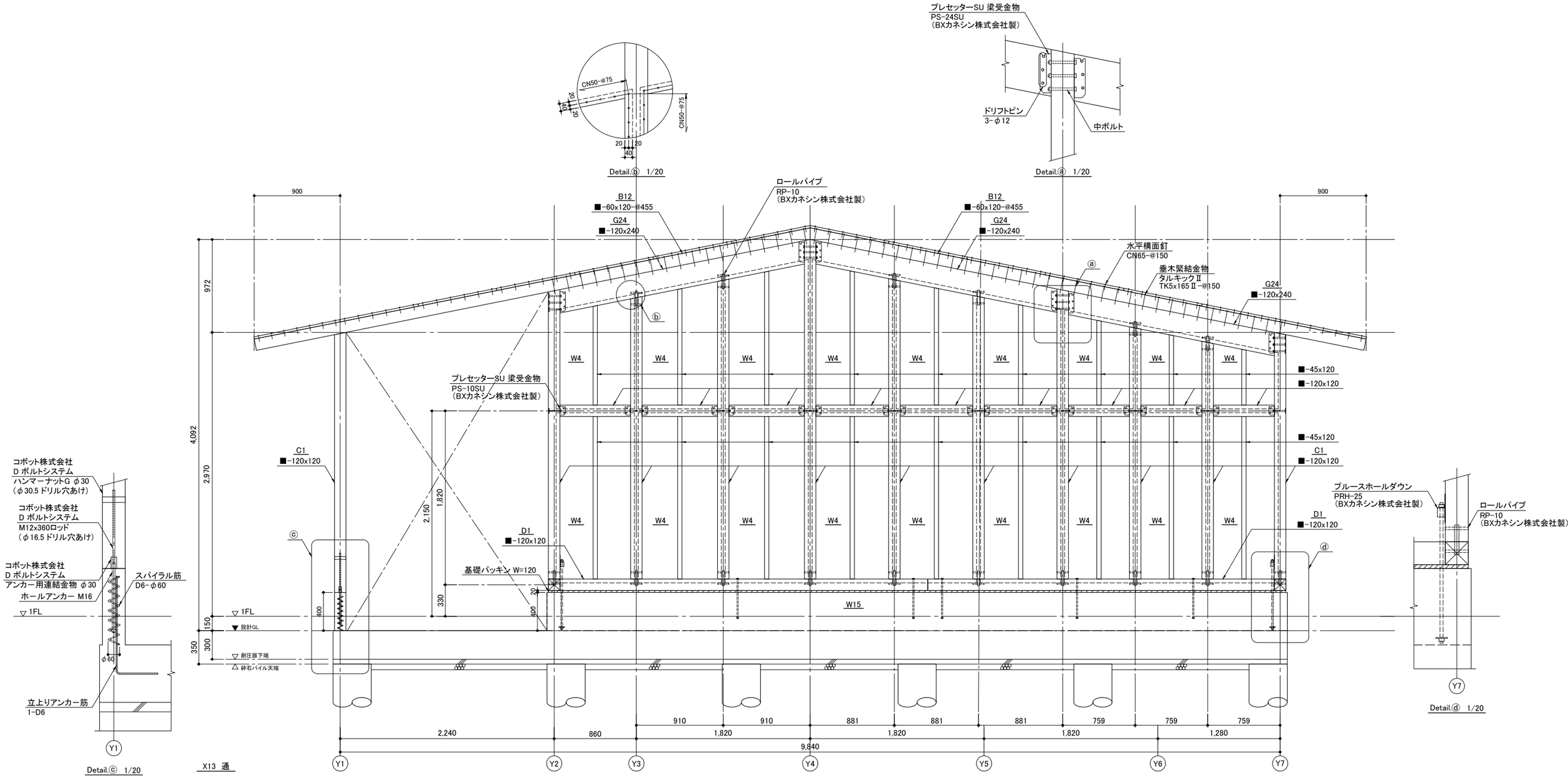


MARU。architecture
有限会社マル・アーキテクチャ 一級建築士事務所 東京都知事登録第59575号
高野 洋平 一級建築士国土交通大臣登録第329238号
株式会社Dai建築DESIGN 一級建築士事務所 鹿児島県知事登録第1-6-1号
松葉瀬忠夫 一級建築士国土交通大臣登録第141001号
ARUP
オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 一級建築士事務所 東京都知事登録第35571号
富岡 良太 一級建築士登録第355621号 構造設計一級建築士登録第10495号
菅 健太郎 一級建築士登録第318575号 設備設計一級建築士登録第4096号
向井 一将 一級建築士登録第328591号 設備設計一級建築士登録第4451号

Project Title	Client	Name of Drawing	Scale	Architect / Drawn by / Checked by	Date	
教8-18末吉小放課後児童クラブ施設改築本体工事	曽於市	部材リスト	A1:1/40 A3:1/80		2026.10.09	S-041

木架構詳細図　1/40

特記なき限り
1. アンカーボルト材質　SS400
2. アンカーボルト長さ　L=22.5d
3. 金物は、下記詳細図記載の金物又は短期許容耐力が同等以上の金物とする
4. 既成金物は全て専用金物を使用し、専用ビス・ドリフトピン等を用いて取り付けること



MARU。architecture
有限会社マル・アーキテクチャ
一級建築士事務所
東京都知事登録第59575号
高野 洋平
一級建築士国土交通大臣登録
第329238号

株式会社Da建築DESIGN
一級建築士事務所
鹿児島県知事登録第1-6-1号
松葉瀬忠夫
一級建築士国土交通大臣登録
第141001号

ARUP
オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド
一級建築士事務所
東京都知事登録第35571号
富岡 良太
一級建築士登録第355621号
構造設計一級建築士登録
第10495号
菅 健太郎
一級建築士登録第318575号
設備設計一級建築士登録
第4096号
向井 一将
一級建築士登録第328591号
設備設計一級建築士登録
第4451号

Project Title	Client	Name of Drawing	Scale	Architect	Date	
教8-18末吉小放課後児童クラブ施設改築本体工事	曽於市	木架構詳細図	A1:1/20 A3:1/40	Drawn by Checked by	2026.10.09	S-051